3-867-865-**08** (4)

SONY

Video Cassette Recorder

WV-DR5

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

操作の前に別冊の「接続と準備」をご覧ください。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書および別冊の「接続と準備」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

必ずお読みください

大切な録画の場合は

必ず事前にためし録りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません

本機やテープなどを使用中、万一これらの不具合により録画・録音されなかった場合の録画内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

- 録画するとき
  著作権保護のための信号が記録されているソフトを録画すると、テレビ画面に警告が表示され、録画が停止します。
  著作権保護のための信号が記録されている放送を予約録画すると、録画動作は行われますが、映像・音声信号は記録されません。
  別売りのデジタルCSチューナーで番組をご視聴の場合、番組に録画防止機能（コピーガード）がついている場合があります。この場合、番組によっては録画できないものがありますので、ご注意ください。
- 再生するとき
  著作権保護のための信号が記録されているソフトを本機で再生して他機で録画する場合、記録が制限されることがあります。
- あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

次のようなことはできません

ー市販のビデオソフト/レンタルビデオの編集・ダビング

ーDVとVHSで同時に同じ外部入力を録画する
ーDVとVHSで同時にBS放送を録画する
ーDVとVHSで同時にテレビ放送を録画する
ーBS放送の録画中に別のBS放送を見る・録画する
ーテレビ放送の録画中に別のテレビ放送を見る・録画する
ーi DV入力/出力端子からテレビ放送やBS放送、入力端子につないだ機器の信号、VHSの再生信号などを出力する
ーi DV入力/出力端子につないだ機器からVHSに録画する
ーi DV入力/出力端子と、i.LINK対応デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのi.LINK端子をつないで録画する・再生する

この商品の価格には、「私的録画補償金」が含まれております。補償金は、著作権法で権利保護のため権利者に支払われることが定められています。
私的録画補償金の問い合わせ先
〒107-0052
東京都港区赤坂5丁目3番6号赤坂メディアビル
社団法人　私的録画補償金管理協会
TEL　03-3560-3107（代）
FAX　03-5570-2560
なお、あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

目次

操作の前に別冊の「接続と準備」をお読みください。

ここだけ読んでも使えます

再生

録画・予約

お帰りなサーチ（VHSのみ）

編集

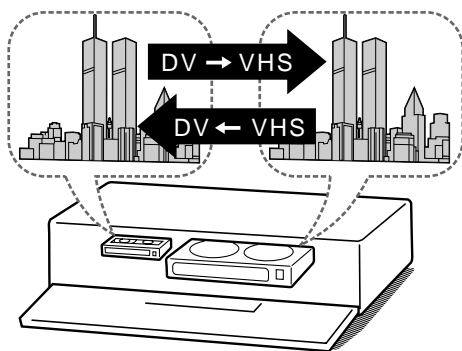
他機をつないで行う操作

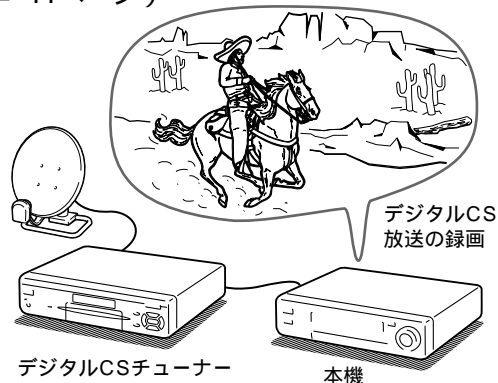
その他

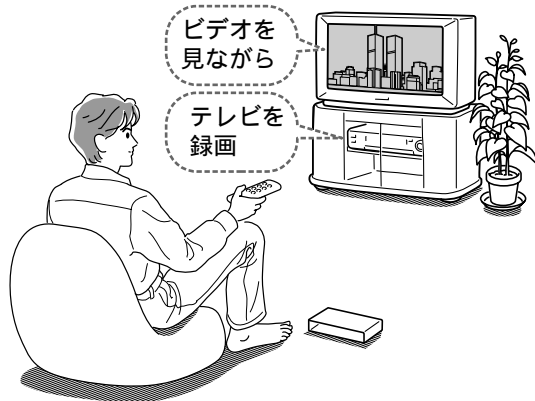
この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。

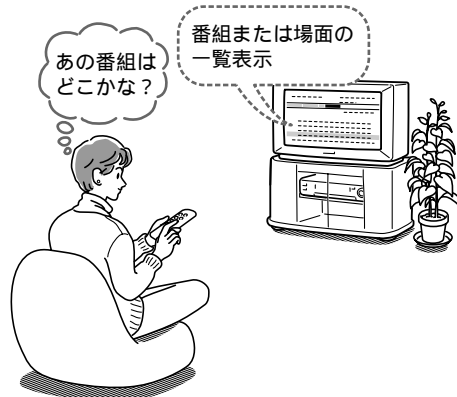
主な特長

本機は、デジタルビデオ（DV）とVHSビデオの2つのデッキがひとつになったダブルビデオです。使いたいデッキをボタンひとつで選んで操作できます。

接続なしで簡単にダビング・編集できる

- おまかせダビング（☞20ページ）
- テープの途中からダビング（☞22ページ）
- 好きな場面だけつないで編集（☞53ページ）

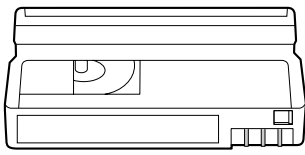
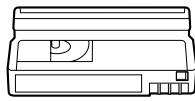
別売りのデジタルCSチューナーから録画できる（☞41ページ）

- 長時間の番組を、VHSテープからDVテープに続けて録画できる（デジタルCSリレー録画）（☞43ページ）

2つのデッキを同時に使える

- 片方のデッキを使用中に、もう片方のデッキでビデオを見る（☞7ページ）・録画する（☞11ページ）・予約する（☞14ページ）

場面の頭出しができる

- 番組の一覧表示を使って頭出しする（お帰りなサーチ、VHSのみ）（☞45ページ）
- 録画した内容を、テープ4本ぶん保存（マイテープメモリー、VHSのみ）（☞48ページ）
- 場面の一覧表示を使って頭出しする（カセットメモリーのあるDVテープのみ）（☞28ページ）

DVデッキでできること

DVデッキでは、画像や音声をデジタル信号によって記録・再生します。高画質・高音質を楽しむことができます。

DV・ミニDVの2種類のカセットを使える

DVカセット

ミニDVカセット

- デジタルビデオカメラで撮影したミニDVカセットの映像を、本機で再生する

タイトルを入れられる
（カセットメモリーのあるDVテープのみ）

- 好きな場面にタイトルを入れる **（☞56ページ）**
- カセットになまえを付ける **（☞59ページ）**

さらにこんなことができます。

- **内蔵のBSチューナー**でBS放送の視聴および録画 **（☞8ページ）**
- **リモコンの表示窓で予約（☞12ページ）**
- G**コード予約（☞16ページ）**
- **ピッタリ録画**でテープ残量を判断し、自動的に録画モードを3倍に切り換え（VHSのみ）**（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）**
- CM**カット**で録画中にCMとばし **（☞40ページ）**
- CM**早送り**で再生中にCMとばし **（☞24ページ）**
- リモコンで各社のテレビを操作 **（☞別冊「接続と準備」の「リモコンで各社のテレビを操作する」）**
- **ジャストクロック**で時計を自動調節 **（☞別冊「接続と準備」の「手順8：時計を合わせる」）**
- **シンクロ録画**で番組予約機能がある機器（デジタルCSチューナーやCATVチューナーなど）から予約録画 **（☞42ページ）**
- **録画情報（日付・時刻・チャンネルなど）**の確認（DVのみ）**（☞36ページ）**
- **i.DV入力/出力端子**を使ってデジタル編集（DVのみ）**（☞67ページ）**

ビデオを見る

DVデッキでは、DVまたはミニDVのビデオテープを再生して見ることができます。
VHSデッキでは、S-VHSまたはVHSのビデオテープを再生して見ることができます。ただし、S-VHS本来の解像度は得られません（簡易再生）。

カセット取出し⏏開/閉ボタン

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。
DVカセットを入れるには、カセット取出し⏏開/閉ボタンを押します。
ミニDVカセットを入れると、ビデオ本体の表示窓に「Mini」が表示されます。

ミニDV カセット

VHSカセット

DVカセット

3 **DVまたはVHSボタンを押して、再生するデッキを選ぶ。**

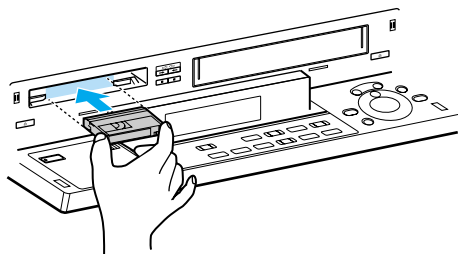
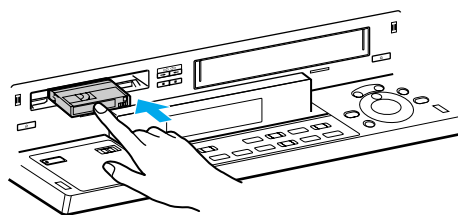
4 **再生▷ボタンを押す。**

⚠注意

小さなお子様がカセット挿入口に手を入れないようにご注意ください。けがをすることがあります。

DVカセットの入れかた

1 カセット取出し⏏開/閉ボタンを押す。
DVカセット挿入口のとびらが開きます。

2 カセットを入れる。
ミニDVカセットを入れるときは、DVカセット挿入口の橙色のしるしに合わせて、まっすぐ入れます。

3 カセットの中央部分を押して、入れる。
カセットが自動的に引き込まれ、DVカセット挿入口のとびらが閉まります。
引き込みが始まったら、カセットから手を離します。

カセットを取り出すには、カセット取り出し⏏開/閉ボタンを押します。
DVカセット表示が点滅し、カセットが出ます。

再生を止めるには

停止■ボタンを押します。

再生を一時停止するには

一時停止❚❚ボタンを押します。
もう一度押すか5分以上たつと、再生に戻ります。

巻き戻し・早送りするには

停止中に巻戻し◀◀/⏪ボタンまたは早送り▶▶/⏩ボタンを押します。
巻き戻し中または早送り中にもう一度押すと、押している間、画像が見られます。

カセットを取り出すには

カセット取出し⏏ボタンを押します。

テープの頭から自動的に再生するには

停止中にビデオ本体の巻戻し◀◀/⏪ボタンを押しながら、再生▷ボタンを押します。テープの頭まで巻き戻り、自動的に再生が始まります（オートプレイ）。

DVとVHSを同時に使うには

片方のデッキを使用中に、もう片方のデッキでビデオを見られます。手順**3**で使用していないデッキを選んでください。

DVテープの使用後は

テープを始めまで巻き戻して、ケースに入れた上で立てて保管するようにしてください。巻き戻さないで放置すると、画像や音声が乱れる原因となることがあります。

ちょっと一言

- ツメの折れたVHSカセットを入れると、自動的にVHSデッキが選ばれ再生が始まります。
- 二か国語放送などの音声を切り換えるには、音声切換ボタンを押します（☛30ページ）。

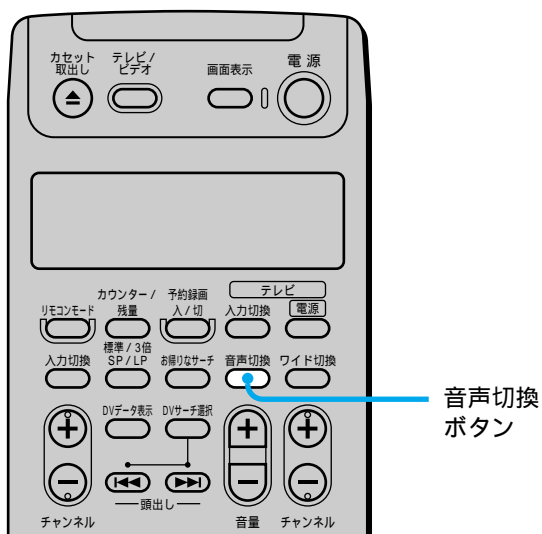
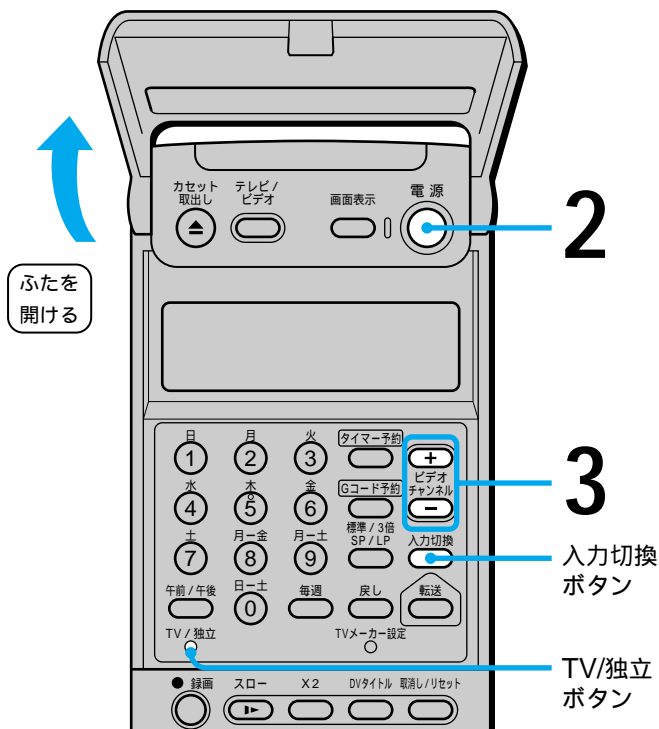
ご注意

- カセット挿入口にDV、ミニDVまたはVHSカセット以外のものを入れないでください。故障の原因になります。
- 他機のLPモードで録画したDVテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音がとぎれることがあります。また、テープカウンターまたはタイムコード、頭出し信号などが読みとれないことがあります。
- S-VHS ET方式で録画したテープを再生すると、ノイズが出ることがあります。

こんなときは

- **リモコンで操作できない。**
  →リモコンモードを確認してください
  （☛別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。

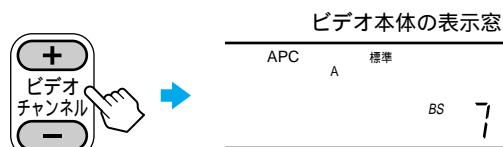
BSを見る

このビデオにはBSチューナーが内蔵されています。別売りのBSアンテナにつなげば、テレビにBSチューナーがなくてもBS放送が楽しめます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **電源スイッチを押して、ビデオの電源を入れる。**

3 **ビデオチャンネル+/−ボタンを押してチャンネルを選ぶ。**

＋ボタンを押すたびに次のように切り換わります。

VHF/UHFチャンネル（CH1、CH3、…）→BSチャンネル（BS1、BS3、…）→入力1（L1）→入力2（L2）→DV入力（DV：DVのみ）

ちょっと一言

- 二か国語放送などの音声を切り換えるには、音声切換ボタンを押します（☞30ページ）。
- 入力切換ボタンを押してBS放送に切り換えることもできます。押すたびに次のように切り換わります。
VHF/UHFチャンネル→BSチャンネル→入力1→入力2→DV入力（DVのみ）
- TV/独立ボタンを押すと、独立音声が聞けます。ボールペンなどの先で押してください。

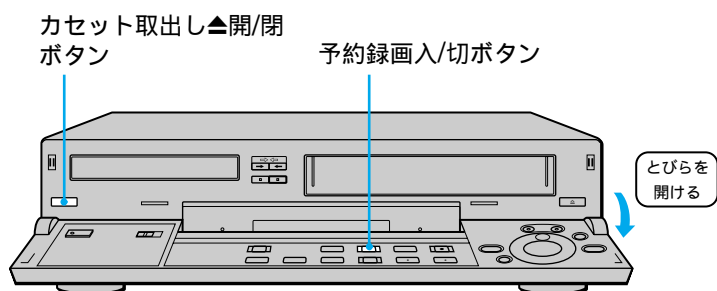
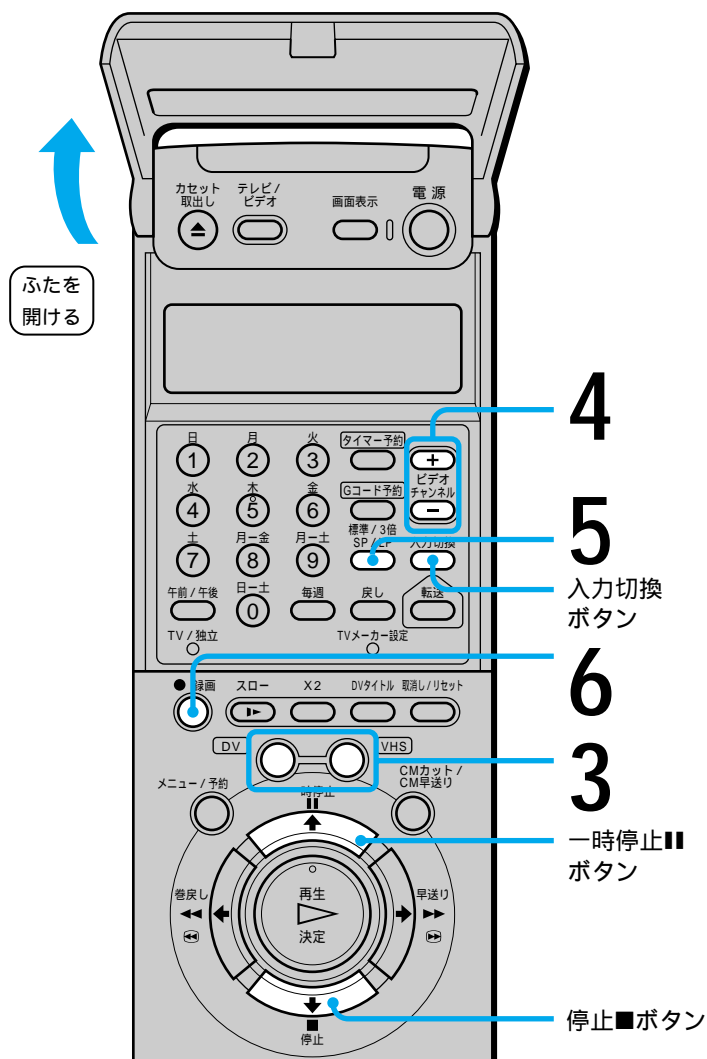
ご注意

- 次のときはデコーダーで音声を切り換えてください。
ー St.GIGAを聞くとき
ー WOWOWの音声多重放送のとき

こんなときは

- **BS放送が映らない。**
→BSアンテナを正しくつないでください（☞別冊「接続と準備」の「手順**3**：アンテナとテレビにつなぐ」、「手順**4**：BSアンテナをつなぐ」）。
→BSアンテナの向きを正しく合わせてください（☞別冊「接続と準備」の「手順**4**：BSアンテナをつなぐ」）。
- **リモコンで操作できない。**
→リモコンモードを確認してください（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。

録画する

テレビで見ている番組を録画したり、裏番組を録画したりできます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

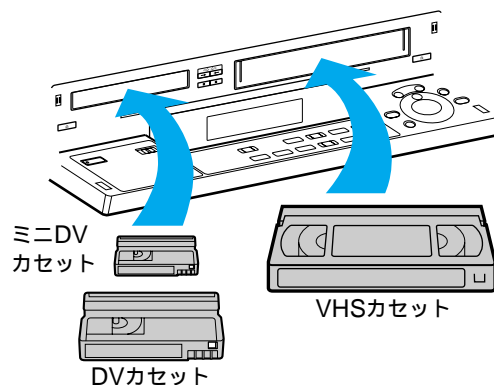
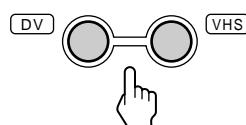
2 **カセットを入れる。**

ビデオの電源が自動的に入ります。

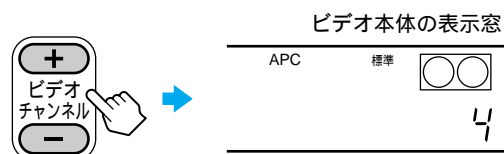
DVカセットを入れるには、カセット取出し⏏開/閉ボタンを押します。

ミニDVカセット

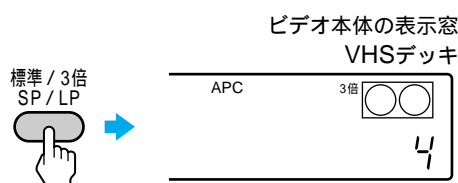
VHSカセット

DVカセット

3 **DVまたはVHSボタンを押して、録画するデッキを選ぶ。**

4 **ビデオチャンネル+/−ボタンを押して録画するチャンネルを選ぶ。**

＋ボタンを押すたびに次のように切り換わります。

VHF/UHFチャンネル（CH1、CH3、…）→BSチャンネル（BS1、BS3、…）→入力1（L1）→入力2（L2）→DV入力（DV：DVのみ）

5 標準/3倍・SP/LPボタンを押して、録画モードを選ぶ。

長時間録画したいときは、ビデオ本体の表示窓に「3倍」または「LP」を出します。
VHSの画質は「標準」の方が優れています。

	標準	長時間
VHSテープ	標準	3倍（標準の3倍長く録画できる）
DV/ミニDVテープ	SP	LP（SPの1.5倍長く録画できる）

6 録画●ボタンを押す。

このあとテレビの電源を切っても、録画に影響はありません。

● 録画

録画中に裏番組を見るには

テレビの入力を「テレビ」に切り換えて、テレビのチャンネルを選びます。録画に影響はありません。

録画を止めるには

停止■ボタンを押します。

録画を一時停止するには

一時停止❚❚ボタンを押します。録画一時停止が5分以上続くと自動的に停止します。

録画中に録画を止めるまでの時間を決めるには

録画中に、30分単位で録画を止めるまでの時間を決めることができます（「決めた時間だけ録画する（クイックタイマー）」☞37ページ）。

録画中に録画●ボタンを押します。
押すたびに30分ずつ時間が増えます。時間は30分後（0:30）から6時間後まで選べます。
途中で録画を止めるには、予約録画入/切ボタンを押します。

DVとVHSを同時に使うには

片方のデッキを使用中に、もう片方のデッキで録画できます。手順**3**で使用していないデッキを選んでください。

ちょっと一言

- 本機の入力端子につないだ機器から録画するときは、手順**4**で入力切換ボタンを押して「L1」または「L2」を選ぶこともできます。
- 本機のi.DV入力/出力端子につないだ機器から録画するときは、手順**4**で入力切換ボタンを押して「DV」を選ぶこともできます（DVのみ）。
- 本機の入力1端子または入力2端子につないだ機器からDVデッキで録画するとき、音声記録モード（12ビット、16ビット）を選べます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- DVデッキでテレビやBS放送を録画すると、音声は自動的に16ビットで記録されます。
- DVテープに録画するとき、ビデオ本体の表示窓で音声記録モードを確認できます。

ご注意

- 数字ボタンでビデオのチャンネルは選べません。
- 本機のLPモードで録画したDVテープは、本機で再生することをおすすめします。他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音がとぎれることがあります。大切な録画をするときは、SPモードをお使いください。

こんなときは

- **録画●ボタンを押すと、カセットが出てくる。**
  →カセットのつまみが記録不可になっています。つまみを戻してください（DVテープ）（☞72ページ）。
  →カセットのツメが折れています。セロハンテープなどを貼ってツメの穴をふさいでください（VHSテープ）（☞72ページ）。
- **リモコンで操作できない。**
  →リモコンモードを確認してください（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。

タイマーで予約する

1か月先までの番組や、毎日または毎週の番組をタイマーで予約できます。それ以外に、Gコードを使った予約（☞16ページ）やテレビ画面を使った予約（☞38ページ）と合わせて、DVデッキ、VHSデッキそれぞれに6番組まで予約できます。

1 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。
DVカセットを入れるには、カセット取出し⏏開/閉ボタンを押します。

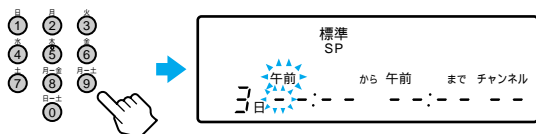
ミニDVカセット
VHSカセット
DVカセット

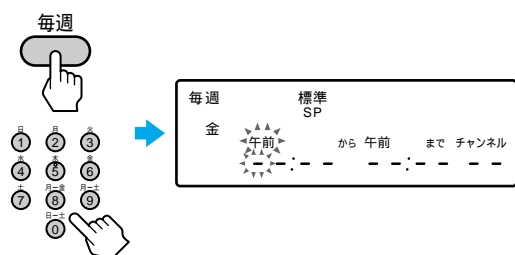
2 **DVまたはVHSボタンを押して、予約するデッキを選ぶ。**

3 **タイマー予約ボタンを押す。**

4 日付を入れる。

- **日付を入れるには**

数字ボタンで日付を2桁で入れます。
3日は03を押します。

- **毎週または毎日同じ番組を予約するには**

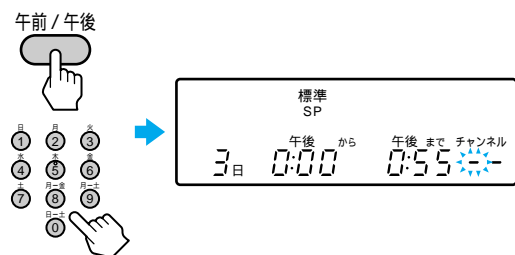
毎週ボタンを押してから、数字ボタンで曜日を入れます。
毎週金曜は毎週ボタンのあと6（金）を押します。

- **間違えたときは**

戻しボタンを押して戻ります。

- **途中でやめるときは**

タイマー予約ボタンを押します。

5 録画開始時刻と録画終了時刻を入れる。

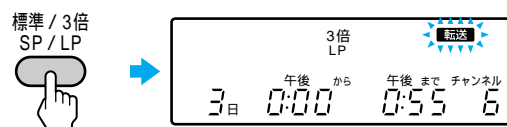
午前/午後ボタンで「午前」または「午後」を選んでから、数字ボタンで時刻を入れます。
午後8時30分は「午後」を選び、0830を押します。
昼の12時は「午後」を選び、0000を押します。
夜の12時は「午前」を選び、0000を押します。

6 数字ボタンでチャンネルを2桁で入れる。

6チャンネルは06を押します。
チャンネルはビデオチャンネル＋/－ボタンで選ぶこともできます。＋ボタンを押すたびに次のように切り換わります。
VHF/UHFチャンネル（1、2、…）→ BSチャンネル（BS1、BS3、…）→入力1（L1）→ 入力2（L2）

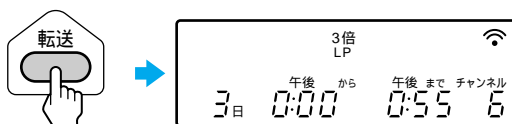
リモコンの「転送」表示が点滅し、予約内容を転送できる状態になります。

- **本機の入力端子につないだ機器を予約するには**

入力切換ボタンで「L1」または「L2」を選びます。

7 標準/3倍・SP/LPボタンで録画モード（VHSは標準または3倍、DVはSPまたはLP）を選ぶ。

8 リモコンをビデオ本体に向けて、転送ボタンを押す。

「ピー」と鳴って、ビデオ本体に予約内容が送られます。ビデオ本体に、予約内容（日付、開始/終了時刻、チャンネル番号、CMカット設定）が表示され、予約待機になります。

次のページにつづく

予約録画中に録画を止めるには

予約録画入/切ボタンを押します。

予約待機中にビデオを使うには

予約の入っていないデッキは、デッキを選んでそのまま使えます。
予約が入っているデッキを使うときは、DVまたはVHSボタンを押して予約の入っているデッキを選び、予約録画入/切ボタンを押してビデオ本体の予約録画ランプを消します。この状態でビデオが使えます。予約開始時刻になる前に、予約用のカセットを入れて、DVまたはVHSボタンを押して予約するデッキを選び、予約録画入/切ボタンを押してください（ビデオ本体の予約録画ランプが点灯）。

DVとVHSを同時に使うには

片方のデッキを使用中でも、もう片方のデッキに予約を入れることができます。

ちょっと一言

- 次の日にまたがる番組は、開始する日付はそのままで終了時刻を合わせます。終了時刻は自動的に次の日に設定されます。
- CMカットを設定して予約できます（☛40ページ）。
- カセットが入っているときは、ビデオ本体の電源が切れていても予約できます。手順**2**から操作してください。

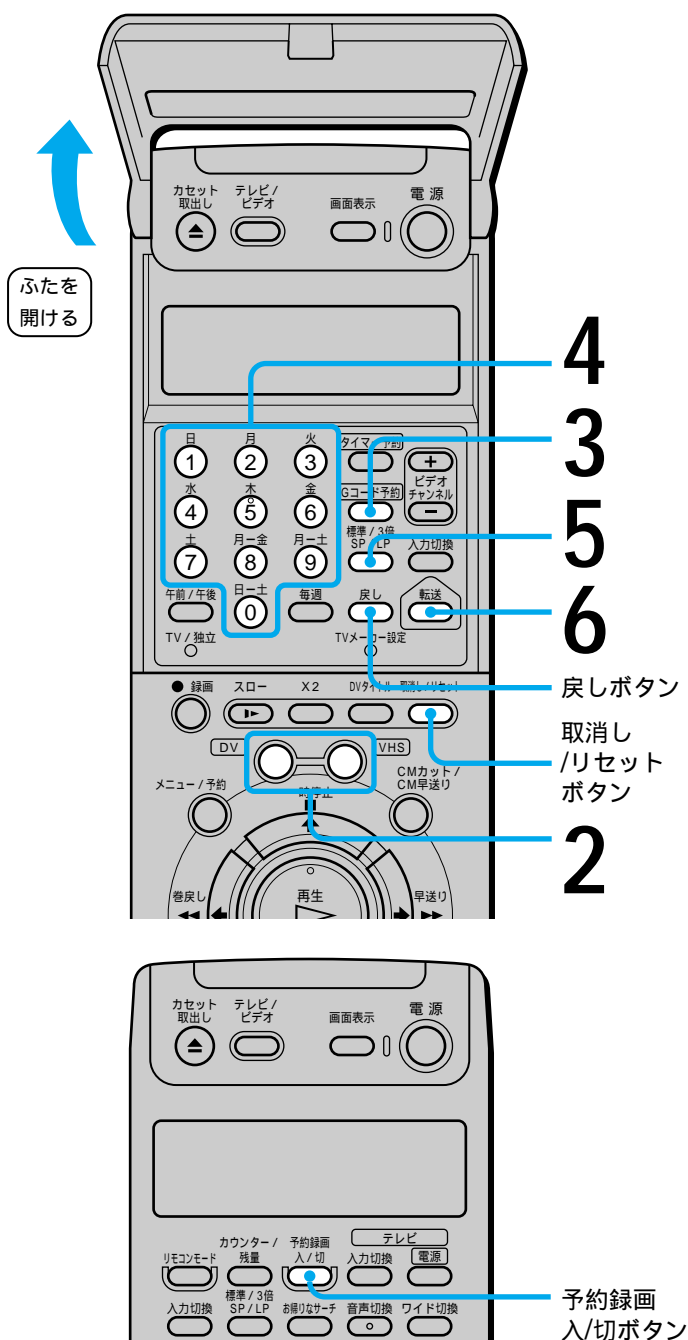
ご注意

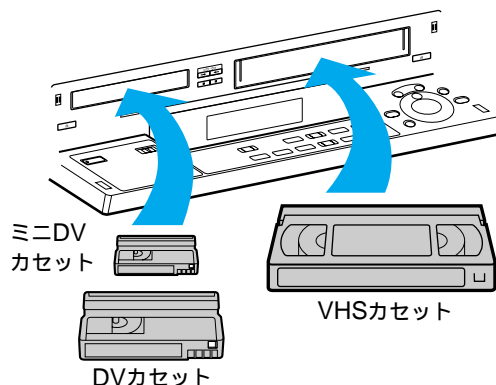
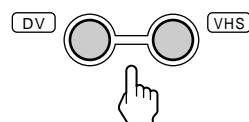
- 次の場合、手順**8**で「ピピピ」と鳴ります。
  ー 選んだデッキにすでに6番組が予約されているとき
  ー 存在しない日付けを設定したとき
- 本機のi.DV入力/出力端子につないだ機器の予約はできません。

こんなときは

- **手順8で転送ボタンを押したあと、カセットが出てくる。**
  →カセットのつまみが記録不可になっています。つまみを戻してください（DVテープ）（☞72ページ）。
  →カセットのツメが折れています。セロハンテープなどを貼ってツメの穴をふさいでください（VHSテープ）（☞72ページ）。
- **予約したのに録画されていない。**
  →ビデオの時計で日付と時刻を正しく合わせてください（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。
- **タイマー予約ボタンを押してもリモコンの表示が出ない。**
  →リモコンの乾電池が消耗しています。2個とも新しい乾電池に交換してください（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
- **リモコンで操作できない。**
  →リモコンモードを確認してください（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。

Gコードで予約する

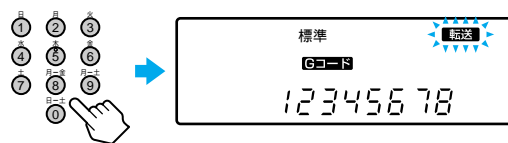
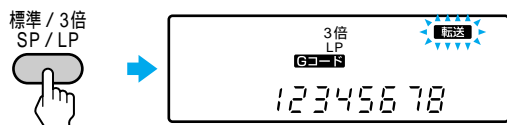
新聞や雑誌のテレビ欄に掲載されているGコードを使う予約録画です。予約したい番組の日時とチャンネルを自動的に設定できます。他の予約と合わせて、DVデッキ、VHSデッキそれぞれ6番組まで予約できます。

1 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。
DVカセットを入れるには、カセット取出し⏏開/閉ボタンを押します。

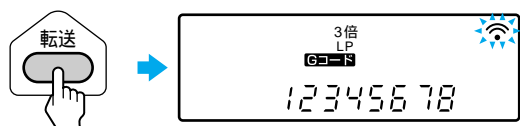
ミニDVカセット
VHSカセット
DVカセット

2 DV**または**VHS**ボタンを押して、予約するデッキを選ぶ。**

3 G**コード予約ボタンを押す。**

4 **数字ボタンを押して、**G**コードの番号を入れる。**

- **間違えたときは**
  – 戻しボタンを押すと1つ前の桁に戻ります。
  – 取消し/リセットボタンを押すとすべての番号が消えます。

  正しい番号を入れ直します。

例：Gコードが「12345678」のとき

5 標準/3倍・SP/LPボタンで録画モード（VHSは標準または3倍、DVはSPまたはLP）を選ぶ。

6 リモコンをビデオ本体に向けて、転送ボタンを押す。

「ピー」と鳴って、ビデオ本体に予約内容が送られます。ビデオ本体に、予約内容（日付、開始/終了時刻、チャンネル番号、CMカット設定）が表示され、予約待機になります。

- **取り消したいとき、または途中で止めるときは**
  Gコード予約ボタンを押します。
- **続けて予約するときは**
  手順**3**から繰り返します。

予約を確認・変更・取り消すには

「予約を確認する・変更する・取り消す」（☞18ページ）をご覧ください。

本機の入力端子につないだ機器をGコードで予約するには

「本機の入力端子につないだ機器をGコードで予約するには」（☞別冊「接続と準備」の「Gコード予約できる放送局を追加する」）にしたがって、つないだ機器のGコードを設定しておきます。

ちょっと一言

- CMカットを設定して予約できます（☞40ページ）。
- カセットが入っているときは、ビデオ本体の電源が切れていても予約できます。手順**2**から操作してください。

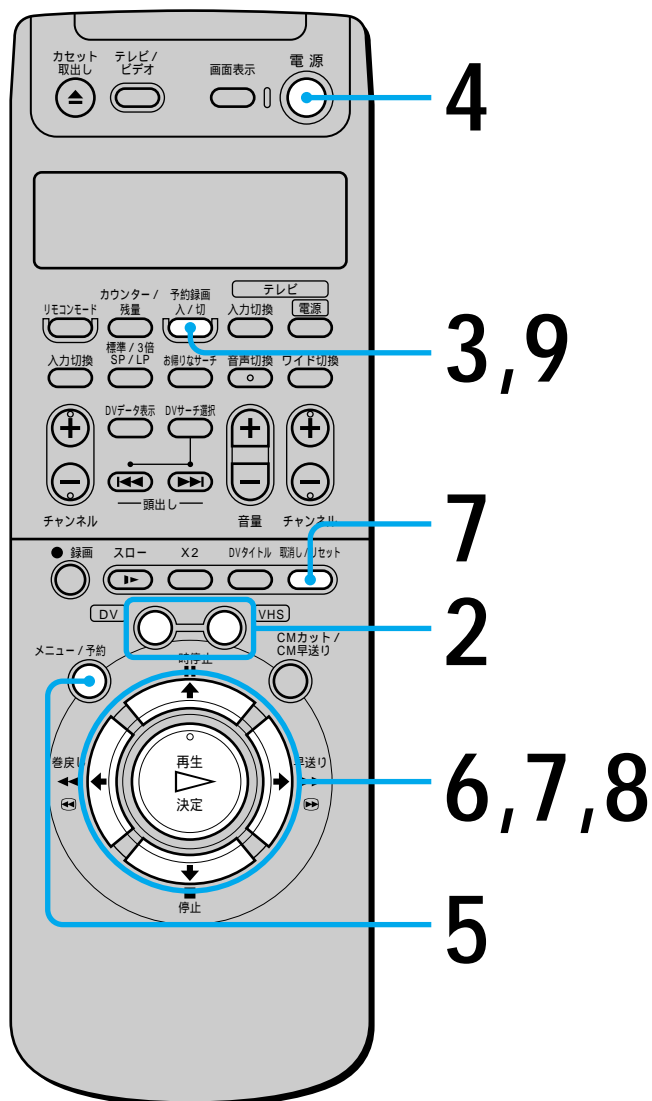
ご注意

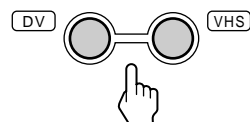
- Gコード予約中に3分以上ボタンを押さないと、リモコン表示窓のGコード表示が消えます。
- 次の場合、手順**6**で「ピピピ」と鳴ります。
  - Gコードを間違えて入れたとき
    （手順**3**からやり直してください）
  - 選んだデッキにすでに6番組が予約されているとき
  - 時計が正しく合っていないとき
    （年、月、日も確認してください ☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）
- Gコード予約は、番組の放送時間の変更には対応できません。したがってスポーツ中継の延長などで放送時間が変わっても、あらかじめ設定された時間どおりに録画されます。

こんなときは

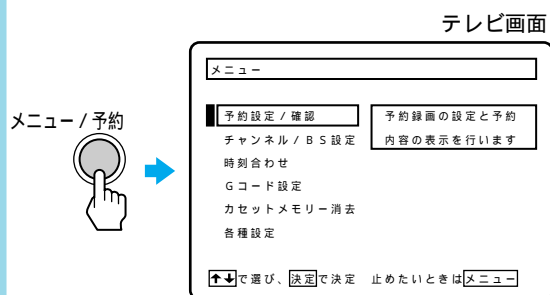
- **手順6で転送ボタンを押したあと、カセットが出てくる。**
  →カセットのつまみが記録不可になっています。つまみを戻してください（DVテープ）（☞72ページ）。
  →カセットのツメが折れています。セロハンテープなどを貼ってツメの穴をふさいでください（VHSテープ）（☞72ページ）。
- **予約したのに録画されていない。**
  →ビデオの時計で日付と時刻を正しく合わせてください（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。
- **Gコード予約ボタンを押してもリモコンの表示が出ない。**
  →リモコンの乾電池が消耗しています。2個とも新しい乾電池に交換してください（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
- **リモコンで操作できない。**
  →リモコンモードを確認してください（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。

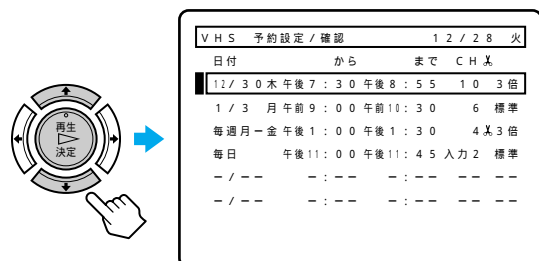
予約を確認する・変更する・取り消す

テレビ画面を使って、予約の確認、変更、取り消しができます。

1 テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。

2 DVまたはVHSボタンを押して、予約の入っているデッキを選ぶ。

3 予約録画入/切ボタンを押して、ビデオ本体の予約録画ランプを消す。

4 電源スイッチを押して、ビデオの電源を入れる。

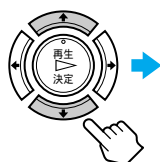
5 メニュー/予約ボタンを押す。

テレビ画面

6 ↑/↓で「予約設定/確認」を選び、決定ボタンを押す。

7

- **予約を確認するには**

  予約の内容がテレビ画面に表示されています。確認してください。

- **予約を変更するには**

  1 ↑/↓で変更する予約内容を選ぶ。

VHS 予約設定／確認				12／28 火
日付	から	まで	CH	✂
12／30木	午後7：30	午後8：55	10	3倍
1／3 月	午前9：00	午前10：30	6	標準
毎週月ー金	午後1：00	午後1：30	4	✂3倍
毎日	午後11：00	午後11：45	入力2	標準
－／－－	－：－－	－：－－	－－	－－
－／－－	－：－－	－：－－	－－	－－

  2 ←/→で変えたい項目を選び、↑/↓で変更する。

- **予約を取り消すには**

  ↑/↓で取り消す内容を選び、取消し/リセットボタンを押す。

VHS 予約設定／確認				12／28 火
日付	から	まで	CH	✂
12／30木	午後7：30	午後8：55	10	3倍
1／3 月	午後0：00	午後0：55	6	3倍
毎週月ー金	午後1：00	午後1：30	4	✂3倍
－／－－	－：－－	－：－－	－－	－－
－／－－	－：－－	－：－－	－－	－－
－／－－	－：－－	－：－－	－－	－－

続けて別の予約を変更または取り消すときは手順**7**を繰り返します。

8

決定ボタンを押す。

メニューが消えます。

9

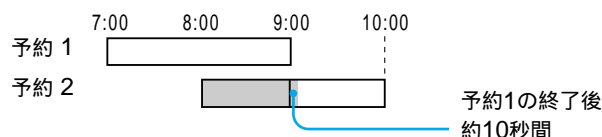
予約録画入/切ボタンを押す。

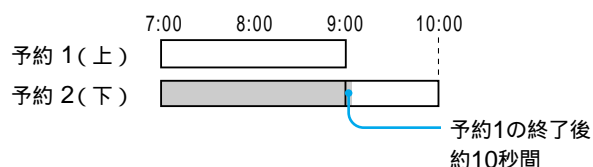
予約待機に戻ります。ただし、予約をすべて取り消した場合は予約録画入/切ボタンを押す必要はありません。

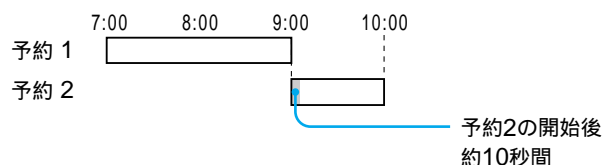
同じデッキで予約が重なったり連続したときは

　　で示した部分は録画しません。

予約時間帯が重なっているとき

先に始まる予約が優先されます。

予約開始時刻が同じとき

「予約設定/確認」画面で、上に表示される予約が優先されます。

一方の予約の終了時刻と、もう一方の予約の開始時刻が同じとき

後から始まる予約の最初の約10秒間が録画されません。

ちょっと一言

- 手順**7**の「予約を変更するには」の**2**でCMカットの設定（✂表示）を変更することができます。
  CMカットについてくわしくは、「CMをとばして録画する」（☞40ページ）をご覧ください。

こんなときは

- **リモコンで操作できない。**

  →リモコンモードを確認してください
  （☞別冊「接続と準備」の「手順2：リモコンを準備する」）。

ダビングする
（おまかせダビング）

- **著作権保護のため、市販のビデオソフトやレンタルビデオなどはダビングできません。**
- **VHSからDVにダビングするとき、ご自分で録画したVHSテープのツメが折れていると、自動的にカセットが出てきてダビングできません。**

自動的にテープが頭まで巻き戻され、最初から最後までダビングできます。終わるとテープが頭まで巻き戻され、カセットが出てきて、電源が切れます。
テープの途中からダビングしたいときは、☞22ページをご覧ください。
リモコンでは操作できません。

1 **両方のデッキにカセットを入れる。**
電源が自動的に入ります。
DVカセットを入れるには、カセット取出し⏏開/閉ボタンを押します。
VHSテープのツメが折れていないことを確認してください。折れているときはセロハンテープなどでふさいでください。

ミニDVカセット
VHSカセット
DVカセット

2 **DV➡/⬅VHSボタンを押して、ダビングの方向を選ぶ。**
大切な録画内容を消さないように、方向をしっかり確認してください。

DVからVHSへダビングするとき
点灯

VHSからDVへダビングするとき
点灯

3 録画モードを選ぶ。

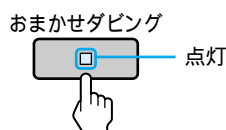
1 DVまたはVHSボタンを押して、 録画するデッキを選ぶ。

2 標準/3倍・SP/LPボタンを押して、録画モードを選ぶ。

- **長時間録画したいときは**
  ビデオ本体の表示窓に「3倍」または「LP」を出します。

ビデオ本体の表示窓

4 おまかせダビングボタンを押す。

両方のテープが自動的に頭まで巻き戻され、ダビングが始まります。どちらかのテープが終わると、自動的に両方のテープが頭まで巻き戻され、カセットが出てきて、電源が切れます。

ダビングを止めるには

停止■ボタンを押します。

ちょっと一言

- 操作中の画面表示は録画されません。
- 二か国語放送などを録画したテープをダビングするときは、あらかじめ再生し、リモコンの音声切換ボタンで音声を選んでおきます（☞30ページ）。
- 他機でアフレコしたテープをダビングするとき、ダビングしたい音声を選べます。ダビングを始める前に次の設定を行ってください。
  ーDVからVHSにダビングするときは、メニューの「各種設定」の「DV設定」で「音声ミックス調整」を設定します（☞31ページ）。
  ーVHSからDVにダビングするときは、メニューの「各種設定」の「VHS設定」で「音声ミックス」を設定します（☞32ページ）。
- DVテープにダビングするときは、音声記録モード（12ビット、16ビット）を選べます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- DVの録画情報を表示して、VHSにダビングすることができます。録画情報を表示するには、DVテープ再生中にDVデータ表示ボタンを押します（☞36ページ）。
- 次の場合は、画面表示が出ません。
  ー本機の出力1端子と、テレビまたは他機の入力端子をつないで、出力1切換スイッチを「ノーマル」以外にしたとき。
  画面表示が出ない状態でダビングしたいときに便利です。
  画面表示を出したいときは、元の接続や設定に戻してください。

ご注意

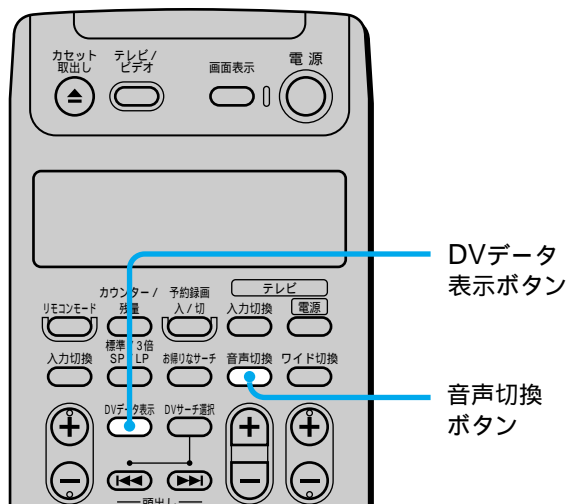
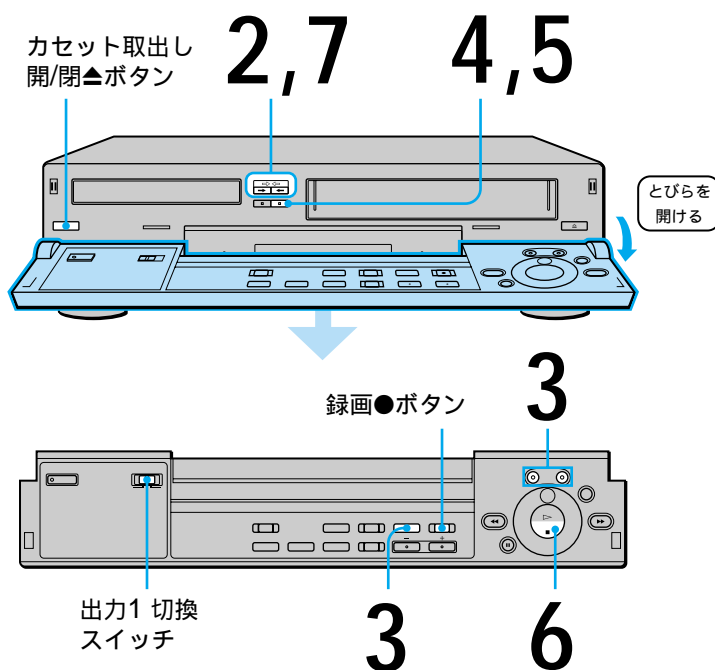
- ダビングしたテープの最初の部分の画像が乱れることがあります。
- テープの頭から録画されているテープ（マスターテープなど）をダビングすると、始めの数秒は映像や音声が欠けることがあります。
  マスターテープを作るときに、テープの頭に数秒間の無信号部分を記録してから録画を始めると、これを避けられます。

こんなときは

- **自動的にカセットが出てくる。**
  →コピーガード（録画防止機能）がついているビデオソフトです（DV・VHSテープ）。
  →カセットのつまみが記録不可になっています。つまみを戻してください（DVテープ）（☞72ページ）。
  →カセットのツメが折れています。セロハンテープなどを貼ってツメの穴をふさいでください（VHSテープ）（☞72ページ）。

テープの途中からダビングする

- **著作権保護のため、市販のビデオソフトやレンタルビデオなどはダビングできません。**
- VHS**から**DV**にダビングするとき、ご自分で録画した**VHS**テープのツメが折れていると、自動的にカセットが出てきてダビングできません。**

テープの好きなところからダビングを始め、好きなところで止めることができます。
リモコンでは操作できません。

1 **両方のデッキにカセットを入れ、ダビングを始める場面まで巻き戻し（または早送り）しておく。**

VHSテープのツメが折れていないことを確認してください。折れているときはセロハンテープなどでふさいでください。
カセットを入れると、電源が自動的に入ります。
DVカセットを入れるには、カセット取出し⏏開/閉ボタンを押します。

2 DV➡/⬅VHS**ボタンを押して、ダビングの方向を選ぶ。**

大切な録画内容を消さないように、方向をしっかり確認してください。

DVからVHSへ
ダビングするとき
点灯
DV ⇨ ⇦VHS

VHSからDVへ
ダビングするとき
点灯
DV ⇨ ⇦VHS

3 **録画モードを選ぶ。**

1 DV**または**VHS**ボタンを押して、録画するデッキを選ぶ。**

2 **標準/3倍・**SP/LP**ボタンを押して、録画モードを選ぶ。**

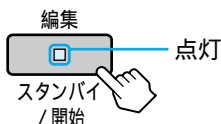
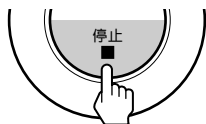
- **長時間録画したいときは**
  ビデオ本体の表示窓に「3倍」または「LP」を出します。

ビデオ本体の表示窓

4 **編集スタンバイ/開始ボタンを押す。**

ボタン上のランプが点滅し、数秒後に両方のデッキが一時停止状態になります。
VHSで録画するときに、ビデオ本体の「APC」表示が点滅していたら、録画●ボタンを押して点灯させます。これでAPCが働きます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

5 **編集スタンバイ/開始ボタンをもう1回押す。**

両方のデッキの一時停止が解除され、ダビングが始まります。

6 **終わったら、停止■ボタンを押す。**

7 **DV➡/⬅VHSボタンを押して、編集方向表示を消す。**

ちょっと一言

- 操作中の画面表示は録画されません。
- 二か国語放送などを録画したテープをダビングするときは、あらかじめ再生し、リモコンの音声切換ボタンで音声を選んでおきます（☞30ページ）。
- 他機でアフレコしたテープをダビングするとき、ダビングしたい音声を選べます。ダビングを始める前に次の設定を行ってください。
  ーDVからVHSにダビングするときは、メニューの「各種設定」の「DV設定」で「音声ミックス調整」を設定します（☞31ページ）。
  ーVHSからDVにダビングするときは、メニューの「各種設定」の「VHS設定」で「音声ミックス」を設定します（☞32ページ）。
- DVテープにダビングするときは、音声記録モード（12ビット、16ビット）を選べます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- DVの録画情報を表示して、VHSにダビングすることができます。録画情報を表示するには、DVテープ再生中にDVデータ表示ボタンを押します（☞36ページ）。
- 次の場合は、画面表示が出ません。
  ー本機の出力1端子と、テレビまたは他機の入力端子をつないで、出力1切換スイッチを「ノーマル」以外にしたとき。

  画面表示が出ない状態でダビングしたいときに便利です。
  画面表示を出したいときは、元の接続や設定に戻してください。

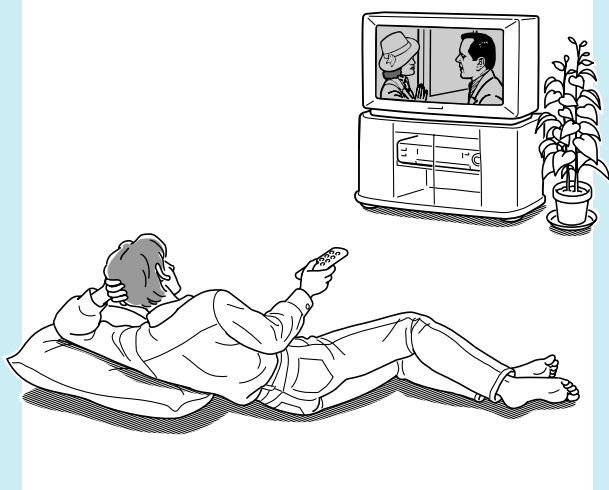
ご注意

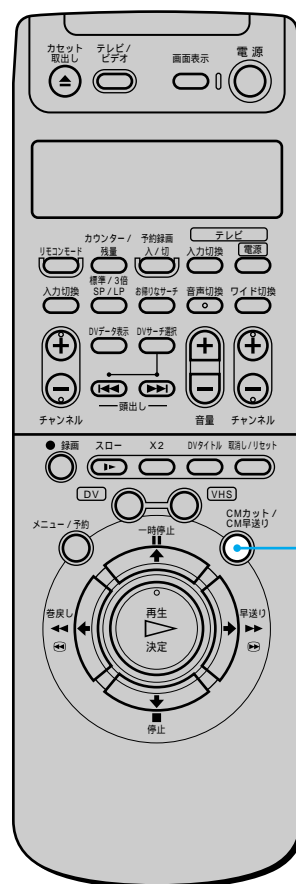
- ダビングしたテープの最初の部分の画像が乱れることがあります。
- テープの頭から録画すると、始めの数秒は映像や音声が欠けることがあります。
  テープの頭に数秒間の無信号部分を記録してから録画を始めると、これを避けられます。
- VHSテープにダビングすると、録画停止後に数秒間の無記録部分ができます。

こんなときは

- **自動的にカセットが出てくる。**
  →コピーガード（録画防止機能）がついているビデオソフトです（DV・VHSテープ）。
  →カセットのつまみが記録不可になっています。つまみを戻してください（DVテープ）（☞72ページ）。
  →カセットのツメが折れています。セロハンテープなどを貼ってツメの穴をふさいでください（VHSテープ）（☞72ページ）。

再生

ここでは、再生するときに使えるいろいろな機能について説明します。
スロー・2倍速などの変速再生ができるほか、録画した番組のとばしたい部分（CMなど）を早送りしたり、1本のテープに録画した各番組を頭出ししたりできます。
また、二か国語放送などの主音声・副音声の切り換え、他機でアフレコした音声の切り換え、テープカウンターやテープ残量の表示、画像と音声の調整、画質の補正など、再生に役立つ機能もあります。

CMをとばして再生する（CM早送り）

録画したテープを見ているときに、CMなど、とばしたい部分を早送りすることができます。

再生中にとばしたい部分で、CMカット/CM早送りボタンを押す。
テープの30秒ぶんを早送り再生したあと、自動的に再生に戻ります。早送り中は、音声は出ません。

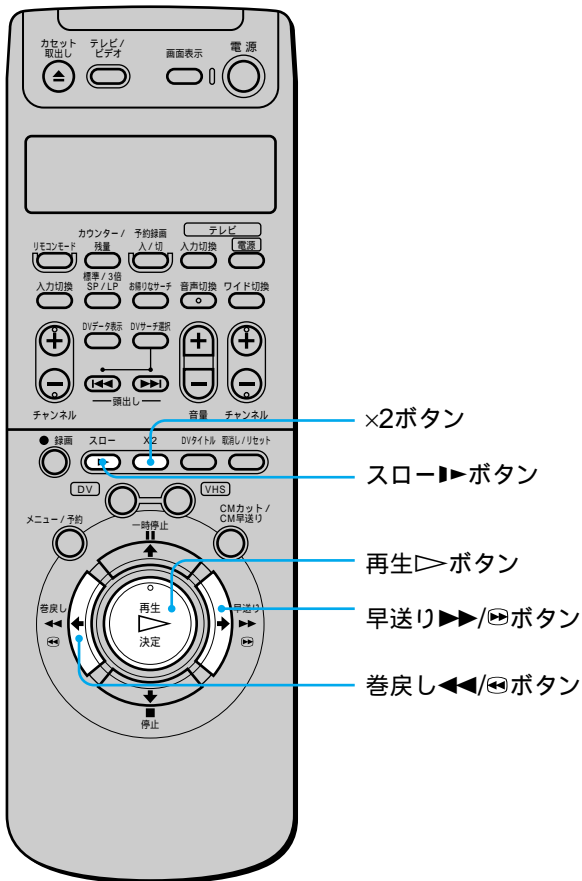
続けて1分以上早送りするには

CMカット/CM早送りボタンを2回以上押します。
押すたびに30秒ずつ、最長2分間（4回押したぶん）まで早送りします。

速さを変えて見る

いろいろな速さで画像を見たり、1コマずつ送って見ることができます。再生の速さを変えると、音声は出ません。
ビデオ本体のクリックジョグ/シャトルは、再生中や再生一時停止中にはクリックシャトルとして、ジョグボタンを押したときにはクリックジョグとして働きます。

速さを変える

リモコンで速さを変える

再生中に変えたい画像の速さのボタンを押す。

画像の速さ	操作
スロー	スロー❙▶ボタンを押す。
2倍速	×2ボタンを押す。
早送り再生	•**連続早送り再生** 早送り▶▶/⏩ボタンを押す（リモコンのみ）。 •**押している間だけ早送り再生** 早送り▶▶/⏩ボタンを1秒以上押し続けると、押している間早送り再生する。
巻き戻し再生	•**連続巻き戻し再生** 巻戻し◀◀/⏪ボタンを押す（リモコンのみ）。 •**押している間だけ巻き戻し再生** 巻戻し◀◀/⏪ボタンを1秒以上押し続けると、押している間巻き戻し再生する。

＊リモコンの電池の消耗をおさえたいときは、連続早送り/巻き戻し再生をおすすめします。

ちょっと一言

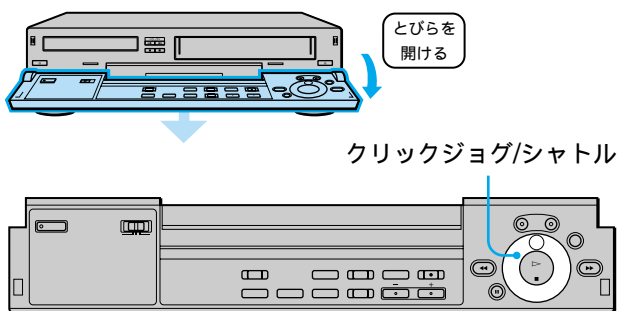
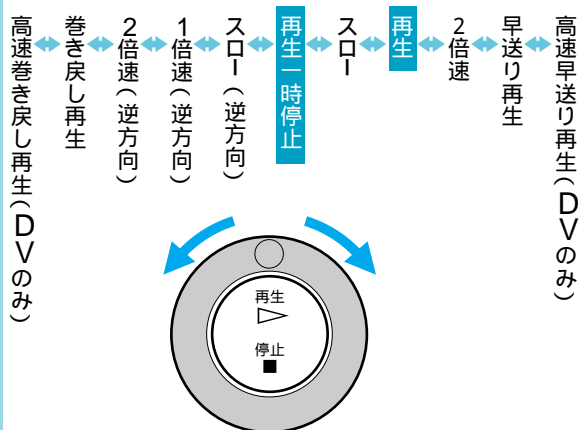
• ボタンの⏩/⏪マークは、早送り再生/巻き戻し再生の機能を表します。

再生

次のページにつづく

速さを変えて見る（つづき）

ビデオ本体のクリックシャトルで速さを変える

ビデオを見ているときにクリックジョグ/シャトルを回すと、スローや2倍速などいろいろな速さに変えられます。

再生中または再生一時停止中にクリックジョグ/シャトルを回す。

画面表示ボタンを繰り返し押すと、下の表示が出ます。

画像の速さ	画面表示
高速早送り再生（DVのみ）	----|--→→
早送り再生	----|---→
2倍速	----|--→-
再生	----|-→--
スロー	----|→---
再生一時停止	----‖----
スロー（逆方向）	---←|----
1倍速（逆方向）	--←-|----
2倍速（逆方向）	-←--|----
巻き戻し再生	←---|----
高速巻き戻し再生（DVのみ）	←←--|----

ふつうの再生に戻すには

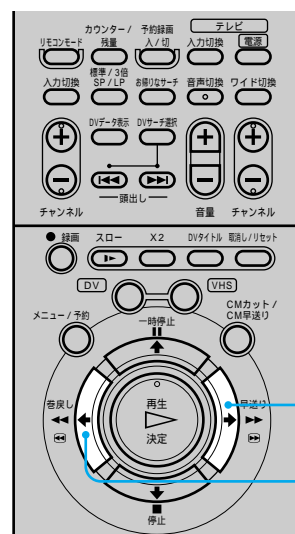
クリックジョグ/シャトルを回して再生の位置に戻すか、再生▷ボタンを押します。

ちょっと一言

- 再生中に早送り▶▶/⏩ボタンや巻戻し◀◀/⏪ボタンを押すと、押している間早送り再生や巻き戻し再生になります。
- スローで見ているときに、VHSデッキは2分以上たつと自動的にふつうの再生になります。

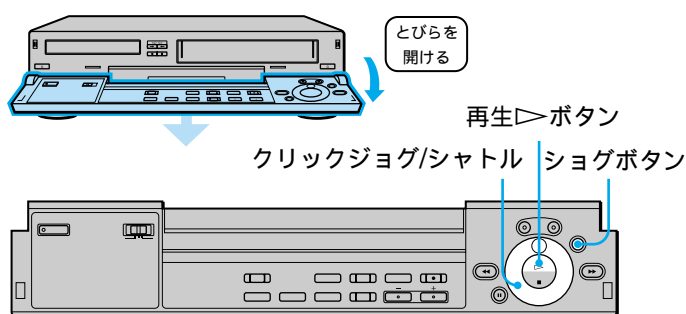
ご注意

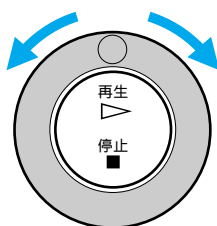
- 停止中、録画中、録画一時停止中は、クリックシャトルは働きません。
- 再生の速さを変えると、画像が乱れます。
- スローでは記録方式（S-VHS/VHS）の自動判別はできません。したがって、スローで見ているときに、記録方式が違う場面になると、画像が乱れることがあります。

コマ送りで見る

リモコンでコマ送りする

再生一時停止中にリモコンの早送り▶▶/⏩または巻戻し◀◀/⏪ボタンを押す。

早送り方向は早送り▶▶/⏩ボタン、巻き戻し方向は巻戻し◀◀/⏪ボタンを押します。押し続けると連続してコマ送りします。

ビデオ本体のクリックジョグでコマ送りする

1 **再生中または再生一時停止中にジョグボタンを押す。**

2 **クリックジョグ/シャトルを回す。**
再生▷ボタンを押すと、ふつうの再生に戻ります。

ご注意

- コマ送りをすると、画像が乱れます。

場面を頭出しする

いくつかの場面を1本のテープに録画したときは、各場面の頭出しができます。本機では、以下のような頭出しができます。

- 録画開始位置で頭出しする
（インデックスサーチ）
- デジタルビデオカメラで撮影した日付で頭出しする
（日付サーチ）
- デジタルビデオカメラのフォトモードで撮影した場面を頭出しする
（フォトサーチ）
- 場面に入れたタイトルで頭出しする
（タイトルサーチ）

各頭出しができるかどうかは、テープの種類によって以下のように変わります。

	DVテープ*1	DVテープ*2	VHSテープ
インデックス	○	○	○
日付	○	○	–
フォト	○	○	–
タイトル	○	–	–

*1 カセットメモリー付き
*2 カセットメモリーなし

- **カセットメモリー付きのDVテープを使うとき**
カセットメモリーに記録された頭出し信号を使って、場面の一覧表示から見たい番組を頭出しできます。「場面の一覧表示を使って頭出しする」（☞28ページ）をご覧ください。
- **カセットメモリーのないDVテープやVHSテープを使うとき**
テープ上に記録された頭出し信号を使って、前後の番組を順に頭出しできます。「前後の場面を順に頭出しする」（☞29ページ）をご覧ください。

頭出し信号について

頭出し信号は次のときに自動的に付きます。

- 録画が始まったとき
- 録画一時停止中にチャンネルを変えて、再び録画を始めたとき
- 予約録画が始まったとき
- タイトルを入れたとき（タイトル信号のみ）

次のページにつづく

場面を頭出しする（つづき）

頭出しの方法に応じて4種類の頭出し信号があります。頭出し信号はカセットメモリーとテープ上に記録されますが、カセットメモリーの有無や、録画した機器によって記録される信号が異なります。信号がないときは、その信号を使った頭出しはできませんのでご注意ください。

本機で録画したとき

	カセットメモリー	テープ上
インデックス信号	記録する	記録する
日付信号	記録しない	記録する
フォト信号	記録しない	記録しない
タイトル信号	記録する	記録しない

デジタルビデオカメラ（DCR-TRV10など）で撮影したとき

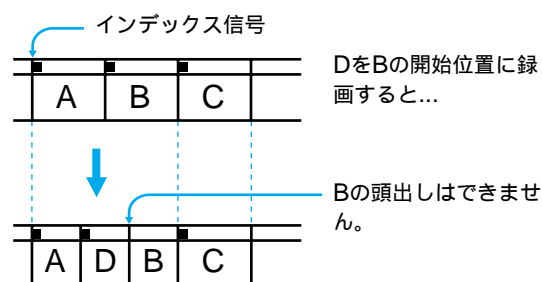
	カセットメモリー	テープ上
インデックス信号	記録しない	記録しない
日付信号	記録する*	記録する
フォト信号	記録する*	記録する
タイトル信号	記録する*	記録しない

*カセットメモリーに対応していないデジタルビデオカメラ（DCR-PC7など）では、カセットメモリーに記録できません。

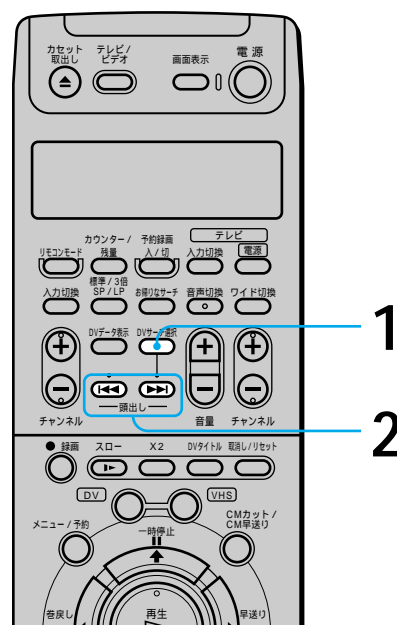
ちょっと一言

- CM 4Kマークのあるテープを使うと、本機ではインデックスを最大12個までカセットメモリーに記録できます。ただし、日付信号、フォト信号、タイトル信号の数によって、記録できるインデックス信号の数は変化します。

ご注意

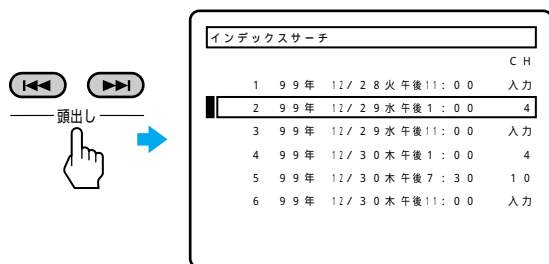
- 頭出し信号は録画を開始した時点で記録されます。開始位置の上に他の番組を録画した場合、もとの番組は頭出しできなくなります。

- 録画した部分の間に無記録の部分があるテープでは、頭出しが正しくできないことがあります。
- ソニー以外のデジタルビデオで記録されたテープでは、頭出しができないことがあります。

場面の一覧表示を使って頭出しする
（カセットメモリー付きDVテープのみ）

録画した場面の日付や時間などをテレビ画面に一覧表示して、見たい番組を選べます。カセットメモリー付きのDVテープでのみできます。
メニューの「各種設定」の「DV設定」で「カセットメモリーサーチ」を「自動」にしておいてください（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

1 **DVサーチ選択ボタンを繰り返し押して、頭出しの種類を選ぶ。**
押すたびに次のように切り換わります。

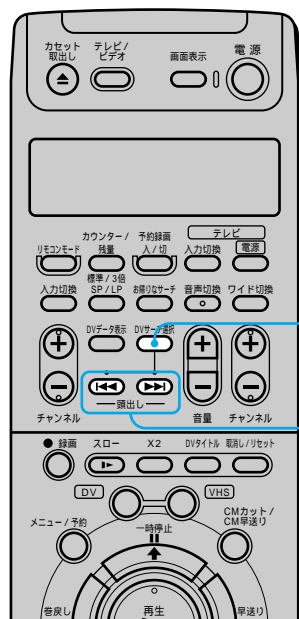
インデックスサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→タイトルサーチ→元の画面

2 頭出し⏮/⏭ボタンを繰り返し押して、頭出ししたい場面を選ぶ。

⏭で次の場面を、⏮で前の場面を頭出しして再生します。

ちょっと一言

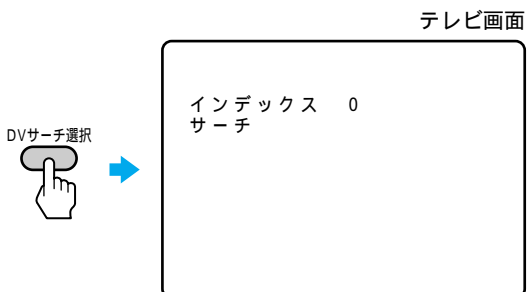
- フォトサーチでは、デジタルビデオカメラで静止画を撮影したときの日付と時間を一覧表示して、見たい静止画を選べます。

前後の場面を順に頭出しする
（DVテープ、VHSテープ）

ボタンを押すたびに、前後の場面を順に頭出しできます。場面の一覧表示は出ません。
カセットメモリー付きのDVテープでこの頭出しをしたいときは、メニューの「各種設定」の「DV設定」で「カセットメモリーサーチ」を「切」にしておいてください（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

1 DVテープの頭出しをするときは、DVサーチ選択ボタンを繰り返し押して、頭出しの種類を選ぶ。

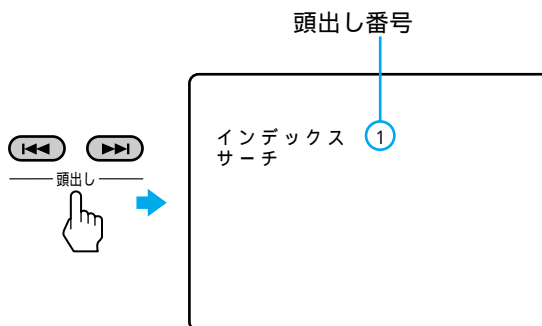
押すたびに次のように切り換わります。

インデックスサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→
→元の画面

テレビ画面

2 頭出し⏮/⏭ボタンを繰り返し押して、頭出ししたいところの頭出し番号を選ぶ。

頭出し番号

⏭で次の番組を、⏮で前の番組を頭出しして再生します。

頭出し番号

ちょっと一言

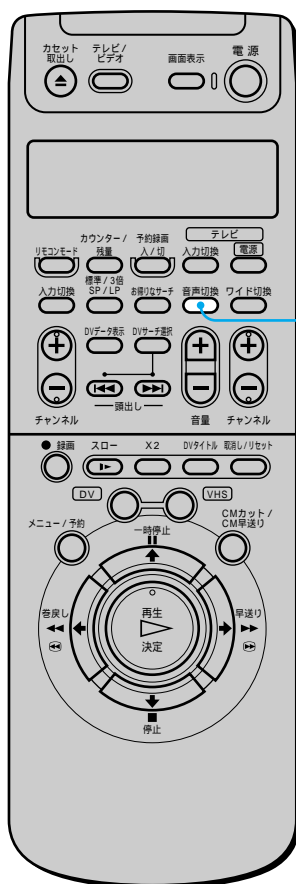
- 「インデックス」表示が画面に出ないときは、メニューの「各種設定」の「一般設定」で「自動画面表示」を「入」にしてください（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

ご注意

- カセットメモリーのないDVテープでは、タイトルサーチはできません。

二か国語放送などの音声を切り換える

二か国語放送などを録画したテープを再生するとき、主音声や副音声など聞きたい音声に切り換えることができます。ステレオ放送を録画したテープは、自動的にステレオで聞こえます。

音声切換ボタン

再生中に音声切換ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、画面に出る表示と聞こえる音声が次のように切り換わります。

画面に出る表示		聞こえる音声	
DV*1	VHS*2	二か国語放送	ステレオ放送
主/副、ステレオ	ステレオ	主音声と副音声の混合	ステレオ
主、左	主/左	主音声	左チャンネル
副、右	副/右	副音声	右チャンネル
—	表示なし	主音声	モノラル

*1 二か国語放送かステレオ放送かを自動判別します。ビデオ本体に、二か国語放送を再生中は「二重音声」表示が、ステレオ放送を再生中は「ステレオ」表示が出ます。

*2 ビデオ本体に「ステレオ」と「二重音声」表示が出ます。

ちょっと一言

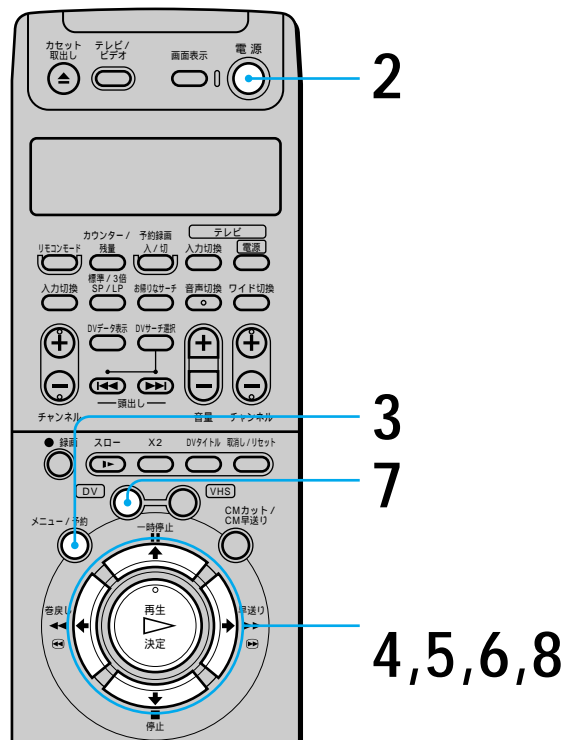
- 本機で受信している二か国語放送の音声も、音声切換ボタンで切り換えることができます。

ご注意

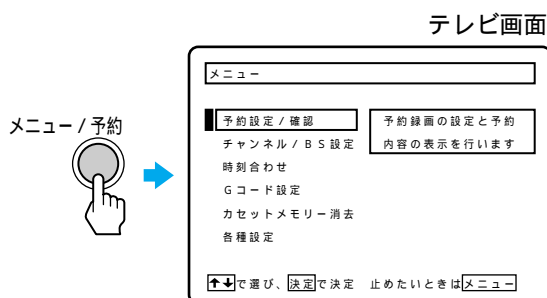
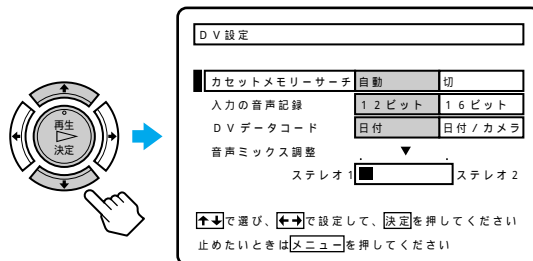
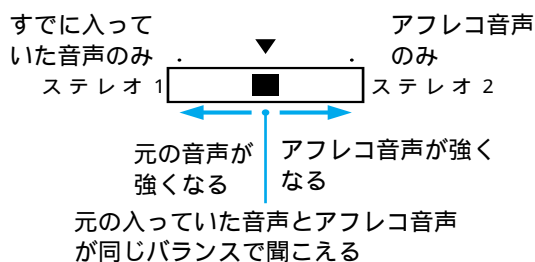
- 音声切換ボタンは、次のとき働きません。
  - モノラルビデオで録画したテープを再生したとき（常にモノラル）
  - ステレオ放送を受信しているとき
  - WOWOWの音声を切り換えるとき（デコーダーで切り換えてください）
  - メニューの「各種設定」の「VHS設定」で「音声ミックス」を「入」にしたとき（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）
  - 他機でアフレコしたDVテープを再生中に、メニューの「各種設定」の「DV設定」で「DV音声ミックス調整」を「ステレオ1」と「ステレオ2」の間に設定したとき（☞31ページ）
- 12ビットで音声を記録したDVテープを再生するとき、ステレオ2の音声を切り換えても、表示は常にステレオ1の状態を示します。

アフレコ音声を聞く

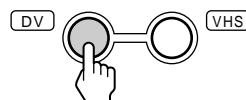
他機でDVテープにアフレコした音声を聞く

アフレコしたテープなど、12ビットモードで記録したDVテープを再生するときに、聞きたい音声を選べます。

1 テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。

2 電源スイッチを押して、ビデオの電源を入れる。

3 メニュー/予約ボタンを押す。

4 ↑/↓で「各種設定」の「DV設定」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓で「音声ミックス調整」を選び、←/→で設定する。

6 決定ボタンを押す。

メニューが消えます。

7 DVボタンを押す。

8 再生▷ボタンを押す。

元の音声とアフレコ音声を同時に聞けます。

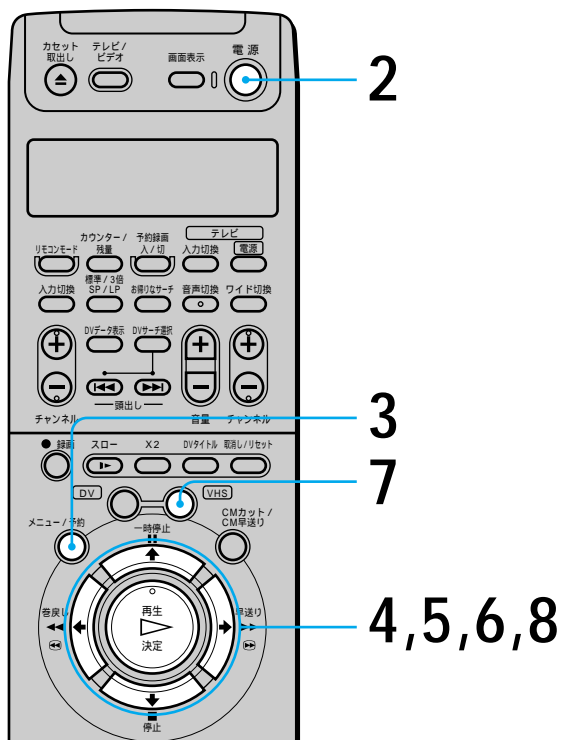
ちょっと一言

- ビデオ本体の表示窓で、再生中の音声記録モードを確認できます。

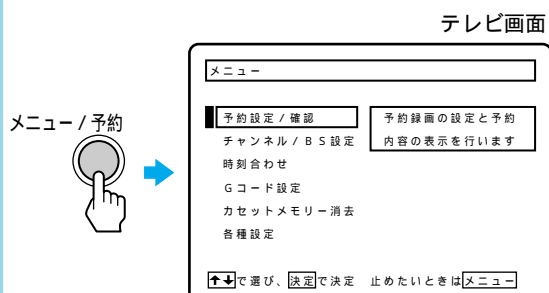
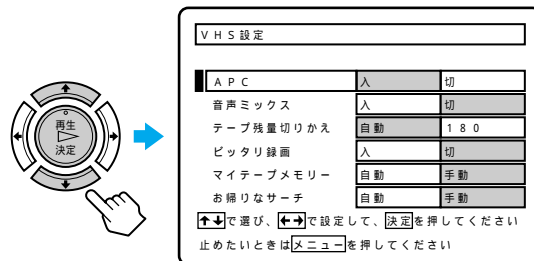
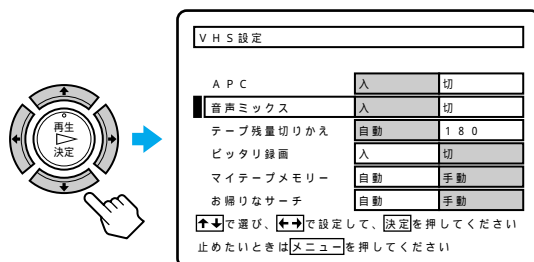
次のページにつづく

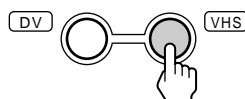
再生

他機でVHSテープにアフレコした音声を聞く

元の音声とアフレコ音声を同時に聞くことができます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **電源スイッチを押して、ビデオの電源を入れる。**

3 **メニュー/予約ボタンを押す。**

4 **↑/↓で「各種設定」の「VHS設定」を選び、決定ボタンを押す。**

5 **↑/↓で「音声ミックス」を選び、←/→で「入」にする。**

6 **決定ボタンを押す。**
メニューが消えます。

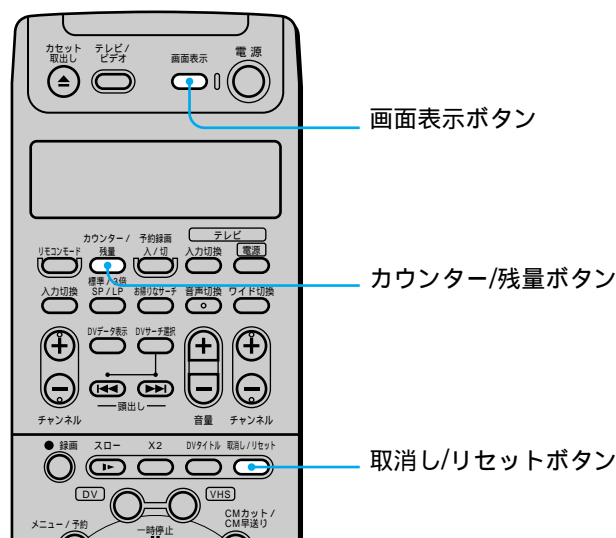
7 **VHSボタンを押す。**

8 **再生▷ボタンを押す。**
元の音声とアフレコ音声を同時に聞けます。

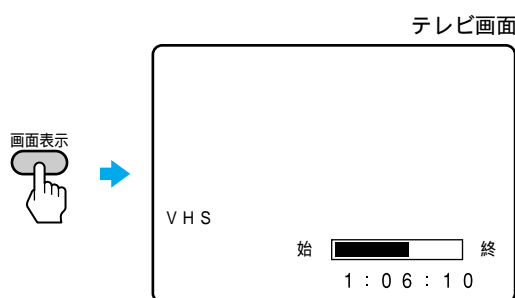
ご注意

- 「音声ミックス」を「入」にすると、音声切換ボタンが使えなくなります。アフレコ音声を聞いたあとは、「切」に戻しておいてください。

画面表示やテープ残量を見る

テープカウンターとテープ残量をテレビ画面で見たり、テープ残量を時間表示することができます。残量表示はテープの残りを知る目安としてお使いください。

画面表示を見る

画面表示ボタンを押す。

テープカウンターおよびテープ残量が出ます。もう一度押すと、元の画面に戻ります。

テープカウンターを「0:00:00」に戻すには

リモコンの取消し/リセットボタンまたはビデオ本体のカウンターリセットボタンを押します。テープを入れ換えたときも「0:00:00」になります。ビデオ本体では「0H00M00S」表示になります。

テープカウンターをフレーム単位で表示するには（DVのみ）

カウンター/残量ボタンを押します。ビデオ本体の「タイムコード」表示が点灯して、テープ上の位置をフレーム単位で正確にカウントするタイムコード（☛89ページ）が表示されます。カウンター/残量ボタンを押すたびに次のように切り換わります。

テープカウンター→タイムコード→テープ残量

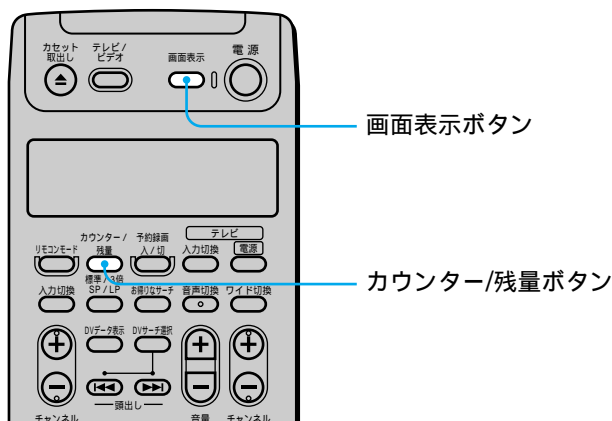
ちょっと一言

- 「再生」や「早送り」など操作時に自動的に出てくる走行表示を消したいときは、メニューの「各種設定」の「一般設定」で「自動画面表示」を「切」にしてください（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

再生

次のページにつづく

画面表示やテープ残量を見る（つづき）

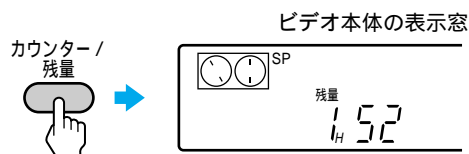
テープ残量を時間表示する

カウンター/残量ボタンを押す。

押すたびに次のように切り換わります。

- DVテープ

  テープカウンター→タイムコード→テープ残量

- VHSテープ

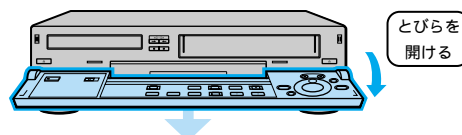
  テープカウンター→テープ残量

ちょっと一言

- VHSテープの残量を時間表示するときは、あらかじめメニューの「各種設定」の「VHS設定」で「テープ残量切りかえ」を「自動」に設定してください（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- テープ残量を時間表示しているとき、画面表示ボタンを押すと、テレビ画面でも表示を見ることができます。

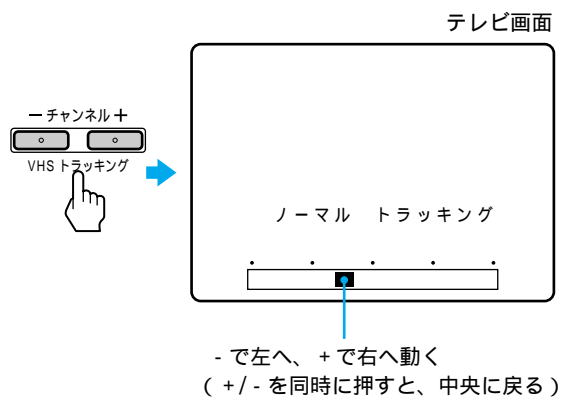
ご注意

- VHS-Cカセットアダプターを使用した場合、残量表示は正しく表示されません。
- テープの種類によっては、残量が正しく表示されないことがあります。
- テープ残量の時間表示が出ないときは、しばらく再生などの操作をしてください。

画像と音声を調整する（トラッキング、VHSのみ）

VHSテープの再生中に画像が乱れたり雑音が出るときは、手動でトラッキングを調整してください。通常はトラッキング自動調整が働いて、きれいな画像で見ることができます。DVテープ再生中のトラッキングは自動調整されています。

VHS トラッキング＋/－ボタン

VHSテープの再生中にVHS トラッキング＋/－ボタンを押して調整する。

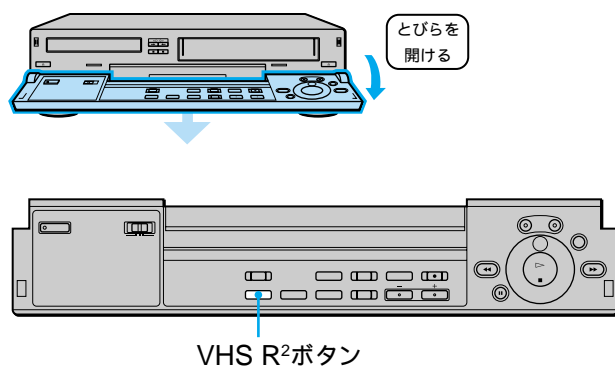
ビデオ本体の▧表示が点灯します。

トラッキングを自動調整に戻すには

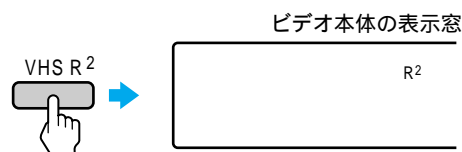
カセットを入れ直します。ビデオ本体の▧表示が点滅し、調整が終わると消えます。

ご注意

- 他のビデオで録画したカセットや録画状態の悪いカセットでは、チラつきが充分に消えないことがあります。
- ハイファイ音声がノーマル音声に変わることがあります。
- スローのチラつきは、スロー再生中にVHS トラッキング+/−ボタンを押して調整してください。
- 再生一時停止中の縦ゆれは、再生一時停止中にVHS トラッキング+/−ボタンを押して調整してください。

画質を補正する（R^2、VHSのみ）

VHSテープの再生画像の画質を補正し、本来の画質に近づけることができます。
R^2 はReality Regenerator（リアリティー・リジェネレーター）の略です。

VHS R^2ボタンを押す。

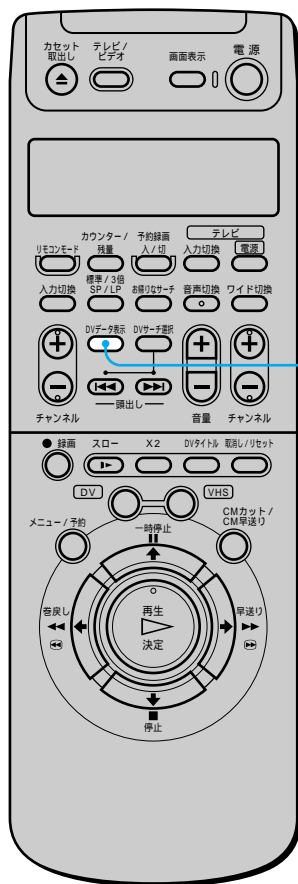
ビデオ本体のR^2表示が点灯します。

通常の再生画質に戻すには

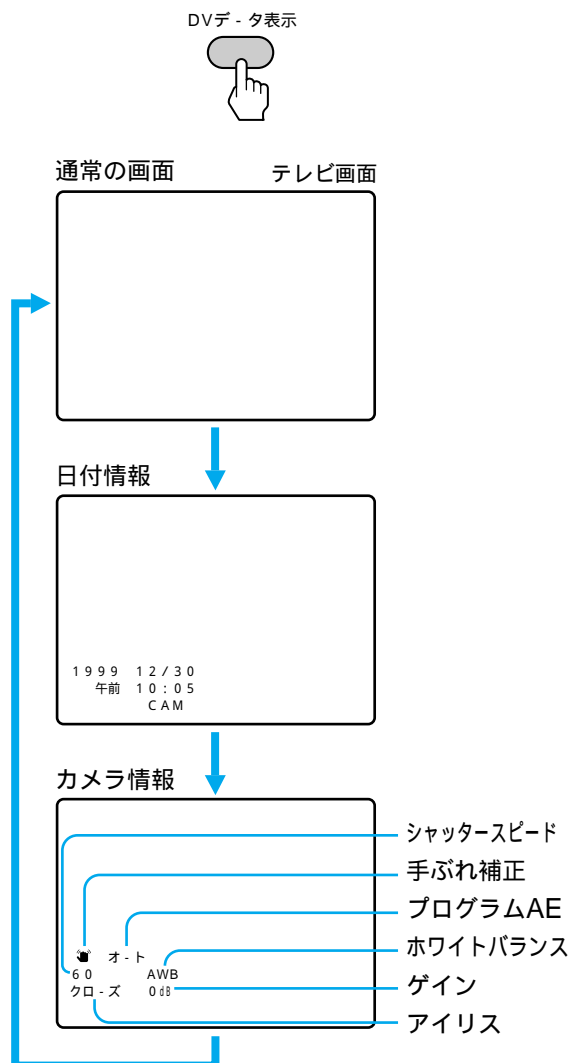
VHS R^2ボタンを押し、ビデオ本体のR^2表示を消灯します。

ご注意

- VHSデッキが選ばれていないときは、VHS R^2ボタンを押しても、ビデオ本体のR^2表示の点灯/消灯はできません。

録画情報を見る
（DVのみ）

DVデッキで録画したテープには、録画した日付・時刻・チャンネルが記録されます。また、ソニーのデジタルビデオカメラで撮影したテープには、カメラ情報（シャッタースピード・プログラムAEモード・ホワイトバランス・アイリス・ゲイン）が記録されます。
これらの録画情報を、テープの再生中にいつでも確認することができます。

DVテープの再生中にDVデータ表示ボタンを押す。

押すたびに以下のように画面表示が切り換わります。

日付情報のみを確認したいときは

メニューの「各種設定」の「DV設定」で「DVデータコード」を「日付」にしてください（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。カメラ情報が表示されなくなります。

ちょっと一言

- 日付情報またはカメラ情報が記録されていない場合は、「---」が表示されます。
- DVテープに記録されている日付情報やカメラ情報を、画面に出してダビングすれば、これらの情報の表示をVHSテープに録画することができます。ただし、録画された表示を消すことはできません。

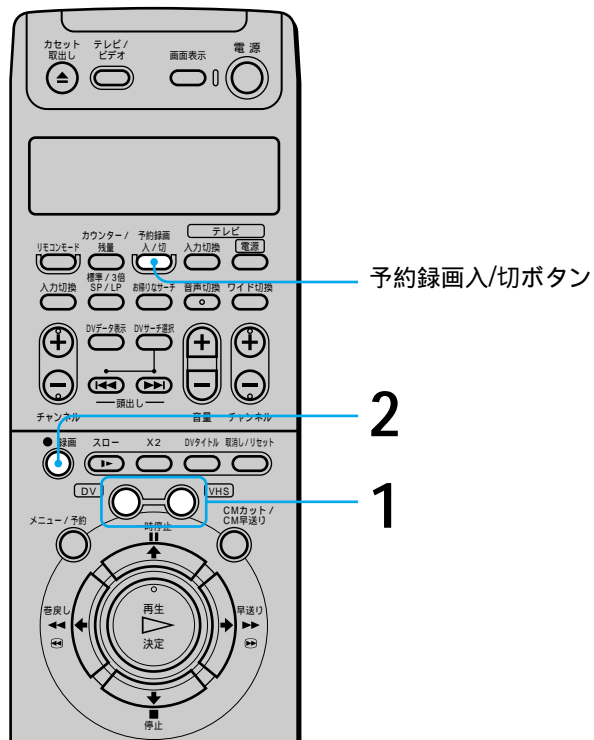
ご注意

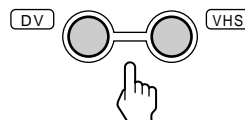
- 本機で確認できるカメラ情報の表示は、デジタルビデオカメラの表示のしかたと異なることがあります。

録画・予約

ここでは、次のような録画と予約について説明します。
- 何時間後に録画を止めるかを決めるクイックタイマー。
- テレビ画面を使う予約録画。
- CMをとばす録画。
- 別売りのデジタルCSチューナーを使う、デジタルCS放送の録画。

決めた時間だけ録画する（クイックタイマー）

何時間後に録画を止めるかを決められます。急用で出かけるときや、眠くなったときに便利です。

1 DVまたはVHSボタンを押して、録画中のデッキを選ぶ。

次のページにつづく

決めた時間だけ録画する（つづき）

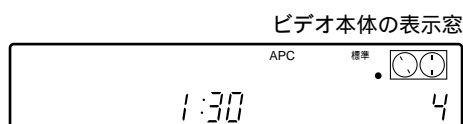
2 **録画中に録画●ボタンを繰り返し押して、録画を止めるまでの時間を選ぶ。**

ビデオ本体の予約録画表示が点灯します。

押すたびに、30分ずつ時間が増えます。時間は30分後（0:30）から6時間後（6:00）まで選べます。

1時間30分後に録画を止めたいとき

ビデオ本体の表示窓

APC 標準 1:30 4

指定した時間がたつと、自動的に録画が止まり電源が切れます。

録画を止めるまでの時間を変えるには

録画●ボタンを繰り返し押して、その時点から録画を止めるまでの時間を選びます。

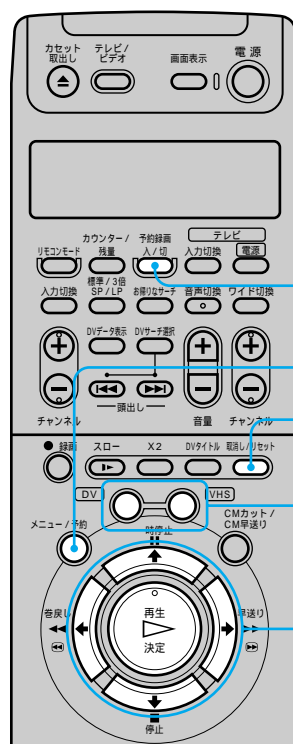
クイックタイマーの途中で録画を止めるには

予約録画入/切ボタンを押します。

設定した時間を取り消すには

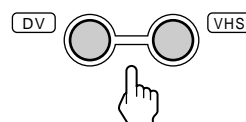
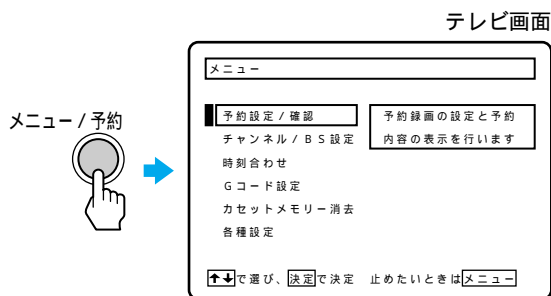
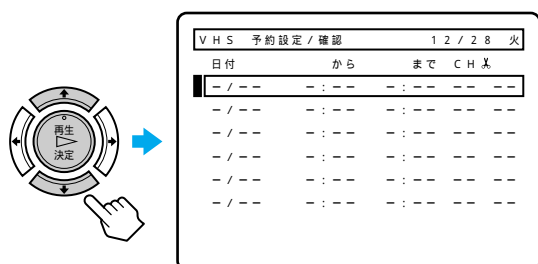
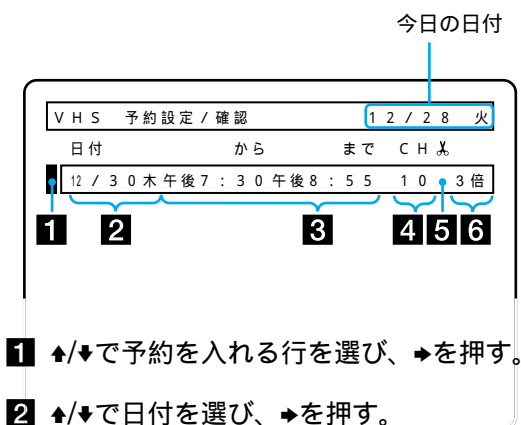
録画●ボタンを繰り返し押して、ビデオ本体の表示窓に時計を出します。

テレビ画面で予約する

テレビ画面を使って、1か月先までの番組や、毎日または毎週の番組を予約できます。他の予約と合わせ、DVデッキ、VHSデッキそれぞれ6番組まで予約できます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **カセットを入れる。**

ビデオの電源が自動的に入ります。

3 **DVまたはVHSボタンを押して、録画するデッキを選ぶ。**

4 メニュー/予約ボタンを押す。

5 ↑/↓で「予約設定/確認」を選び、決定ボタンを押す。

6 ↑/↓/←/→で日時とチャンネルを選ぶ。

1 ↑/↓で予約を入れる行を選び、→を押す。

2 ↑/↓で日付を選び、→を押す。

毎日または毎週同じ番組を予約するときは、↓を押して選びます。

今日（12/28）→ 毎日 → 毎週月～土 → 毎週月～金 → 毎週土 →……→ 毎週日 → 1か月先の日（1/27）→………→ 今日（12/28）

- **間違えたときは**
  ←を押して前の項目に戻ります。
- **途中でやめるときは**
  取消し/リセットボタンを押します。

3 ↑/↓で時刻を選び、→を押す。

4 ↑/↓でチャンネルを選び、→を押す。

↑を押すたびに以下のように切り換わります。

VHF/UHFチャンネル（CH1、CH3、…）→ BSチャンネル（BS1、BS3、…）→ 入力1 → 入力2

- **本機の入力端子につないだ機器を予約するには**
  「入力1」または「入力2」を選びます。

5 ↑/↓でCMカット（✂/表示なし）を選ぶ。

二か国語放送またはモノラル放送の番組のCMをとばして録画したいときは「✂」にします（☞40ページ）。

6 ↑/↓で録画モード（標準/3倍・SP/LP）を選び、→を押す。

長時間録画したいときは「3倍」または「LP」にします。

7 →を押す。

選んだ行に予約が入ります。

8 続けて予約するときは、手順1～7を繰り返す。

7 メニュー/予約ボタンを押す。

メニューが消えます。

8 予約録画入/切ボタンを押す。

ビデオ本体の予約録画ランプが点灯して、予約待機になります。

予約録画中に録画を止めるには

予約録画入/切ボタンを押します。

ちょっと一言

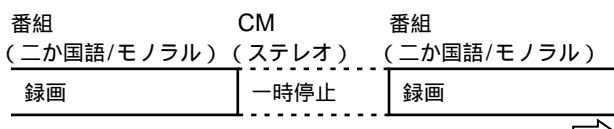
- 次の日にまたがる番組は、開始する日付はそのままで終了時刻を合わせます。終了時刻は自動的に次の日に設定されます。

ご注意

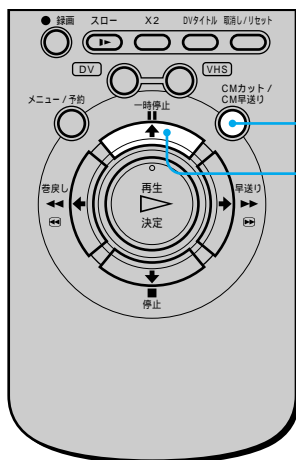
- 本機のi.LINK DV入力/出力端子につないだ機器の予約はできません。

CMをとばして録画する（CMカット）

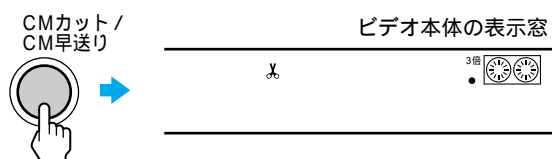
CMカットでは、ステレオ放送の部分をとばして録画することができます。ほとんどのCMはステレオ放送です。したがって二か国語放送またはモノラル放送の番組を録画するときのみ、ステレオ放送のCMを自動的にとばすことができます。

番組（二か国語/モノラル）	CM（ステレオ）	番組（二か国語/モノラル）
録画	一時停止	録画

⇒：放送の流れ

CMカットができるのは
- 二か国語放送の番組
- モノラル放送の番組

CMカットができないのは
- ステレオ放送の番組
- BS放送の番組
- 本機の入力端子につないだ機器からの録画

録画中にCMカット/CM早送りボタンを押す。

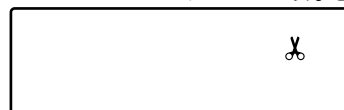
ビデオ本体の✂表示が点灯します。

CM（ステレオ放送）が始まると自動的に録画を一時停止します。番組（二か国語放送またはモノラル放送）が始まると録画を再開します。

CMカットをやめるには

CMカット/CM早送りボタンを押し、ビデオ本体の✂表示を消灯します。

CMカットを設定して予約するには

まず、予約する番組が二か国語放送または、モノラル放送であることを確認します。

その後、「タイマーで予約する」（☞12ページ）の手順**8**、または「Gコードで予約する」（☞16ページ）の手順**6**で、転送ボタンを押す前に、CMカット/CM早送りボタンを押します。リモコンに✂表示が出ます。

ちょっと一言

- 予約した番組に、CMカットを設定することができます（☞19ページ）。
- テレビ画面を使って予約するときに、CMカットを設定することができます（☞39ページ）。
- 録画を始める前に、CMカット/CM早送りボタンを押して、CMカットを設定することができます。ただし、チャンネルを変えると、CMカットは解除されます。
- 二か国語放送およびステレオ放送は、新聞や雑誌などのテレビ番組表で調べることができます。

ご注意

- 電波の弱い地域では、CMカットが正しく働かないことがあります。
- ステレオ放送を行っていない放送局の番組はCMカットをすることができません。
- CMカットを設定しても、モノラル放送のCMは録画されます。
- メニューの「各種設定」の「一般設定」で「自動ステレオ受信」を「切」にしているときは、CMカットを設定しても、CMをとばして録画することはできません（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- CMカットを設定して録画しているとき、一時停止❚❚ボタンを押すと、CMカットは解除されます。
- CMの放送中にCMカットを設定した録画が始まると、その回のCMは録画されます。次の回のCMから、CMカットが働きます。
- CMカットを設定して録画しているとき、CMが5分以上続くと、CMカットは解除され、録画が始まります。次の回のCMからは、CMカットは働きません。

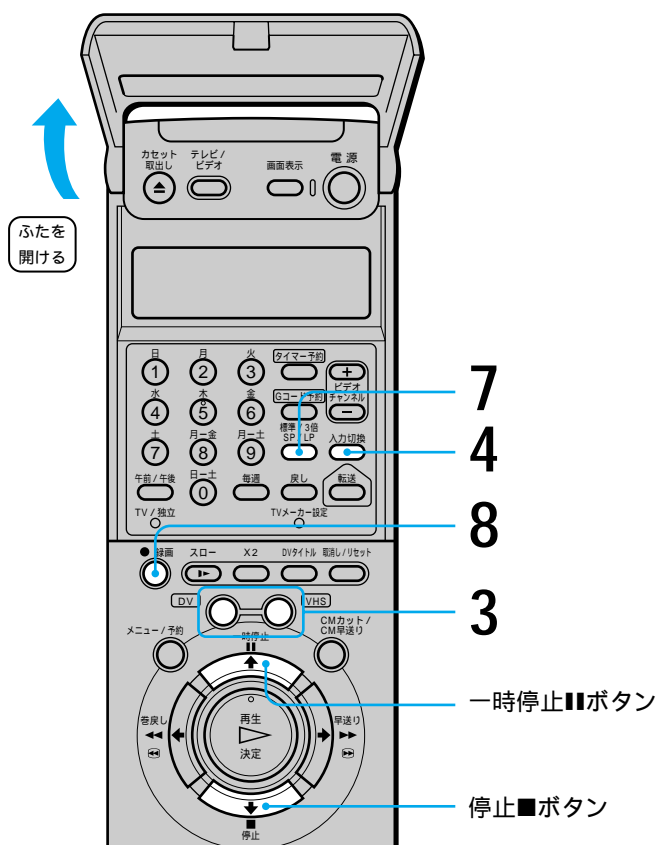
別売りのデジタルCSチューナーから録画する

別売りのデジタルCSチューナーをつなぐと、デジタルCS放送の録画ができます。番組予約機能の付いたデジタルCSチューナーと組み合わせると、予約録画もできます。デジタルCSチューナーは、必ず本機の入力1端子につないでください（☞別冊「接続と準備」の「デジタルCSチューナーをつなぐ」）。

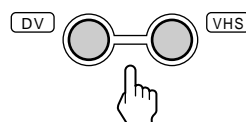
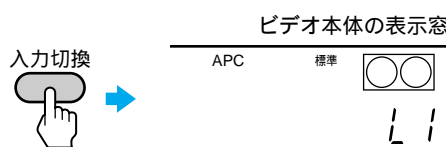
ご注意

- 録画防止機能（コピーガード）がかかっている番組は録画できません。詳しくは、デジタルCSチューナーに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機のi DV入力/出力端子とi.LINK対応デジタルCSチューナーのi.LINK端子をつないでも、デジタルCS放送を録画することはできません（「i.LINK機能で対応できる信号の種類」☞73ページ）。

デジタルCS放送を録画する

本機の入力1端子につないだデジタルCSチューナーから、デジタルCS放送を録画することができます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。

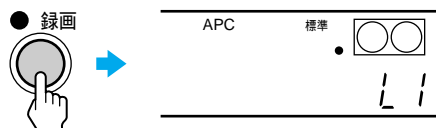
3 **DVまたはVHSボタンを押して、録画するデッキを選ぶ。**

4 **入力切換ボタンを押して、ビデオ本体の表示窓に「L1」を出す。**

5 **デジタルCSチューナーの電源を入れる。**

6 **デジタルCSチューナーで番組を選ぶ。**

7 **標準/3倍・SP/LPボタンを押して、録画モードを選ぶ。**

8 **録画●ボタンを押す。**
ビデオ本体の録画表示が点灯して、録画が始まります。

録画・予約

次のページにつづく

別売りのデジタルCSチューナーから録画する（つづき）

録画中にテレビで裏番組を見るには

テレビの入力を「テレビ」に切り換えて、テレビのチャンネルを選びます。録画に影響はありません。

録画を止めるには

停止■ボタンを押します。

録画を一時停止するには

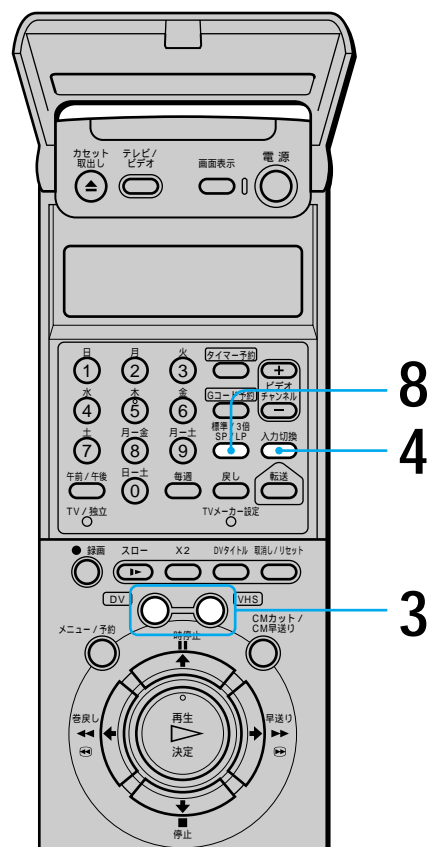
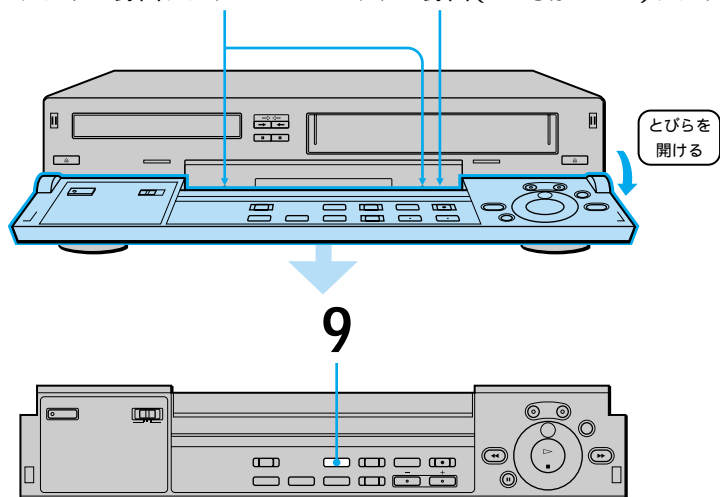
一時停止❚❚ボタンを押します。録画一時停止が5分以上続くと自動的に停止します。

ご注意

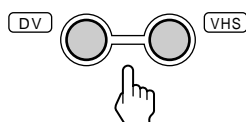
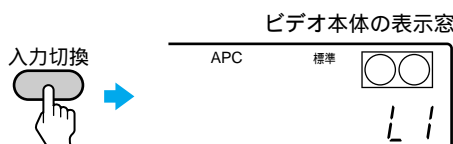
- デジタルCS放送の録画中はデジタルCSチューナーの電源を入れたままにしておいてください。

デジタルCS放送を予約録画する

（デジタルCSシンクロ録画）

本機の入力1端子につないだデジタルCSチューナーに、番組予約機能があるときは、デジタルCSチューナーの電源と連動させて予約録画ができます。予約開始時刻にデジタルCSチューナーの電源が入ると、本機が感知し、自動的にビデオ入力「L1」の録画が始まります。
番組予約機能がある機器（CATVチューナーなど）も本機の入力1端子につなぐと、この方法で予約録画ができます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。

3 **DVまたはVHSボタンを押して、予約するデッキを選ぶ。**

4 **入力切換ボタンを押して、ビデオ本体の表示窓に「L1」を出す。**

5 **デジタルCSチューナーの電源を入れる。**

6 **デジタルCSチューナーで番組予約をする。**

7 **デジタルCSチューナーの電源を切る。**

8 **標準/3倍・SP/LPボタンを押して、録画モードを選ぶ。**

9 **シンクロ録画ボタンを「ピー」と音がするまで押す。**
ビデオ本体のシンクロ録画ランプが点灯して、選んだデッキがシンクロ録画予約待機になります。

シンクロ録画中に録画を止めるには

シンクロ録画ボタンを押します。

シンクロ録画予約待機を取り消すには

シンクロ録画ボタンを押して、シンクロ録画ランプを消灯します。（録画が終わっても、シンクロ録画予約待機は解除されません。）

デジタルCS放送を長時間続けて予約録画するには（デジタルCSリレー録画）

デジタルCS放送をVHSテープからDVテープに続けてシンクロ録画することができます。DVテープからVHSテープにデジタルCSリレー録画することはできません。

1 VHSデッキにカセットを入れる。
2 VHSボタンを押して、VHSデッキを選ぶ。
3 「デジタルCS放送を予約録画する」（☞42ページ）の手順**4**～**9**にしたがって、デジタルCSシンクロ録画を設定する。
4 DVデッキにカセットを入れる。
5 DVボタンを押して、DVデッキを選ぶ。
6 シンクロ録画ボタンを「ピー」と音がするまで押す。
ビデオ本体のリレー録画（VHSからDV）ランプが点灯します。
VHSテープの終わりまで録画すると、自動的にDVテープに切り換わり、録画を続けます。

シンクロ録画予約待機中にビデオを使うには

シンクロ録画予約待機中でないデッキは、デッキを選んでそのまま使えます。デジタルCSシンクロ録画開始時刻になると、一方のデッキを使用中でも、デジタルCSシンクロ録画が始まります。
シンクロ録画予約待機中のデッキを使うときは、DVまたはVHSボタンを押してシンクロ録画予約待機中のデッキを選び、シンクロ録画ボタンを押してシンクロ録画ランプを消灯させます。シンクロ録画ランプが点灯したままで操作しようとすると、「ピピピ」と音がして、操作できません。
予約開始時刻になる前に、予約用のカセットを入れて、DVまたはVHSボタンを押してシンクロ録画するデッキを選び、シンクロ録画ボタンを「ピー」と音がするまで押します（シンクロ録画ランプが点灯）。

次のページにつづく

別売りのデジタルCSチューナーから録画する（つづき）

シンクロ録画予約待機中にデジタルCSチューナーを使うには

DVまたはVHSボタンを押してシンクロ録画予約待機中のデッキを選び、シンクロ録画ボタンを押して、シンクロ録画ランプを消灯させます。この状態でデジタルCSチューナーが使えます。シンクロ録画ランプが点灯中に、デジタルCSチューナーの電源を入れると、録画が始まってしまいます。
予約開始時刻になる前に、デジタルCSチューナーの電源を切り、予約待機にします。DVまたはVHSボタンを押してシンクロ録画するデッキを選び、シンクロ録画ボタンを「ピー」と音がするまで押します（シンクロ録画ランプが点灯）。

ご注意

- 1つのデッキでデジタルCSシンクロ録画と予約録画を同時に行うことはできません。
- シンクロ録画予約待機中またはシンクロ録画中に、メニューの設定の変更はできません。
- シンクロ録画ランプが点灯中に、デジタルCSチューナーの電源を入れると、録画が始まってしまいます。
- ビデオマウス付デジタルCSチューナーをつないだ場合、本機のデジタルCSシンクロ録画を使うときは、ビデオマウスを使わないでください。

お帰りなサーチ（VHSのみ）

ここでは、録画した番組の内容（日時、チャンネル）をテレビ画面に表示し、頭出しすることができるお帰りなサーチ機能について説明します。
録画した番組の内容は、テープ4本ぶんまで保存することができます。

お帰りなサーチとは

VHSテープでは、お帰りなサーチ機能を使うと、見たい番組を、録画した日時とチャンネルから探すことができます。
お帰りなサーチには、次の2種類の使いかたがあります。

1本のテープでお帰りなサーチをする（☞46ページ）

録画するだけで、番組の内容（日時、チャンネル）をお帰りなサーチ画面に表示することができます。
お帰りなサーチ画面では、番組の頭出しをすることができます。

お帰りなサーチ画面

カセットを取り出すと、お帰りなサーチ画面に表示される、番組の内容は消去されます。
1本のテープに繰り返し録画するときや、録画した番組を一度しか見ないときは、この方法が便利です。

最大4本のテープでお帰りなサーチをする（マイテープメモリー）（☞48ページ）

番組の内容を、テープ4本ぶんまでマイテープメモリー画面に保存することができます。お帰りなサーチを使うときは、保存した番組の内容を呼び出します。

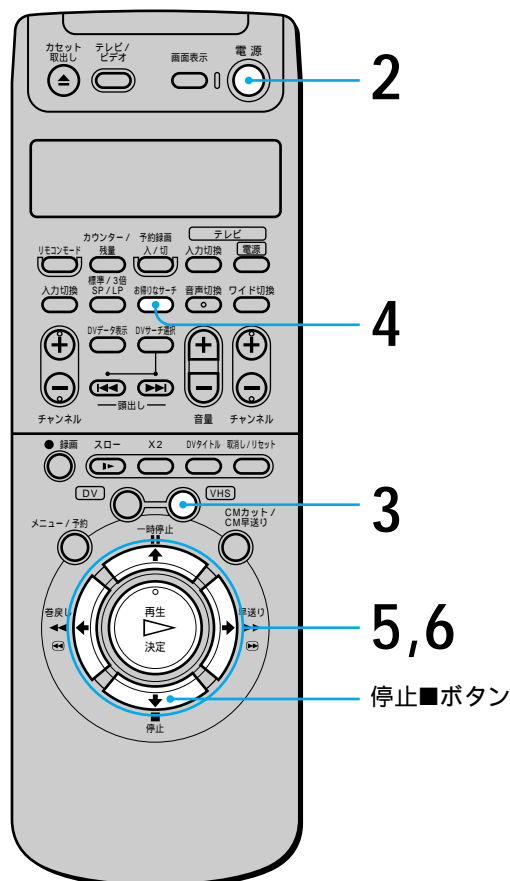
マイテープメモリー画面

保存した番組の内容が不要になったときは、消去することができます。
複数のテープを使い分けるときなどに、この方法を利用します。

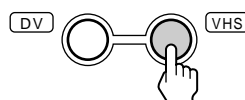
1本のテープで お帰りなサーチをする

番組を録画したあと、番組の内容（日時、チャンネル）をテレビ画面に表示することができます。
さらに、表示した番組の頭出しができます。
ここでの操作は、録画したカセットを入れたままの状態で行います。
録画したカセットの番組の内容を残しておきたいときは、「番組の内容を保存する」（☛48ページ）をご覧ください。保存をしないでカセットを取り出すと、番組の内容は消去されます。

番組を選んで頭出しする

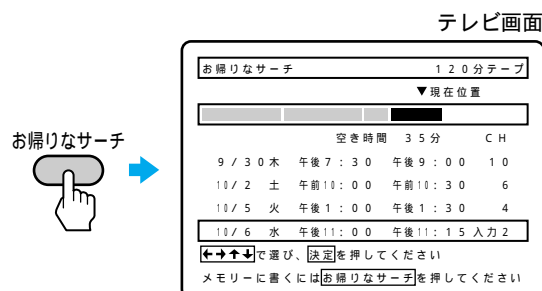
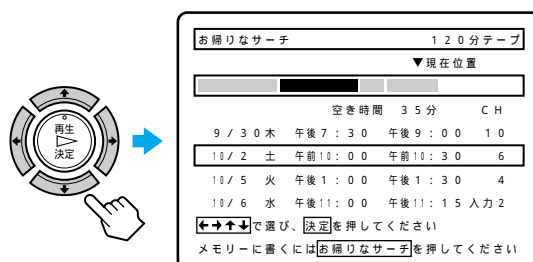
録画した番組の内容（日時、チャンネル）を選んで、番組の頭出しができます。
録画したカセットは入れたままにしておきます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **電源スイッチを押して、ビデオの電源を入れる。**

3 VHS**ボタン押す。**

4 **お帰りなサーチボタンを押す。**
録画した番組の内容（日時、チャンネル）が表示されます。

テレビ画面

お帰りなサーチ

お帰りなサーチ　１２０分テープ
▼現在位置
空き時間　３５分　ＣＨ
９／３０木　午後７：３０　午後９：００　１０
10／２　土　午前10：００　午前10：３０　６
10／５　火　午後１：００　午後１：３０　４
10／６　水　午後11：００　午後11：１５　入力２
←→↑↓で選び、決定を押してください
メモリーに書くにはお帰りなサーチを押してください

5 **↑/↓/←/→で頭出ししたい番組を選ぶ。**
↓/→で次の番組を、↑/←で前の番組を選ぶことができます。

6 **決定ボタンを押す。**
選んだ番組を頭出しして再生します。

番組の頭出しを途中でやめるには

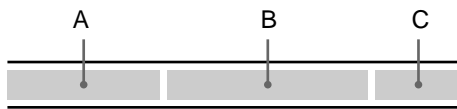
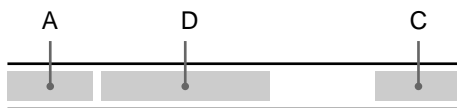
停止■ボタンを押します。

番組を録画していない部分に録画するには

録画を始める位置まで、テープを送ることができます。手順**5**で空白の行を選び、決定ボタンを押します。選んだ部分の頭まで早送りまたは巻き戻しをして、停止します。

録画した番組に他の番組を重ねて録画したときは

番組の頭に重ねて録画すると、その番組の内容はお帰りなサーチ画面から消えます。

お帰りなサーチで録画した番組

番組Dを重ねて録画すると、番組Bはお帰りなサーチ画面から消える

ちょっと一言

- リストには最大24番組まで表示されます。
- テープ時間を表示するには、あらかじめメニューの「各種設定」の「VHS設定」で「テープ残量切りかえ」（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）をテープの長さに設定してください。
- あらかじめメニューの「各種設定」の「VHS設定」で「お帰りなサーチ」を「自動」にしておくと、録画のあと手順**3**でVHSデッキを選んだときに、お帰りなサーチ画面を自動で表示できます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。あらかじめVHSデッキが選ばれているときは、ビデオの電源を入れたときに、お帰りなサーチ画面を自動で表示できます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- VHSテープに番組を標準で10分以上、3倍で30分以上録画したとき、録画中にお帰りなサーチボタンを押すと、お帰りなサーチ画面を表示できます。ただし番組を選んで頭出しすることはできません。録画を止めるときは、お帰りなサーチボタンを押してお帰りなサーチ画面を消してから操作してください。DVテープに録画中は、お帰りなサーチを使うことができます。
- 通常の録画や予約など、録画の方法にかかわらず、番組の内容はお帰りなサーチ画面に表示されます。ただし、ダビングや編集で録画した部分は、リストに表示されません。

ご注意

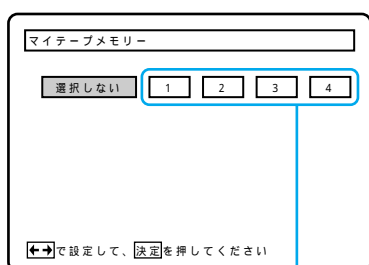
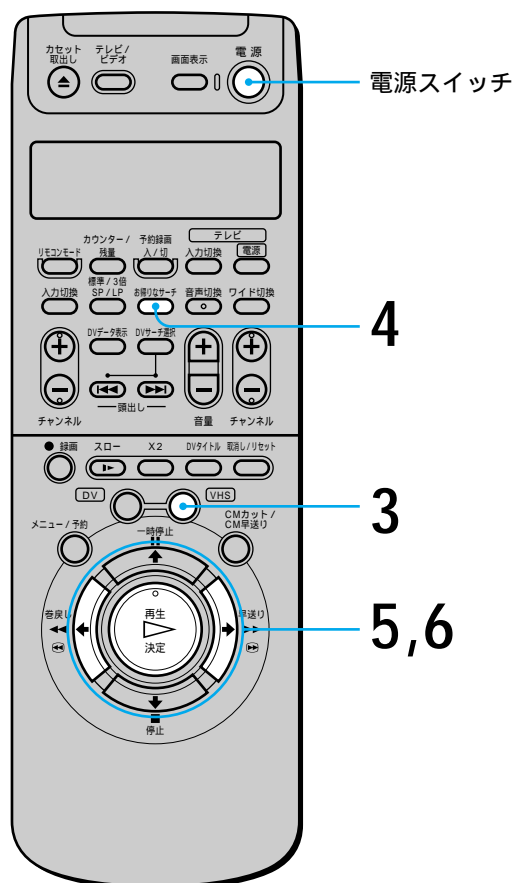
- 時計が設定されていないとお帰りなサーチはできません。
- テープの種類によっては、テープ時間および空き時間が正しく表示されないことがあります。
- 番組の録画時間が標準で10分未満、3倍で30分未満のときは、お帰りなサーチで頭出しができないことや、リストに表示されないことがあります。また、一度リストに表示された番組でも、次の番組を録画すると、リストから消えることがあります。
  お帰りなサーチで頭出しができないときでも、「前後の場面を順に頭出しする」（☞29ページ）で頭出しができます。
- 空き時間は、リストの最後に表示された番組の終わりからテープの終わりまでの時間です。また、お帰りなサーチを始める前に録画した番組は、空き時間として表示されます。
- 210分テープまたは30分以下のテープで、お帰りなサーチの頭出しをすると、正しい位置で頭出しできないことがあります。
- CMカットを設定して録画した番組は、リストに表示されないことがあります。

最大4本のテープでお帰りなサーチをする（マイテープメモリー）

マイテープメモリー機能を使うと、録画した番組の内容をテープごとに保存することができます。番組の頭出しなどをするときは、番組の内容を呼び出します。不要になった番組の内容は、テープごとに消去することができます。

番組の内容を保存する

マイテープメモリーでは、最大4本のテープの番組の内容を保存することができます。録画を始める前に、番組の内容を保存する番号を選びます。

マイテープメモリー画面

番組の内容を保存する番号

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

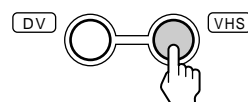
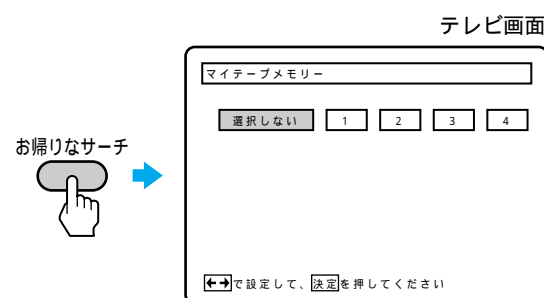
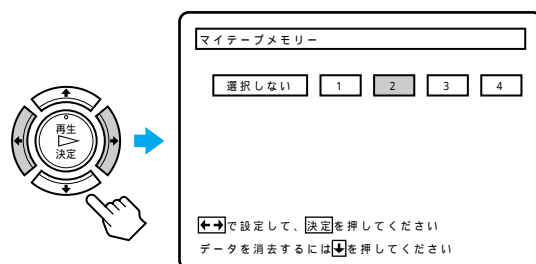
2 **録画したいカセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。

3 **VHSボタンを押す。**

4 **お帰りなサーチボタンを押す。**

テレビ画面

お帰りなサーチ

マイテープメモリー
選択しない 1 2 3 4
←→で設定して、決定を押してください

5 **←/→で保存したい番号を選ぶ。**
保存をやめたいときは、「選択しない」を選びます。

6 **決定ボタンを押す。**
マイテープメモリー画面が消えます。

7 **録画する。**
マイテープメモリーで選んだ番号に、番組の内容が保存されます。

録画のあとで保存する番号を選ぶには

録画が終わってから、番組の内容を保存することができます。

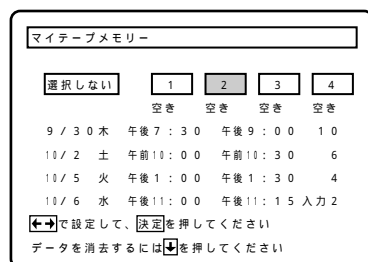
この操作は、録画したカセットを取り出す前に行ってください。

1 テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。

2 電源スイッチを押して、ビデオの電源を入れる。

3 VHSボタンを押す。

4 お帰りなサーチボタンを押す。

5 お帰りなサーチボタンを押す。

6 ←/→で保存したい番号を選ぶ。
保存をやめたいときは、「選択しない」を選びます。

7 決定ボタンを押す。
選んだ番号に、カセットの番組の情報が保存され、マイテープメモリー画面が消えます。

ちょっと一言

- メニューの「各種設定」の「VHS設定」で「マイテープメモリー」を「自動」にすると、次の場合にマイテープメモリー画面を自動的に表示することができます（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
  - VHSを選んでカセットを入れたとき
  - 番組の内容を保存する番号を選ばずに、録画したカセットを取り出したとき（カセットを取り出したまま、保存する番号を選んでください。保存する番号を選ばずにカセットを入れると、マイテープメモリー画面が消えます。）

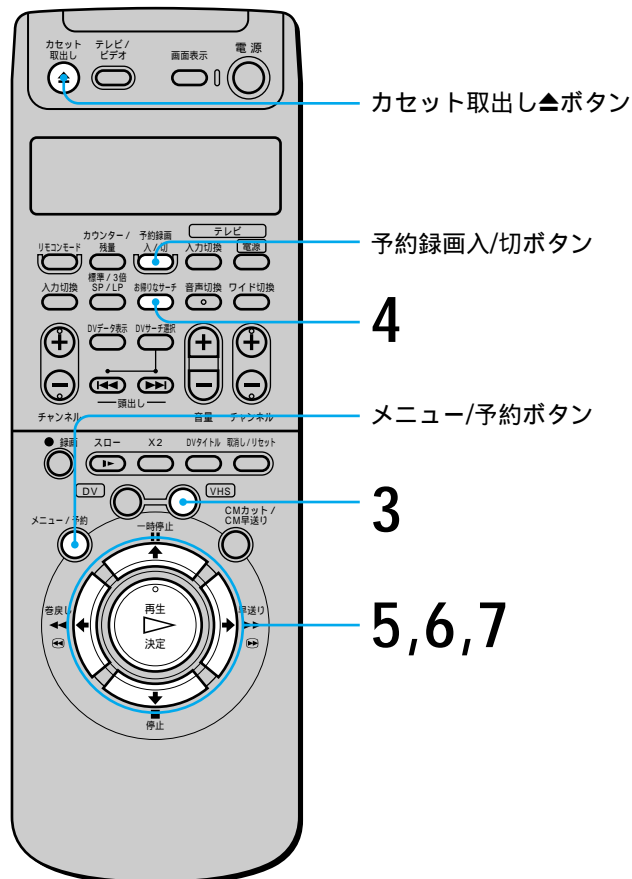
ご注意

- マイテープメモリー書き込み画面で、すでに番組の内容を保存してある番号を選んで、決定ボタンを押すと、以前保存した内容は消去されます。

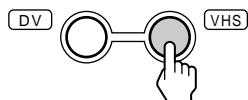
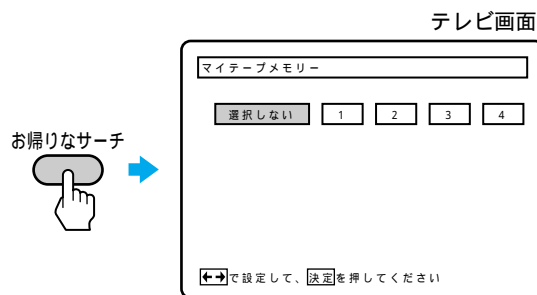
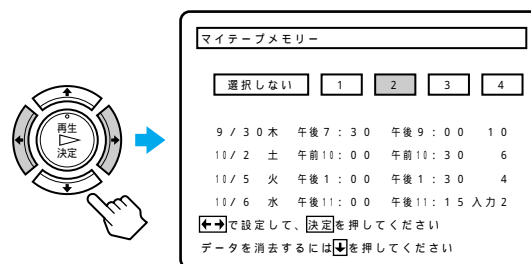
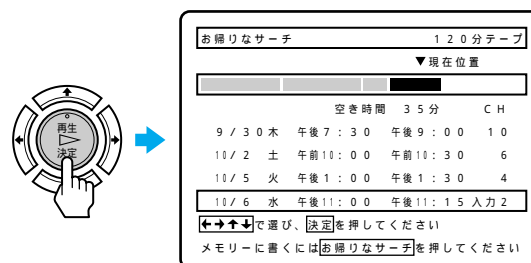
次のページにつづく

最大4本のテープでお帰りなサーチをする（つづき）

番組の内容を呼び出す

テープごとに保存した、番組の内容を呼び出します。お帰りなサーチ画面で、録画した番組の確認や、番組の頭出しなどをすることができます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。

3 VHS**ボタンを押す。**

4 **お帰りなサーチボタンを押す。**

5 **←/→で呼び出したい番号を選ぶ。**
選んだ番号に保存した、番組の内容が表示されます。

6 **決定ボタンを押す。**
番組の内容が表示されます。

7 **↑/↓/←/→で頭出ししたい番組を選び決定ボタンを押す。**
選んだ番組を頭出しして再生します。

番組を録画していない部分に録画するには

録画を始める位置まで、テープを送ることができます。手順**7**で空白の行を選び、決定ボタンを押します。選んだ部分の頭まで早送りまたは巻き戻しをして、停止します。

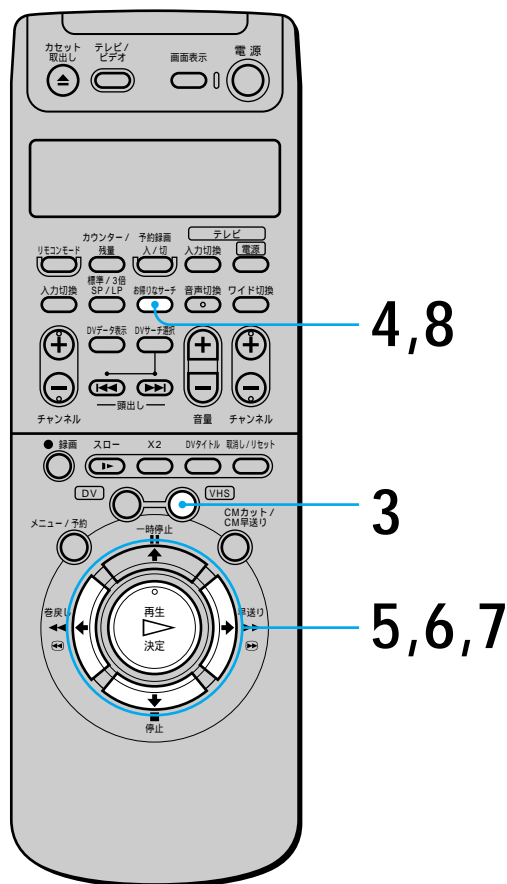
番号を間違えて呼び出したときは

カセット取出し⏏ボタンを押して、カセットを取り出します。その後、手順**2**からやり直します。

ご注意

- カセットのツメを折ると、そのテープのお帰りなサーチはできません。お帰りなサーチボタンを押しても、マイテープメモリー画面は表示されません。

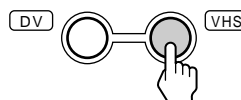
番組の内容を消去する

マイテープメモリーで、テープごとに保存した番組の内容を、消去することができます。

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **カセットを入れる。**
ビデオの電源が自動的に入ります。

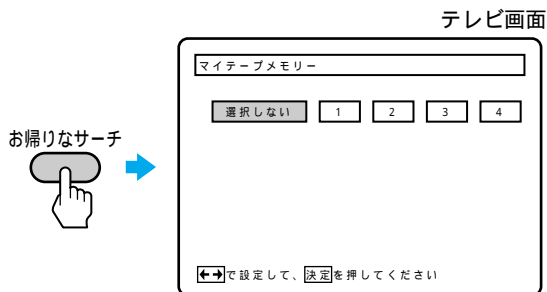
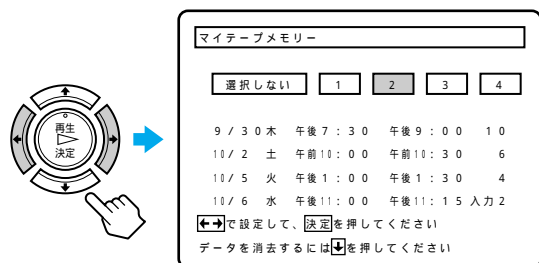
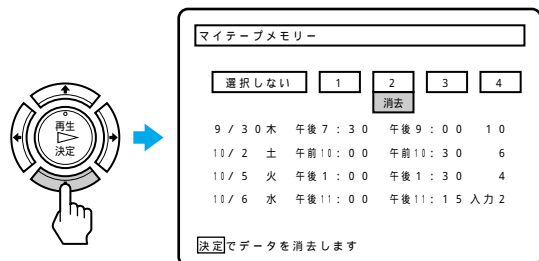
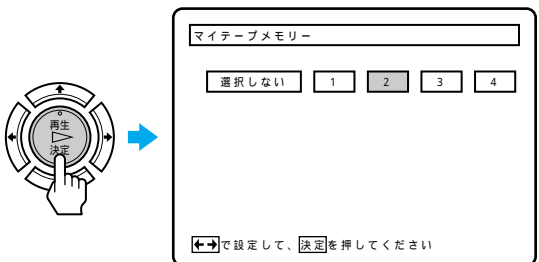
3 VHS**ボタンを押す。**

DV VHS

次のページにつづく

最大4本のテープでお帰りなサーチをする（つづき）

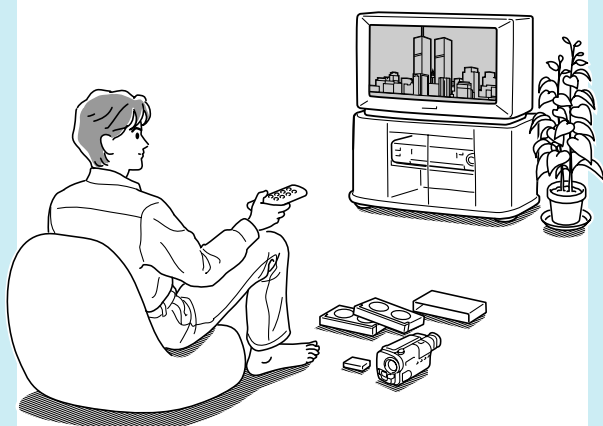
ちょっと一言

- 手順**2**では、番組の内容を消去したいカセットを入れる必要はありません。
  カセットの録画内容にかかわらず、希望の番号の内容を消去することができます。

4 **お帰りなサーチボタンを押す。**

5 **←/→で消去したい番号を選ぶ。**

6 **↓で「消去」を選ぶ。**

7 **決定ボタンを押す。**
番組の内容が消去されます。

8 **お帰りなサーチボタンを押す。**
お帰りなサーチ画面が消えます。

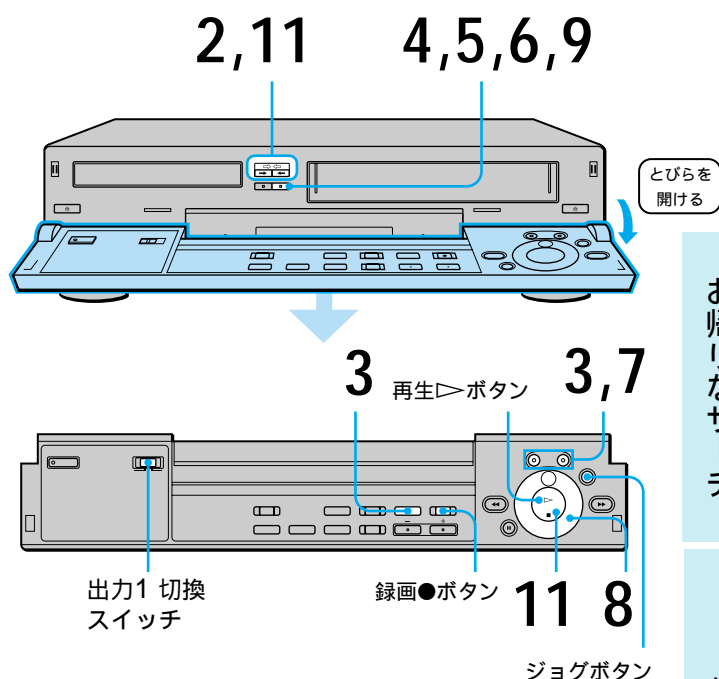
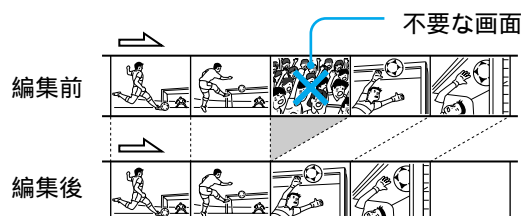
編集

ここでは、いろいろな編集のしかたについて説明します。
録画したテープの好きな場面を順につないで他のテープに録画することができます。また、好きな場面にタイトルを入れたテープを作ることもできます。2つの方法があります。

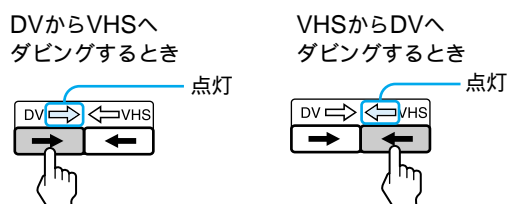
- カセットメモリー付きのDVテープを使って、好きな場面にタイトルを入れる（DVのみ）。
- 別売りのタイトラーをつないで編集する。

好きな場面だけつないで編集する

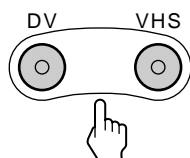
録画したテープから不要な場面をカットし、好きな場面だけをつないで他のテープに録画できます。
リモコンではできません。

お帰りなサーチ
編集

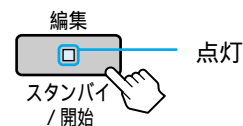
次のページにつづく

好きな場面だけつないで編集する（つづき）

1 **両方のデッキにカセットを入れ、編集を始める場面まで巻き戻し（または早送り）しておく。**

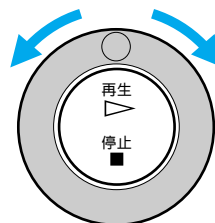
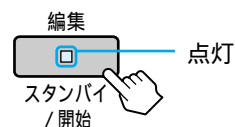
2 **DV➡/⬅VHSボタンを押して、ダビングの方向を選ぶ。**
大切な録画内容を消さないように、方向をしっかり確認してください。

3 **録画モードを選ぶ。**

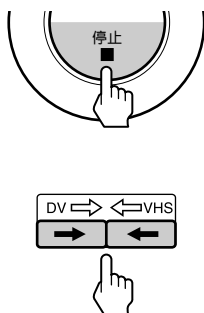
1 **DVまたはVHSボタンを押して録画側のデッキを選ぶ。**

2 **標準/3倍・SP/LPボタンを押して、録画モードを選ぶ。**

4 **編集スタンバイ/開始ボタンを押す。**
両方のデッキが一時停止状態になります 。

5 **編集スタンバイ/開始ボタンをもう1回押す。**
両方のデッキの一時停止が解除され、録画が始まります。

6 **不要な場面で編集スタンバイ/開始ボタンを押す。**
両方のデッキが一時停止状態になります。

7 **DVまたはVHSボタンを押して再生側のデッキを選ぶ。**

8 **クリックジョグ/シャトルを回して録画を再開したい場面を出し、再生一時停止にする。**
ジョグボタンを押してからクリックジョグ/シャトルを回すと、細かい位置あわせができて便利です（☛26ページ）。

9 **編集スタンバイ/開始ボタンを押す。**
録画が再開します。

10 **手順6から9を繰り返して、必要な場面をつないで録画していく。**

11 終わったら停止■ボタンを押し、DV➡/⬅VHSボタンを押して編集方向表示を消す。

手順6で不要な場面で止められず、テープが行きすぎたときは

1 DVまたはVHSボタンを押して録画側のデッキを選び、再生▷ボタンを押す。
2 クリックジョグ/シャトルを回して録画を再開したい場面を出し、再生一時停止にする。
3 DVまたはVHSボタンを押して再生側のデッキを選び、クリックジョグ/シャトルを回して録画を再開したい場面を出し、再生一時停止にする。
4 DVまたはVHSボタンを押して録画側のデッキを選び、録画●ボタンを押してから手順**9**以降を行う。

VHSデッキでAPCを働かせて録画するには

手順**4**でビデオ本体の「APC」表示が点滅するときは、VHSデッキを選んで録画●ボタンを押します。「APC」表示が点滅から点灯に変わります。これを確かめてから手順**5**に進んでください（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

ちょっと一言

- 操作中の画面表示は録画されません。
- 二か国語放送などで録画したテープをダビングするときは、あらかじめ再生し、リモコンの音声切換ボタンで音声を選んでおきます（☞30ページ）。
- 他機でアフレコしたテープを再生側で使うとき、記録したい音声を選べます。編集を始める前に次の設定を行ってください。
  ーアフレコしたDVテープを使うときは、メニューの「各種設定」の「DV設定」で「音声ミックス調整」を設定します（☞31ページ）。
  ーアフレコしたVHSテープを使うときは、メニューの「各種設定」の「VHS設定」で「音声ミックス」を設定します（☞32ページ）。
- DVテープに録画するときは、音声記録モード（12ビット、16ビット）を選べます（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- DVの録画情報を表示して、VHSに録画することができます。録画情報を表示するには、DVテープ再生中にDVデータ表示ボタンを押します（☞36ページ）。
- 次の場合は、画面表示が出ません。
  ー本機の出力1端子と、テレビまたは他機の入力端子をつないで、出力1切換スイッチを「ノーマル」以外にしたとき。
  画面表示が出ない状態でダビングしたいときに便利です。
  画面表示を出したいときは、元の接続や設定に戻してください。

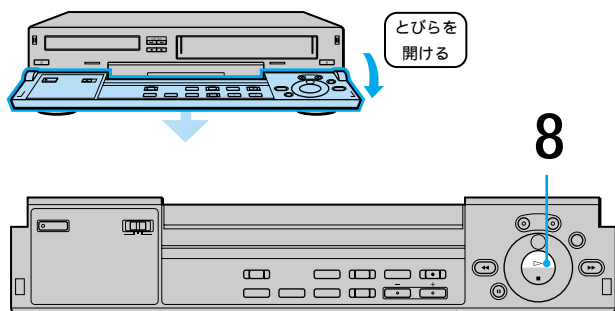
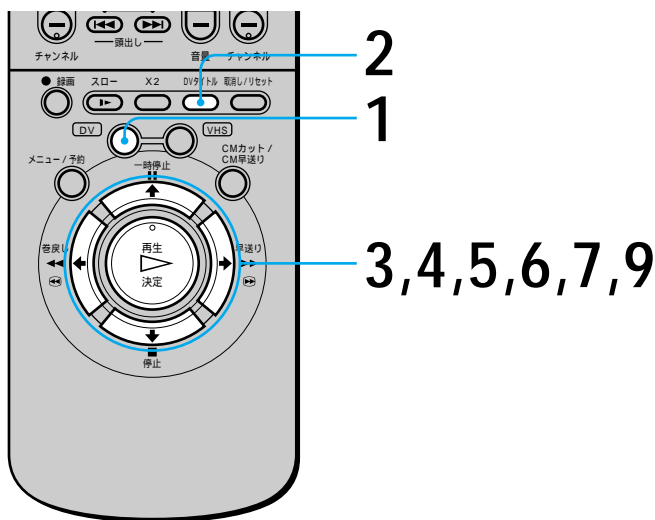
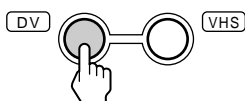
ご注意

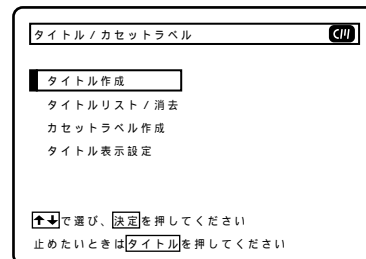
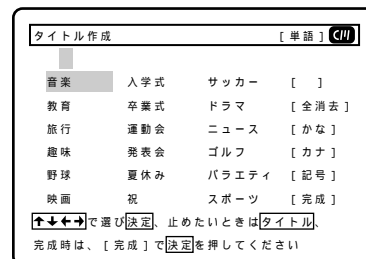
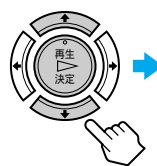
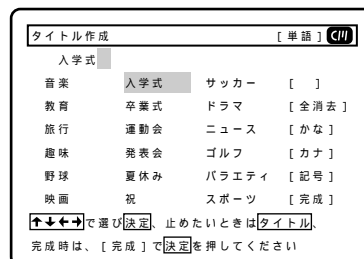
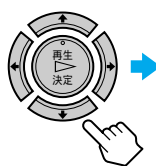
- つないだ部分の最初の画像が乱れることがあります。
- テープの頭から録画すると、始めの数秒は映像や音声が欠けることがあります。
  テープの頭に数秒間の無信号部分を記録してから録画を始めると、これを避けられます。
- 手順**4**で、編集スタンバイ/開始ボタンを押しても一時停止状態にならない場合は、少し時間をおいてから、もう一度編集スタンバイ/開始ボタンを押してください。
- 手順**4**および手順**6**で、両方のデッキの一時停止状態が5分以上続くと、再生側のデッキは再生に、録画側のデッキは停止状態になります。
- 再生側で、無記録部分の直後を録画開始の場面にして編集すると、無記録部分から録画されることがあります。無記録部分を録画したくないときは、無記録部分が終了して、数秒過ぎたところを録画開始の場面にしてください。

タイトルを入れる
（カセットメモリー付きDVのみ）

カセットメモリー付きのDVテープには、タイトルを好きな場面に重ねて入れられます。タイトルを入れたDVテープからダビングすると、タイトルの入ったVHSテープなどを作ることもできます。入れたタイトルは、再生したときに約5秒間表示されます。
タイトルはカセットメモリーに記録されます（☞73ページ）。

好きな場面にタイトルを入れる

あらかじめ用意されている18種類の単語から、タイトルを選べます。また、ひらがなやカタカナ、記号などを組み合わせて、最大20文字のオリジナルタイトルを作成できます。色・位置・サイズを選んで、好きな場面に入れられます。

1 DVボタンを押す。

2 DVタイトルボタンを押す。

テレビ画面

3 ↑/↓で「タイトル作成」を選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓/←/→で単語を選び、決定ボタンを押す。
選んだ単語がテレビ画面に表示されます。

- **ひらがなやカタカナ、記号を使ってオリジナルタイトルを作成したいときは**

  1 **↑/↓/←/→で［かな］または［カナ］、［記号］を選び、決定ボタンを押す。**
  ひらがなやカタカナ、アルファベットなどを選べる画面に移ります。［単語］を選ぶと、単語を選べる画面に戻ります。

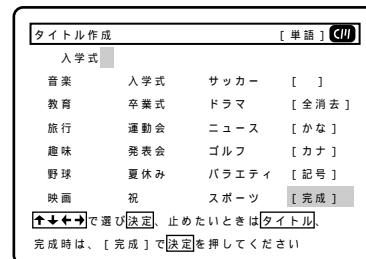
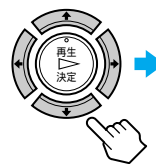
  2 **↑/↓/←/→で文字を選び、決定ボタンを押す。**
  選んだ文字がテレビ画面に表示されます。これを繰り返して、タイトルを作成します。

- **間違えたときは**
  －1文字ずつ消すには、↑/↓/←/→で［←］を選び、決定ボタンを押します。
  －すべての文字を消すには、↑/↓/←/→で［全消去］を選び、決定ボタンを押します。

5 ↑/↓/←/→で［完成］を選ぶ。

タイトル作成　［単語］
入学式

音楽	入学式	サッカー	［←］
教育	卒業式	ドラマ	［全消去］
旅行	運動会	ニュース	［かな］
趣味	発表会	ゴルフ	［カナ］
野球	夏休み	バラエティ	［記号］
映画	祝	スポーツ	［完成］

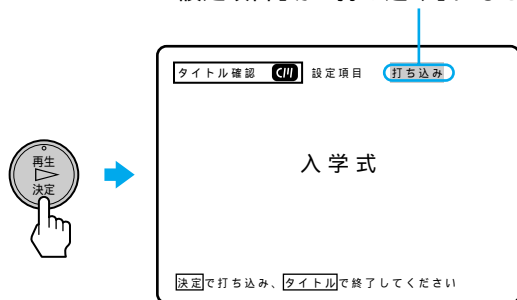
↑↓←→で選び決定、止めたいときはタイトル、
完成時は、［完成］で決定を押してください

6 決定ボタンを押す。

「タイトル確認」の画面が出ます。

「設定項目」が「打ち込み」になる

タイトル確認 設定項目 打ち込み

入学式

決定で打ち込み、タイトルで終了してください

7 色・サイズ・位置を指定する。

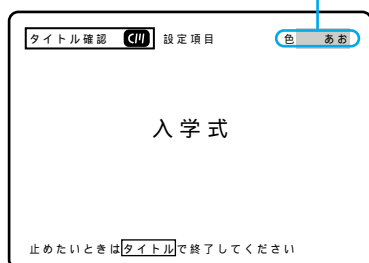
表示されている色・サイズ・位置でよいときは、手順**8**にすすんでください。

1 ↑/↓で「色」、「サイズ」または「位置」を選び、決定ボタンを押す。

2 ↑/↓で設定する。

↓を押すたびに次のように切り換わります。

色	しろ→きいろ→みずいろ→みどり→むらさき→あか→あお
サイズ	小さい→大きい
位置	1（画面の上の部分）→2→3→4→5→6→7→8（画面の下の部分）→9（「サイズ」が「小さい」のときのみ）

「色」を「あお」にしたとき

3 決定ボタンを押す。

選んだ項目が設定されます。

4 他の項目も変えたいときは、手順1から3を繰り返す。

5 ↑/↓で「打ち込み」を選び、決定ボタンを押す。

8 ビデオ本体の再生▷ボタンを押して、タイトルを入れたい場面で再生一時停止にする。

9 決定ボタンを押す。

「タイトル打込み中」の表示が出ます。
約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶されます。

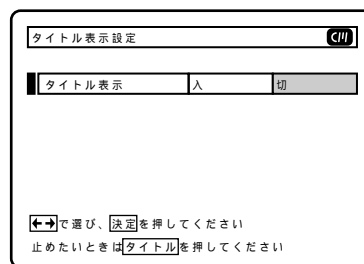
タイトル作成を途中でやめるには

DVタイトルボタンを押します。

タイトルが入らないときは

カセットメモリーがいっぱいになっています。手順**6**で決定ボタンを押してもタイトルを入れられないときは、「カセットメモリーの内容を消す」（☞60ページ）にしたがって、カセットメモリーの不要なデータを消してください。

タイトルを表示したくないときは

1 DVタイトルボタンを押す。
2 ↑/↓で「タイトル表示設定」を選び、決定ボタンを押す。
3 ←/→で「切」を選び、決定ボタンを押す。

ちょっと一言

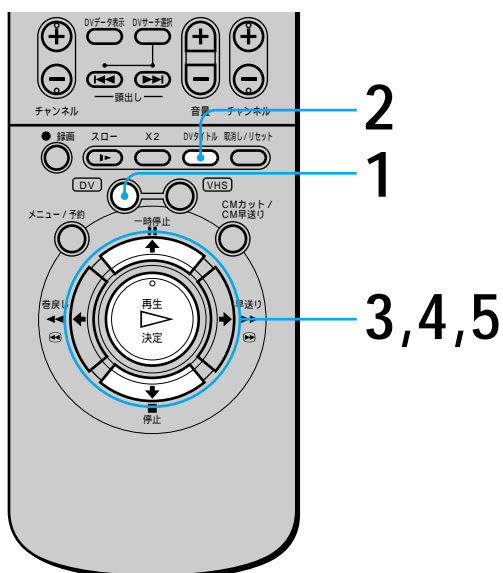
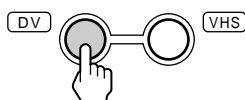
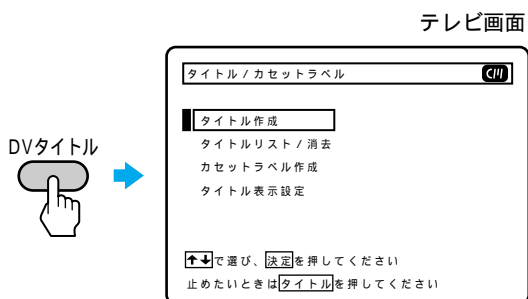
- 1本のカセットに、
  —通常、平均5文字で約18タイトルを入れることが可能です。
  —入力する文字数によって、入れられるタイトル数は変わります。
  —すでに、頭出し信号やカセットラベルがカセットメモリー最大容量まで入っているときは、入れられるタイトル数は平均5文字で11個です。
  1本のカセットメモリーの最大容量は次の通りです。
  頭出し信号：　12個
  カセットラベル：　1個

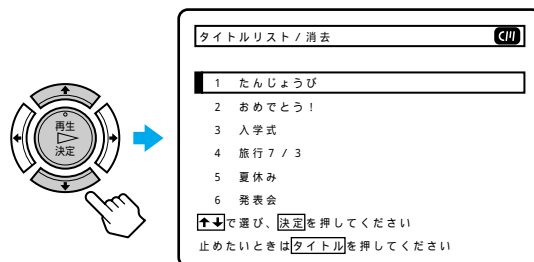
ご注意

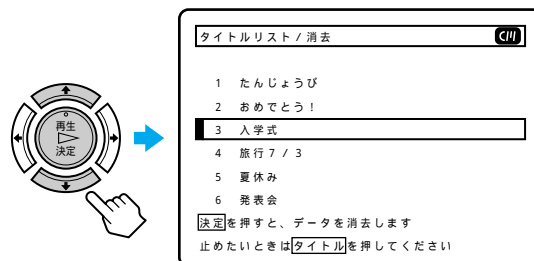
- テープの何も録画していない部分には、タイトルを入れられません。
- カセットのつまみが記録不可になっていると、タイトルを入れられません。つまみを元に戻してください（☞72ページ）。
- 手順**8**で再生一時停止状態が5分以上続くと、自動的に再生に戻ります。もう一度再生一時停止状態にしてください。
- 録画した部分の間に無記録の部分があるテープでは、タイトルが正しい位置に表示されないことがあります。
- タイトルで使用できる文字の種類は機器により異なります。したがって、本機で入れたタイトルが他機では正しく表示されないことがあります。

次のページにつづく

タイトルを確認する・消す

入れたタイトルの一覧をテレビ画面で確認できます。また、不要なタイトルを消すことができます。

1 **DVボタンを押す。**

2 **DVタイトルボタンを押す。**

3 **↑/↓で「タイトルリスト/消去」を選び、決定ボタンを押す。**

入れたタイトルが表示されます。6つ以上入れたときは、↓を押すと確認できます。DVタイトルボタンを押すとメニューが消えます。

4 **↑/↓で消したいタイトルを選び、決定ボタンを押す。**

確認のメッセージが出ます。

5 **決定ボタンを押す。**

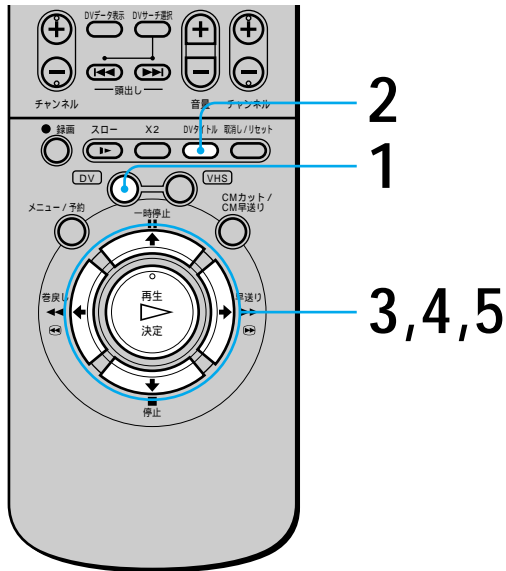
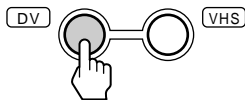
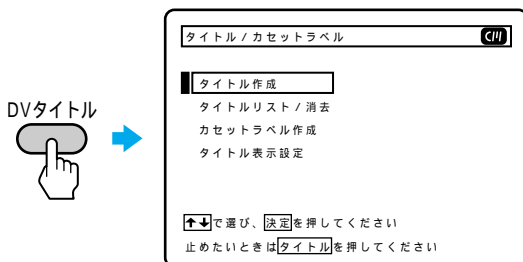
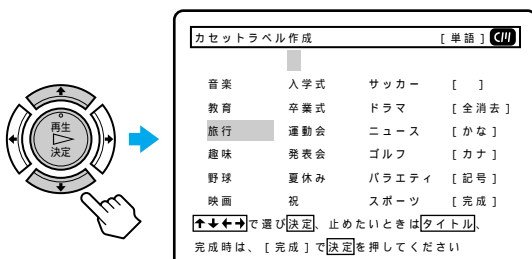
タイトルが消えます。

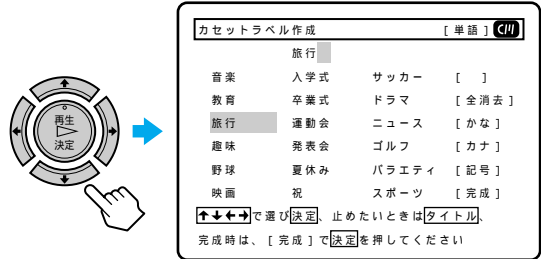
ちょっと一言

- タイトルを変更したいときは、いったん消してから、もう一度作って入れ直してください。

カセットになまえを付ける

（カセットラベル）

カセットメモリー付きのDVテープには、最大10文字のなまえ（カセットラベル）を付けられます。カセットラベルは、カセットを入れたときまたは、カセットが入っていて電源を入れたときに、約5秒間テレビ画面に表示されます。再生しなくてもテープの内容を確認することができて便利です。

1 **DVボタンを押す。**

2 **DVタイトルボタンを押す。**

3 **↑/↓で「カセットラベル作成」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **↑/↓/←/→で単語を選び、決定ボタンを押す。**

選んだ単語がテレビ画面に表示されます。

- **ひらがなやカタカナ、記号を使ってオリジナルカセットラベルを作成したいときは**

  1 **↑/↓/←/→で［かな］または［カナ］、［記号］を選び、決定ボタンを押す。**

  ひらがなやカタカナ、アルファベットなどを選べる画面に移ります。［単語］を選ぶと、単語を選べる画面に戻ります。

  2 **↑/↓/←/→で文字を選び、決定ボタンを押す。**

  選んだ文字がテレビ画面に表示されます。これを繰り返して、カセットラベルを作成します。

- **間違えたときは**

  －1文字ずつ消すには、↑/↓/←/→で［←］を選び、決定ボタンを押します。

  －すべての文字を消すには、↑/↓/←/→で［全消去］を選び、決定ボタンを押します。

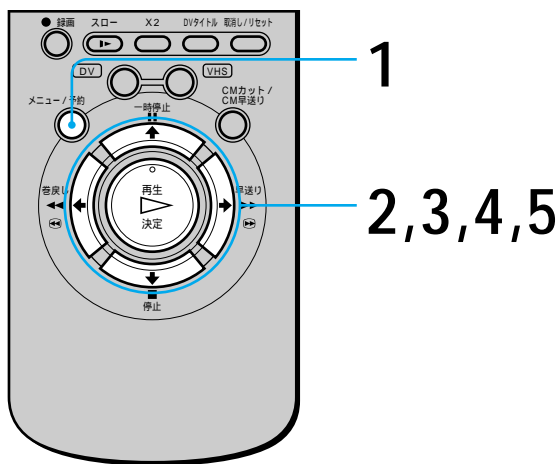
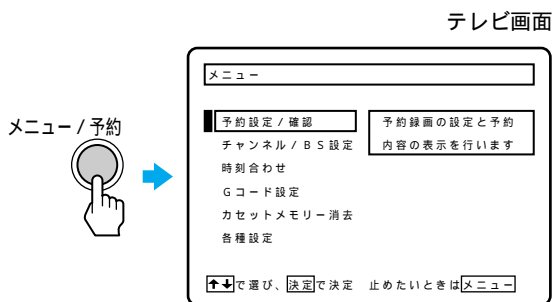
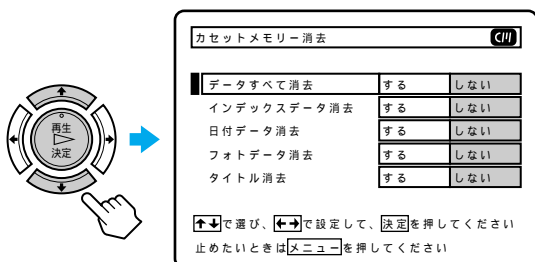
5 **完成したら↑/↓/←/→で［完成］を選び、決定ボタンを押す。**

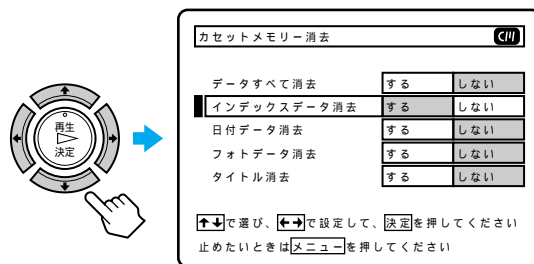
カセットラベルが記録され、元の画面に戻ります。

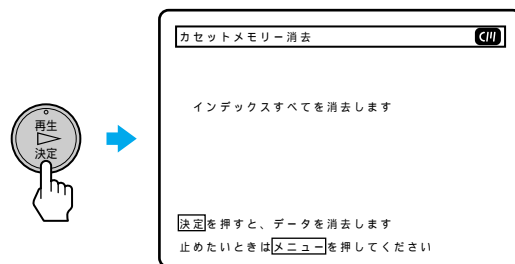
ご注意

- カセットのつまみが記録不可になっていると、カセットラベルを入れられません。つまみを元に戻してください（☛72ページ）。
- カセットラベルで使用できる文字の種類は機器により異なります。したがって、本機で入れたカセットラベルが他機では正しく表示されないことがあります。

カセットメモリーの内容を消す（カセットメモリー付きDVのみ）

カセットメモリーに記録されたインデックス、日付、フォトデータ、タイトルをそれぞれ消すことができます。また、タイトルデータも含めたすべてのデータをまとめて消すこともできます。カセットメモリーがいっぱいで新しいタイトルを入れられないときや、テープを編集して不要な頭出し信号が多く入っているときなどは、以下の手順にしたがって不要なデータを消してください。

1 **メニュー/予約ボタンを押す。**

2 **↑/↓で「カセットメモリー消去」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **↑/↓で消したい項目を選び、←/→で「する」にする。**

「データすべて消去」を選ぶと、インデックス、日付、フォトデータおよびタイトルデータなどがすべて消えます。

4 **決定ボタンを押す。**

確認のメッセージが出ます。

5 **決定ボタンを押す。**

手順**3**で選んだ項目が消去されます。終わると元の画面に戻ります。途中でやめたいときは、メニューボタンを押してください。

ちょっと一言

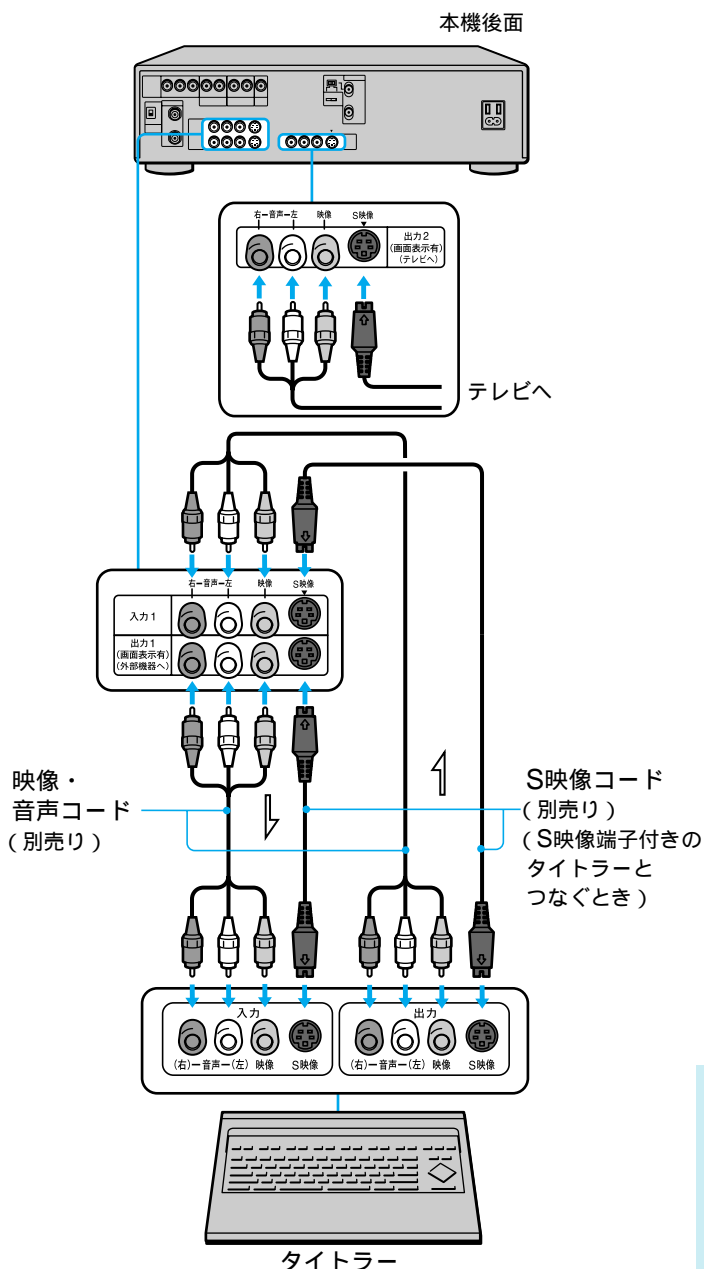
- 手順**3**では、消したい項目を一度に2つ以上選ぶこともできます。

ご注意

- カセットのつまみが記録不可になっていると、データを消去できません。つまみを元に戻してください（☞72ページ）。

別売りのタイトラーを使って編集する

本機にタイトラーをつなぐと、タイトラーで作った文字や絵を再生側の映像に重ねて、文字や絵の入ったテープを作ることができます。
タイトラーをつないで編集するときは、本機のDV➡/⬅VHSボタンと編集スタンバイ/開始ボタンは使えません。以下のように操作してください。
お手持ちのタイトラーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

⇀：映像・音声信号の流れ

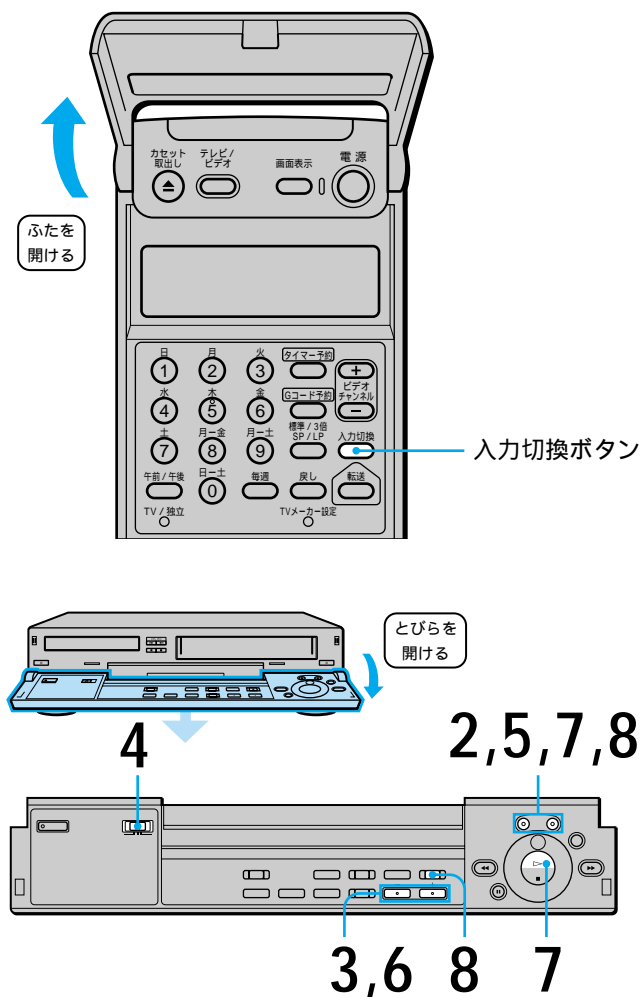
ちょっと一言

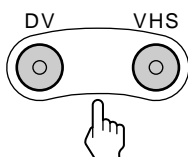
- 本機の入力1端子にS映像コードをつないだときは、映像・音声コードの映像端子（黄）はつなぎません。このとき、メニューの「各種設定」の「一般設定」で「映像入力1」を「S映像」にします（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。（入力2端子にS映像コードをつないだときは、映像信号は自動的にS映像端子に入力されます。）

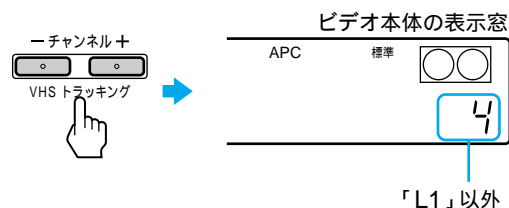
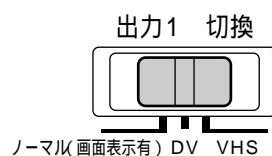
編集

次のページにつづく

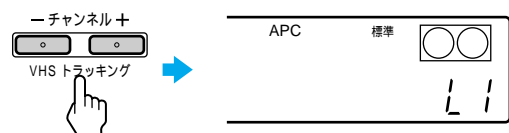
別売りのタイトラーを使って編集する（つづき）

タイトルを入れる

1 **両方のデッキにカセットを入れ、タイトルを入れる場面の少し前まで巻き戻し（または早送り）しておく。**

2 **DVまたはVHSボタンを押して再生側のデッキを選ぶ。**

3 **ビデオ本体の表示窓に「L1」以外の表示を出す。**

チャンネル＋/－ボタンで「L1」以外のチャンネルにしてください。「L1」になっていると、「ブーン」という音が出ることがあります。

4 **出力1 切換スイッチを再生側のデッキ(DVまたはVHS)に合わせる。**

5 **DVまたはVHSボタンを押して、録画側のデッキを選ぶ。**

6 **チャンネル＋/－ボタンを押して、ビデオ本体の表示窓に「L1」を出す。**

タイトラーからの映像が画面にでます。この状態でタイトル作成できます。

7 **DVまたはVHSボタンを押して再生側のデッキを選び、再生▷ボタンを押す。**

8 DVまたはVHSボタンを押して録画側のデッキを選び、録画●ボタンを押す。

9 タイトルを入れたい場面になったら、タイトラーを操作して画面にタイトルを出す。

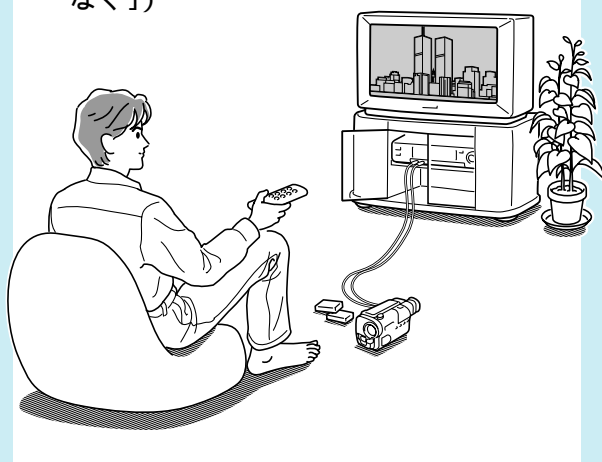
ちょっと一言

- 手順**3**および手順**6**で入力切換ボタンを押して選ぶこともできます。

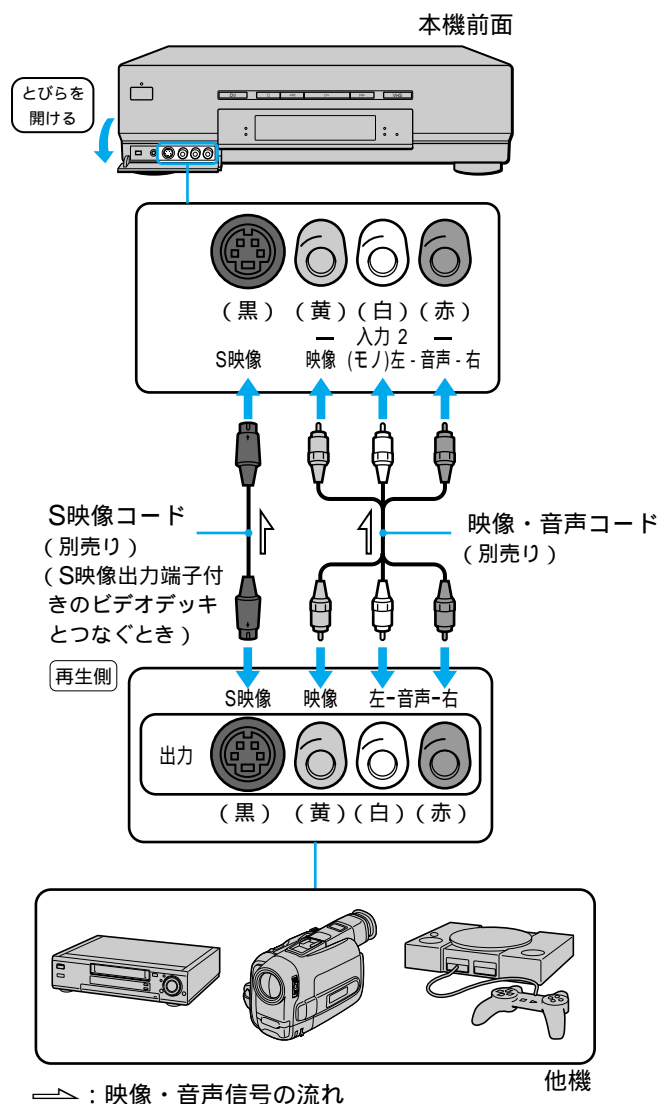
編集

他機をつないで行う操作

ここでは、本機にいろいろな機器をつないでできる操作について説明します。
ビデオカメラでとった画像を見たり、ゲームをするときは、本機の前面入力端子を使うと便利です。本機に他のビデオデッキやビデオカメラをつないで、テープをそのままダビングしたり、必要なところをつないで編集したりできます。
また、LANCコントロール機能のある機器とつないで、編集することができます。
以下の機器の接続は（　）内のページをご覧ください。

- BSデコーダー（WOWOW）
（☞別冊「接続と準備」の「デコーダーやケーブルテレビなどをつなぐ」）
- ハイビジョンテレビ・MUSE-NTSCコンバーター（☞別冊「接続と準備」の「デコーダーやケーブルテレビなどをつなぐ」）
- ケーブルテレビ（CATV）
（☞別冊「接続と準備」の「デコーダーやケーブルテレビなどをつなぐ」）
- デジタルCSチューナー（☞別冊「接続と準備」の「デジタルCSチューナーをつなぐ」）

ビデオ機器をつないで見る・ゲームをする

テレビに映像・音声入力端子がなかったり、後面にしかない場合、本機前面の入力2端子にビデオカメラやゲームなどをつなぐと便利です。

接続する

ご注意

- 本機の入力2端子につなぐ機器に音声出力端子が1個しかない場合は、音声コードを必ず音声左（モノ）端子につないでください。
- 本機の入力1端子につなぐ機器に音声出力端子が1個しかない場合は、別売りの映像・音声コードVMC-910MSなどでつないでください。

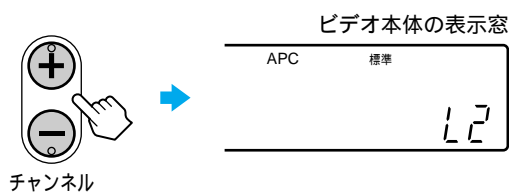
ビデオを見る・ゲームをする

1 **テレビの電源を入れてから、テレビの入力を「ビデオ」に切り換える。**

2 **電源スイッチを押して、本機の電源を入れる。**

3 **チャンネル+/−ボタンを押して「L2」を選ぶ。**

+ボタンを押すたびに次のように切り換わります。

VHF/UHFチャンネル（CH1、CH3、…）→BSチャンネル（BS1、BS3、…）→入力1（L1）→入力2（L2）→DV入力（DV：DVのみ）

4 **本機の入力端子につないだ機器の電源を入れて、その機器の再生をする。**

ちょっと一言

- 手順**3**で入力切換ボタンを押しても「L2」が選べます。押すたびに次のように切り換わります。
  VHF/UHFチャンネル→BSチャンネル→入力1（L1）→入力2（L2）→DV入力（DV：DVのみ）

ビデオ機器をつないでダビング・編集する

テープの内容を別のテープに録画します。つないだ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

途中で止めずにそのままダビングするとき

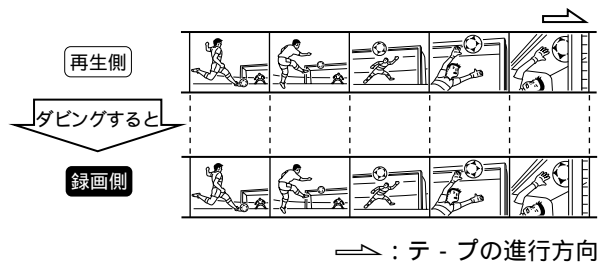
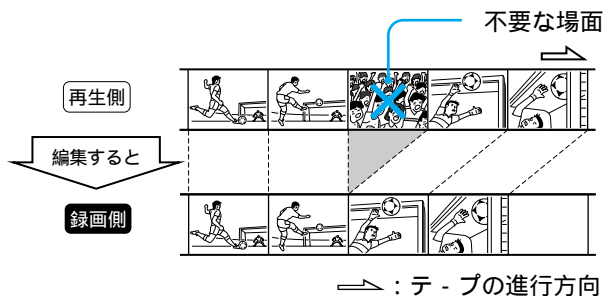
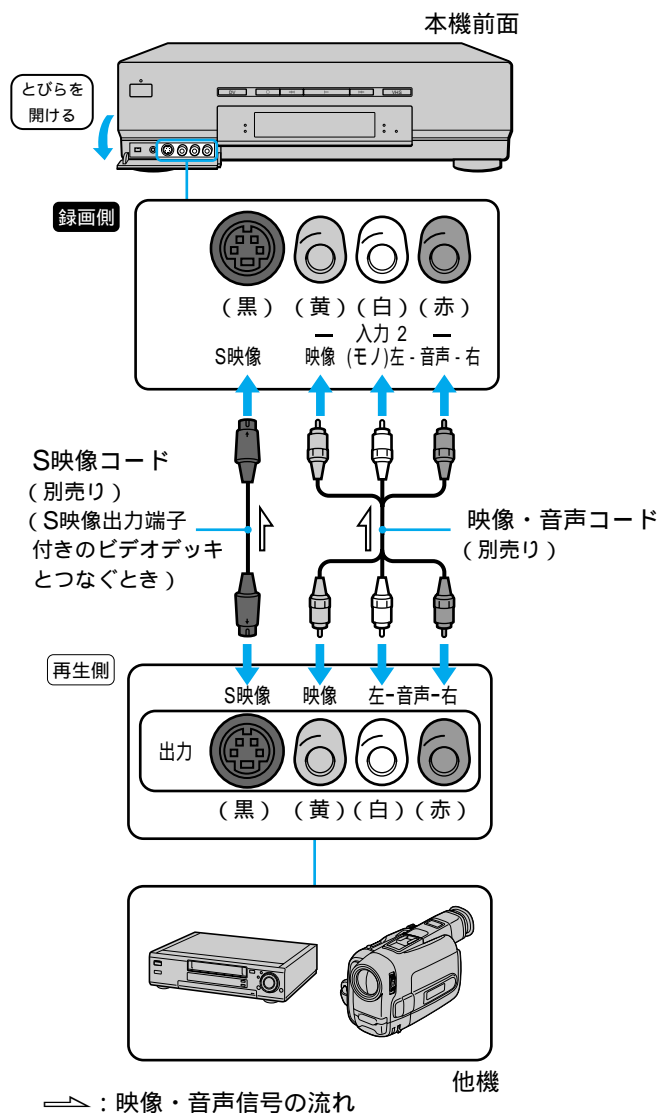
：テープの進行方向

好きな場面だけ編集するとき

：テープの進行方向

接続する

本機で録画するとき

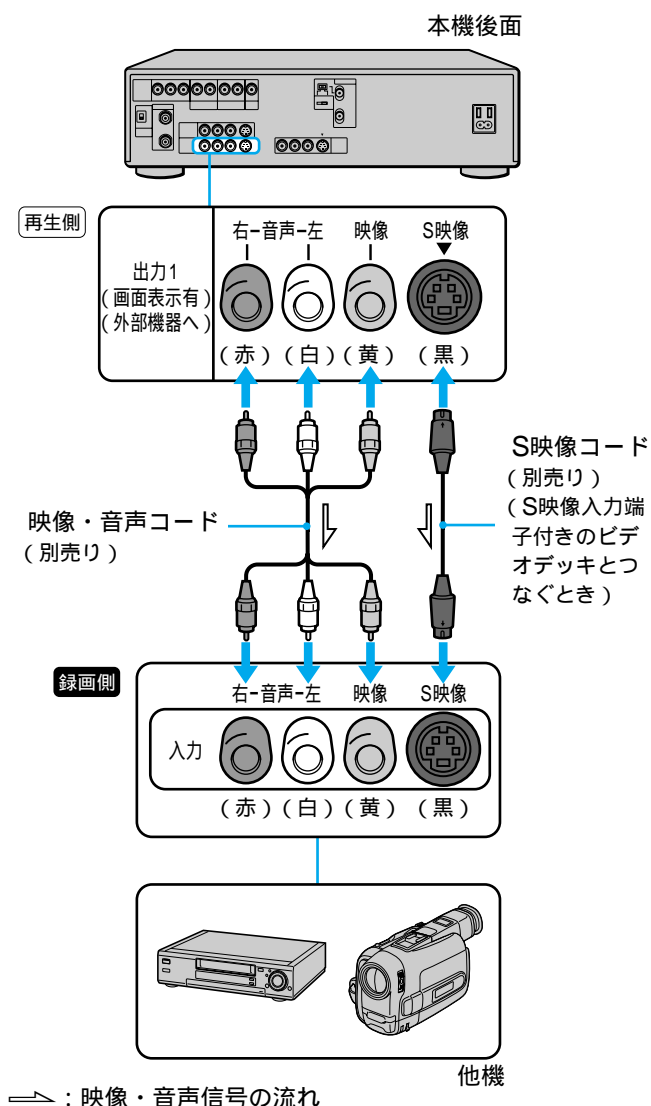
：映像・音声信号の流れ

ちょっと一言

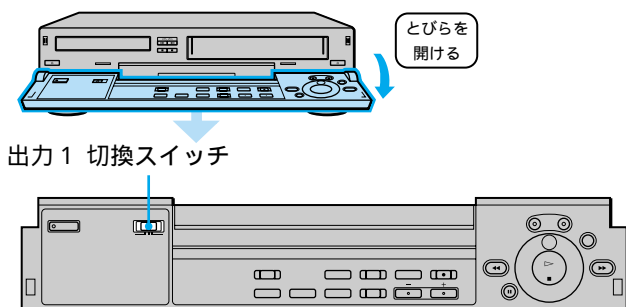
- 再生側の機器がモノラルのときは、音声コードは必ず音声左（モノ）端子につないでください（入力2のみ）。
- 本機で録画するときに、本機後面の入力1端子を使うこともできます。
- 本機の入力1端子にS映像コードをつないだときは、映像・音声コードの映像端子（黄）はつなぎません。このとき、メニューの「各種設定」の「一般設定」で「映像入力1」を「S映像」にします（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。（入力2端子にS映像コードをつないだときは、映像信号は自動的にS映像端子に入力されます。）

ご注意

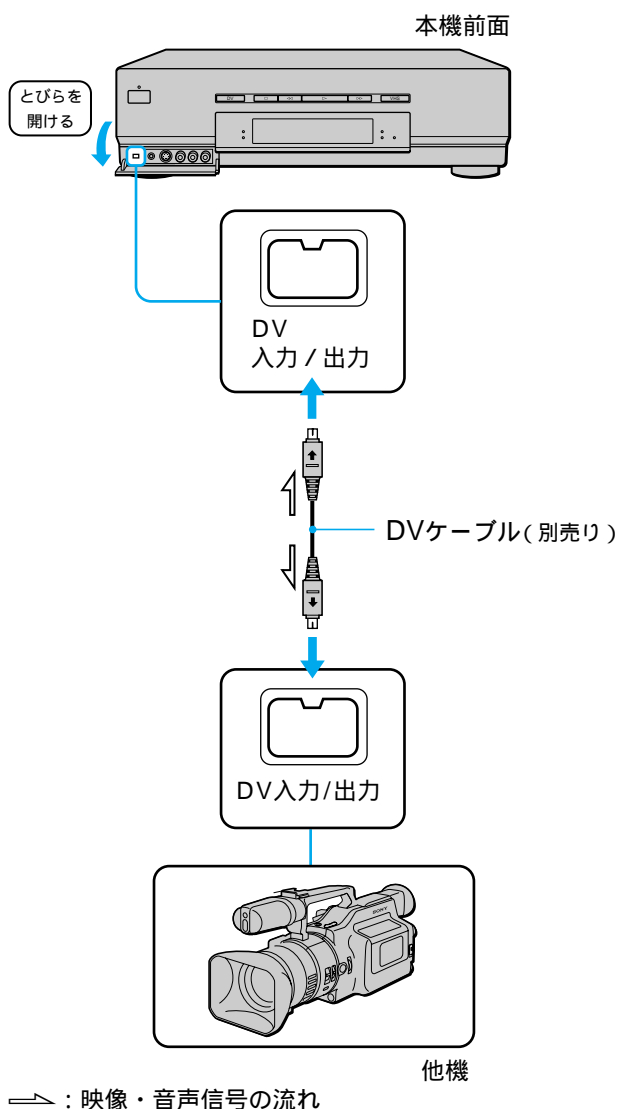
- 本機の出力端子を他機の入力端子へつないだまま、その機器の出力端子を本機の入力端子へつながないでください。ブーンという音が出ることがあります。
- テープの頭から録画すると、始めの数秒は映像や音声が欠けることがあります。
  テープの頭に数秒間の無信号部分を記録してから録画を始めると、これを避けられます。

本機で再生するとき

：映像・音声信号の流れ

ちょっと一言

- S映像コードでつないだときは、映像・音声コードの映像端子（黄）はつなぎません。
- 本機の出力1端子に他機を接続すると、本機前面の出力1 切換スイッチでDVデッキまたはVHSデッキのどちらかの映像に固定できます。誤録画を防止するのに便利です。このとき、画面表示は録画されません（出力1 切換スイッチを「ノーマル」にすると、選んでいるデッキの映像が出力されます）。

DV入力/出力端子のあるビデオ機器と接続するとき

DV入力/出力端子を使ってデジタルビデオとつなぐと、画像や音声をデジタル信号のまま伝送し、画質や音質をほとんど劣化させずに編集できます。また、機器の状態によって信号の流れる方向を自動的に切り換えるため、入力/出力に応じてつなぎなおす必要がありません。
なお、本機が録画側になるときは、必ず入力を「DV」に切り換えてください（☞68ページ）。

：映像・音声信号の流れ

ちょっと一言

- 本機のi.DV入力/出力端子から出力されるのは、DVテープの再生信号のみです。テレビ放送やBS放送、本機の入力端子につないだ機器の信号、VHSデッキの再生信号などは出力されません。
- i.DV入力/出力端子につないだ機器からVHSデッキに録画することはできません。
- i.DV入力/出力端子を使ってつないだとき、再生側のテープに記録された録画情報（録画した日時、カメラ情報など）は、そのまま録画側に伝送されます。ただし、カセットメモリーの内容は伝送されません。
- i.DV入力/出力端子を使ってつないだとき、録画側のテープの音声記録モードは再生側と同じになります。本機で録画するときに音声記録モードを変えたいときは、入力1または入力2端子につないでください。

ダビング・編集する

テープの内容をそのままダビングしたり、好きな場面だけ編集することができます。

1 テレビの電源を入れてから、テレビの入力を録画側の機器に切り換える。

2 録画側　再生側

両方のビデオデッキにカセットを入れる。

3 再生側

画面表示を消す。

画面表示を出したままにしておくと、画面表示もいっしょに録画されます。
本機が再生側のときは、ビデオ本体の出力1切換スイッチで再生するテープの入ったデッキを選んでください。画面表示が録画されなくなります。

4 再生側

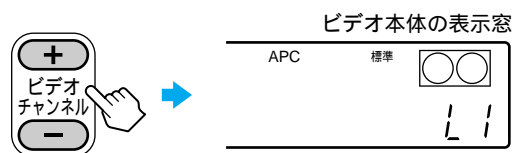
二か国語放送などのテープからダビングするときは、録音したい音声を選ぶ。

本機が再生側のときは、あらかじめ再生し、音声切換ボタンを押して選びます。
音声切換ボタンが再生側の機器にないときは、この手順をとばします。

5 録画側

再生側の機器をつないでいる入力（「入力1」、「入力2」、「DV」など）に切り換える。

本機が録画側のときは、再生側の機器をつないでいる入力端子を、ビデオチャンネル+/−ボタンで選びます。

- 入力1端子のときは「L1」
- 入力2端子のときは「L2」
- i.DV入力/出力端子のときは「DV」（DVのみ）

6

録画側

録画モードを選ぶ。

本機が録画側のときは、標準/3倍・SP/LPボタンを押して選びます。

7

録画側

録画一時停止にする。

再生側

再生一時停止にする。

8

録画側 再生側

両方の一時停止を解除する。

録画が始まります。

9

好きな場面だけ編集するとき

録画側

画像を見ながら、不要な場面で録画一時停止にする。

再生側

録画を再開したい場面の直前で再生一時停止にする。

手順**8**と**9**を繰り返して、好きな場面だけ編集します。

10

録画側 再生側

録画が終わったら、両方の停止ボタンを押す。

音声をアフレコしたDVテープをダビング・編集するときは（本機が再生側のとき）

手順**4**でメニューを使って、録音したい音声を選んでください（☞31ページ）。メニューの「各種設定」の「DV設定」で「音声ミックス調整」を設定して選びます。

ただし、DV入力/出力端子を使って他機をつないだときは、再生側のテープに録音されている状態で、そのまま録音されます。「音声ミックス調整」で設定しても、音声を選んで録音することはできません。

ちょっと一言

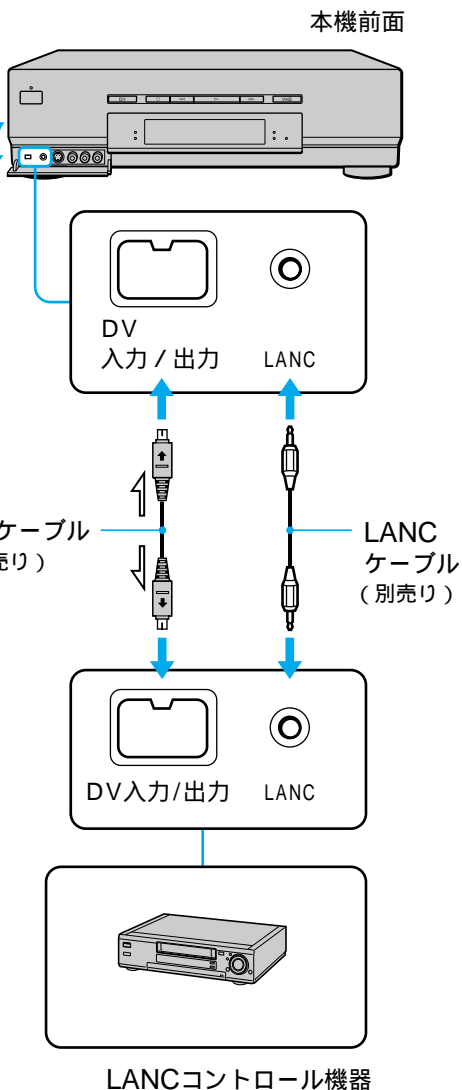
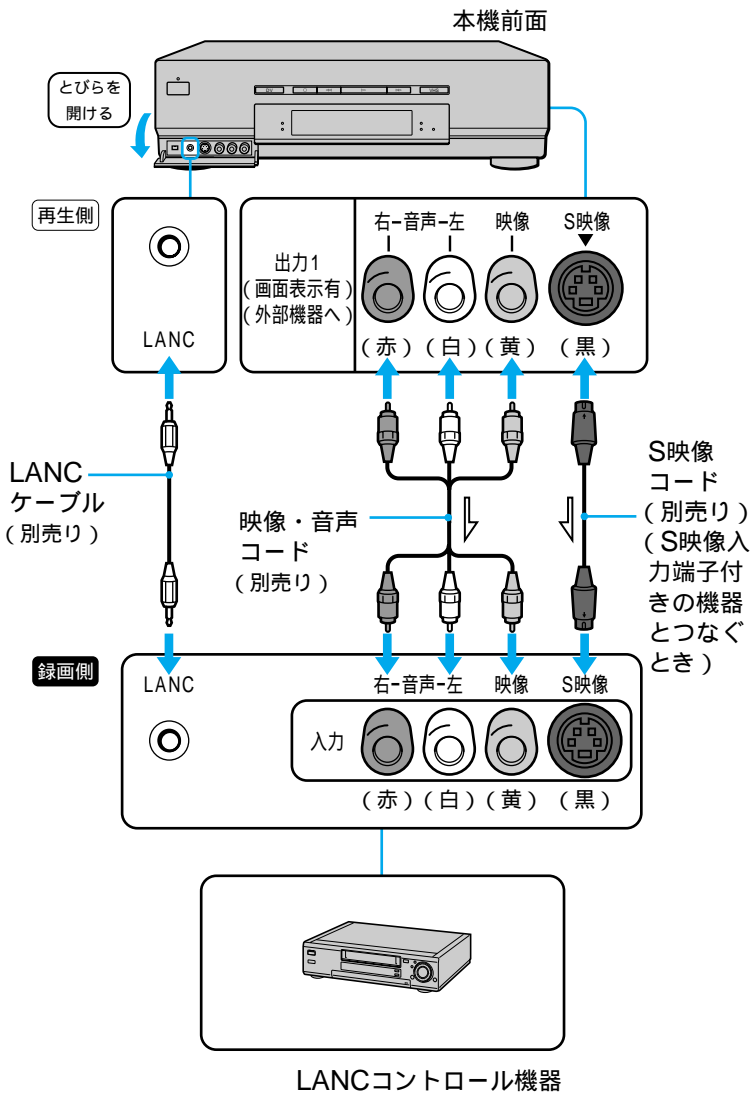
- 本機が再生側で出力2端子につないでいるときは、メニューの「各種設定」の「一般設定」で「自動画面表示」を「切」にしておいてください（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
- 本機のDVデッキが再生側で、DV入力/出力端子につないだとき、ダビング・編集中（DVテープの再生中）に、ビデオ本体の表示窓に「DV出力」表示が点灯します。

ご注意

- テープの頭からダビングすると、始めの数秒は映像や音声が欠けることがあります。
  テープの頭に数秒間の無信号部分を記録してから録画を始めると、これを避けられます。
- 編集したテープを再生すると、場面のつなぎ目で画像が乱れることがあります。

LANCコントロール機能のある機器とつなぐ

LANCコントロール機能のある機器で、本機を制御して編集することができます。
操作については、LANCコントロール機能のある機器の取扱説明書をご覧ください。

DV入力/出力端子のあるLANCコントロール機器と接続するとき

DV入力/出力端子のないLANCコントロール機器と接続するとき（本機で再生するとき）

編集に使うデッキを選ぶ

本機の出力1 切換スイッチで、編集に使うデッキ（「DV」または「VHS」）を選びます。「ノーマル」にすると、正しく編集することができません。

ご注意

- 本機にはLANCコントロール機能はありません。したがって本機で他機をコントロールすることはできません。
- LANCケーブルを接続する時または、はずす時は、本機の電源を入れた状態で行ってください。電源が切れた状態で接続すると、電源が入ることがあります。
- 編集が終わったら、LANCケーブルをはずしてください。LANCケーブルを接続すると、デッキの選択ができません。
- 本機は、次のソニー製ビデオ編集コントローラーには対応しておりません。これらの機器とつないでプログラム編集をすると、正常な編集ができないことがあります。
  - ーRM-E80
  - ーRM-E100
  - ーRM-E100V
  - ーRM-E200
  - ーRM-E500

その他

ここでは、本機をご使用になる上でのご注意や、本機が正常に動かないときに解決する方法などについて説明します。
また、各部のなまえや索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

使えるテープと再生・録画方式について

使用できるカセットについて

DVデッキでは、DV規格対応の DV、Mini DV マークのついたカセットをお使いください。ミニDVカセットを入れると、ビデオ本体の表示窓に「Mini」表示が出ます。
VHSデッキはVHS方式です。VHS方式は、VHSテープもS-VHSテープも使えますが、S-VHS方式で録画することはできません。

再生について

DVデッキでは、録画済みテープの録画モード（SP/LP）を自動判別して再生します。
VHSデッキでは、録画済みテープの録画モード（標準/3倍）を自動判別して再生します。S-VHS方式で録画したテープも再生できますが、S-VHS本来の解像度は得られません（簡易再生）。

ご注意

- 日本と違うカラーテレビ方式の外国製ビデオソフトは再生できません。
- S-VHS方式で録画したテープをスローなど変速再生すると画像が乱れることがあります。
- S-VHS ET方式で録画したテープを再生すると、ノイズが出ることがあります。

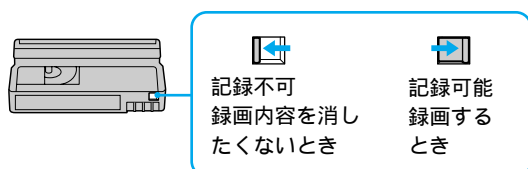
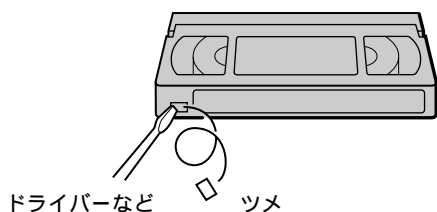
次のページにつづく

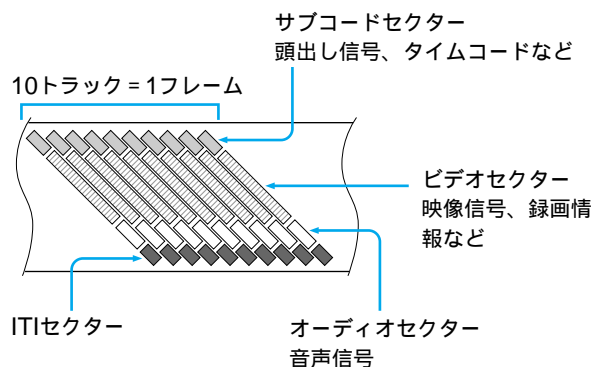
使えるテープと再生・録画方式について（つづき）

録画について

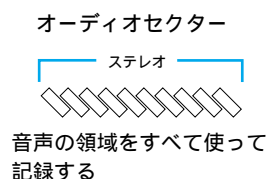
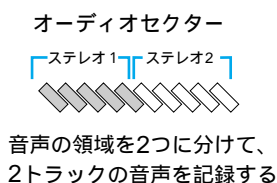
VHSデッキでは、VHSテープもS-VHSもVHS方式で録画されます。

ちょっと一言

- DVテープのLPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすため、ソニー製のMaster（マスター）DVテープをおすすめします。
- DVテープの録画内容を消したくないときは、カセットの背にある誤消去防止つまみを横にずらして記録不可にします。再び録画するときは、誤消去防止つまみを戻してください。

- VHSテープの録画内容を消したくないときは、ツメを折って取ります。再び録画するときは、セロハンテープなどでふさいでください。

DV方式の記録について

DVデッキでは、テープに次のように録画します。

音声記録モードについて

DVデッキで録画するとき、音声は次のいずれかの方式で記録されます。

- 16ビットモード
  DAT（デジタル・オーディオ・テープ）と同等の音質で記録できます。本機のチューナーでテレビやBS放送を録画するときは、音声は常に16ビットで記録されます。

- 12ビットモード
  ステレオ1/ステレオ2の2トラックで音声を記録できます。アフレコする場合に、このモードを使用します。ただし、本機ではアフレコできません。

本機の入力端子につないだ機器からDVデッキで録画するとき、音声記録モードを選ぶことができます。音声記録モードは、メニューの「各種設定」の「DV設定」で「入力の音声記録」を設定します（☛別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。

カセットメモリーについて

DVカセットおよびミニDVカセットには、カセットメモリー（CM マーク）の付いているものがあります。カセットメモリーには、各番組の録画日時とテープ上の位置が記録され、番組の頭出しに利用できます。カセットのCM 4Kマーク表示は、4キロビットまでメモリーができることを示します。なお、本機は16キロビットのカセットまで対応しています。

ご注意

- 海外の放送方式の異なるデジタルビデオとの互換性はありません。
- これらは登録商標です。
  DV、Mini DV、CM

i.LINK機器で対応できる信号の種類

i.LINK機器はそれぞれに対応する映像・音声・データ信号、コントロール信号のみを送受信して映像・音声・データを記録・再生したり、コントロールを行ったりすることができます。対応していない信号を受けた場合は、接続されている他の機器へ信号をそのまま転送します。
本機はDV機器のDVC-SD信号に対応しています。

カテゴリー	映像・音声・データ信号
DV機器（本機）	DVC-SD
デジタルCSチューナー	放送用MPEG2（MPEG-TS） Audio & Music
D-VHS	放送用MPEG2（MPEG-TS）
MD	Audio & Music

使用上のご注意

ヘッドのお手入れ－きれいな画像にするために

次のような症状が出たら、ヘッドが汚れています。すぐに乾式クリーニングカセットで、ヘッドをクリーニングしてください。

- DV用：付属のクリーニングカセットまたは、
  別売りのDVM12CLD、DV12CLDなど
- VHS用：別売りのT-25CLD、T-25CLDRなど

クリーニングカセットは、お買い上げ店やお近くのソニーショップでお求めください。

DVのビデオヘッドが汚れたとき

- 画像にモザイク状のノイズが見られる。
- 正常に録画されなくなる。

汚れはじめたとき　　汚れがひどいとき

VHSのビデオヘッドが汚れたとき

- 画像がザラついたり、不鮮明になる。
- 「クリーニングカセットでクリーニングしてください」と画面に表示される。

汚れはじめたとき　→　汚れがひどいとき

ヘッドを良い状態で維持するには

- レンタルテープをお使いになったときは、ヘッドを10秒間クリーニングしてください。
- 約20時間使ったら、ヘッドを10秒間クリーニングしてください。

ご注意

- クリーニングカセットをお使いになるときは、クリーニングカセットの取扱説明書をご覧ください。
- クリーニングしても正常な画像に戻らないときは、繰り返しヘッドをクリーニングします。ただし、5回以上繰り返さないでください。それでも正常にならないときは、テープの録画状態がよくないか、ヘッドの摩耗が考えられます。別のテープを再生しても正常な画像が出ないときは、ヘッド交換が必要なため、お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
- ソニー製湿式クリーニングカセット（VHS用：T-25CLW）以外の湿式のクリーニングカセットは使わないでください。故障の原因になることがあります。
- ソニー製湿式クリーニングカセット（VHS用：T-25CLW）は、定期的なクリーニングでのご使用をおすすめします。

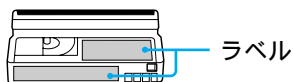
次のページにつづく

ビデオテープについて

- 落としたり、強い振動、ショックを与えないでください。
- ムラなく巻き取り、ケースに入れて立てて保管してください。
- ご使用後のテープは、所定のケースに入れ、高温多湿、磁気、直射日光、熱器具の近く、チリ、ホコリの多い場所およびカビの発生しやすい場所をさけて保管してください。
- 磁気を持ったものを近づけないでください。大切な記録が損なわれることがあります。
- 冷えた場所から暖かい場所に移すと、テープに水滴がつくことがあります。カビが生えたり、ビデオヘッドを傷める原因になりますので、乾燥するまで使用しないでください。

DVテープについて

- **端子のクリーニング**
  DVテープおよびミニDVテープの金メッキ端子が汚れたりゴミが付着したりすると、カセットメモリーサーチ機能などが正しく働かないことがあります。カセット取り出し回数10数回を目安にして、綿棒でテープの金メッキ端子をクリーニングしてください。

- DV**テープにラベルを貼るときは**
  下図の場所以外には、絶対に貼らないでください。故障の原因となります。

- DV**テープの使用後は**
  ご使用後はテープを始めまで巻き戻して、ケースに入れた上で立てて保管するようにしてください。巻き戻さないまま放置すると、画像や音声が乱れる原因となることがあります。

結露（露つき）について

部屋の暖房を入れた直後など、本機内部のドラムやテープに水滴がつくことがあります。これを結露（露つき）といいます。そのままにしておくと、テープがドラムに貼りついて本機の故障やテープを傷める原因となります。
結露が起こると、ビデオ本体の表示が点滅して、本機はまったく動作しなくなったり、カセットが自動的に出てきたりします。

結露が起きたときは

電源を入れたまま1時間以上放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

テープの結露が起きたときは

テープが結露すると、カビが生えたり、ビデオヘッドを傷める原因となります。このときは乾燥するまでテープは使用しないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

電源

電源が入っているのに操作できない。	→ 結露（露つき）が起きている。電源を入れたまま、ビデオ本体の▣表示が消えるまで（1時間以上）待つ。
電源が入らない。	→ 電源プラグをコンセントからはずす。約1分後、もう1度コンセントに電源プラグを差し込み、電源を入れる。 → 両方のデッキに予約が入っているときは、予約録画入/切ボタンまたはシンクロ録画ボタン以外は働かない。
ビデオで受信しているテレビ放送を見ていたら、電源が切れた。	→ 予約録画が終ったため、自動的に電源が切れた。電源スイッチを押して、電源を入れる。 → メニューの「一般設定」の「自動電源切り」が「2時間」または「6時間」に設定されていたため、自動的に電源が切れた（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。電源スイッチを押して、電源を入れる。

カセット

カセットが入らない。	→ 電源プラグをコンセントに差し込む。 → テープの見える面を上にして入れる。 → 他のカセットが入っている。カセット取出し⏏ボタンを押して取り出す。 → 結露が起きている。電源を入れたまま、ビデオ本体の▣表示が消えるまで（1時間以上）待つ。

画像

ビデオの画像が映らない。	→ テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。または、テレビのチャンネルを1または2（放送のないほう）にし、テレビ/ビデオボタンを押して、ビデオ本体の「ビデオ」表示を点灯させる。 → メニューが出ている。メニュー/予約ボタンを押して消す。 → 予約画面が出ている。メニュー/予約ボタンを押す。 → テープに何も記録されていない。 → お帰りなサーチ画面またはマイテープメモリー画面が出ている。お帰りなサーチボタンを押す（VHSのみ）。
DVまたはVHSどちらか一方の画像しか映らない。	→ ビデオ本体の出力1 切換スイッチを「ノーマル」にする。 → テレビを出力2端子につなぐ。 → LANC端子にLANCケーブルがつながれている。LANCケーブルをはずす。
再生した画像がチラつく、汚ない、モザイク状のノイズが出る。	→ トラッキングがずれている（VHSのみ）。トラッキング＋/－ボタンで調整する（☞34ページ）。 → ビデオヘッドが汚れている。ソニーのクリーニングカセットでヘッドをクリーニングする（☞73ページ）。 → テープに傷がある。 → 他機のLPモードで録画したテープを再生した。 → DV規格対応以外のDVテープを再生した（☞71ページ）。
ビデオで受信しているテレビ放送が映らない。	→ アンテナやテレビを正しくつなぐ（☞別冊「接続と準備」の「手順**3**：アンテナとテレビにつなぐ」）。 → メニューの「TVチャンネル合わせ」でチャンネルを合わせる（☞別冊「接続と準備」の「手順**7**：チャンネルを自動で合わせる」）。 → 外部入力になっている（ビデオ本体の表示窓に「L1」、「L2」または「DV」が表示されている）。ビデオチャンネル＋/－ボタンを押して、テレビのチャンネルを表示させる。
ビデオで受信しているテレビ放送の画像が汚い。	→ 電波が弱い。別売りアンテナブースターで電波を増幅する。 → アンテナの向きを調節する。 → 画像を微調整する（☞別冊「接続と準備」の「受信状態を調整する」）。 → 本機とテレビを離して設置する。 → 本機から離してアンテナ線をたばねる。
BSが映らない。	→ BSアンテナやBSデコーダーを正しくつなぐ（☞別冊「接続と準備」の「手順**3**：アンテナとテレビにつなぐ」、「手順**4**：BSアンテナをつなぐ」、「デコーダーやケーブルテレビなどをつなぐ」）。 → BSアンテナの向きを調節する（☞別冊「接続と準備」の「手順**4**：BSアンテナをつなぐ」）。 → BSアンテナのごみや雪を取り除く。 → メニューの「BSチャンネル設定」で、受信するチャンネルを「自動」にする（☞別冊「接続と準備」の「不要なチャンネルをとばす」）。

故障かな？と思ったら（つづき）

WOWOWが映らない。	→ 受信契約をして、BSデコーダーを正しくつなぐ（☞別冊「接続と準備」の「デコーダーやケーブルテレビをつなぐ」）。 → BSデコーダーの電源を入れる。 → メニューの「BSチャンネル設定」で、受信するチャンネルを「自動」または「デコーダー」にする（☞別冊「接続と準備」の「不要なチャンネルをとばす」）。
テレビのチャンネルを変えられない。	→ テレビを「テレビ」の入力に切り換える。または、本機のテレビ/ビデオボタンを押して、ビデオ本体の「ビデオ」表示を消す。 → アンテナ線を正しく接続する（☞別冊「接続と準備」の「手順**3**：アンテナとテレビにつなぐ」）。接続が終わったら、チャンネル合わせをする（☞別冊「接続と準備」の「手順**7**：チャンネルを自動で合わせる」）。
本機の入力端子につないだ機器の画像が映らない。	→ ビデオチャンネル＋/－ボタンを押して、入力1端子につないでいるときは「L1」を、入力2端子につないでいるときは「L2」をビデオ本体の表示窓に出す。i.DV入力/出力端子につないでいるときは「DV」を出す（DVのみ）。 → S映像端子を使って本機の入力1端子につないだ場合は、メニューの「各種設定」の「一般設定」で「映像入力1」を「S映像」にする。S映像端子を使っていなければ「映像」にする（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。
本機につないだ他機で再生・受信している画像がゆがむ。	→ DVDプレーヤーやビデオデッキなどで再生しているソフトや、デジタルCSチューナーなどで受信している信号に、著作権保護のための信号が含まれている。プレーヤーやチューナーなどの機器を本機からはずして、テレビに直接つなぐ。

音声

DVテープの音声が聞こえない。	→ メニューの「各種設定」の「DV設定」で「音声ミックス調整」が「ステレオ2」に設定されている。「ステレオ1」にする（☞31ページ）。
再生時に音声が途切れる。	→ テープに傷がある。 → 他機のLPモードで録画したテープを再生した。
2つの音が混ざって聞こえる。	→ 音声切換ボタンを押す。 → メニューの「各種設定」の「VHS設定」で「音声ミックス」を「切」にする(☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」)。 → メニューの「各種設定」の「DV設定」で「音声ミックス調整」が「ステレオ1」または「ステレオ2」以外に設定されている。「ステレオ1」または「ステレオ2」にする（☞31ページ）。
ステレオ放送を録画したテープがモノラルで聞こえる。	→ モノラル音声が選ばれている。音声切換ボタンを押してステレオ音声を選ぶ。 → モノラルビデオで録画したテープは、常にモノラル音声になる。 → テレビとビデオをアンテナ線だけでつないでいる。映像・音声入力端子付きテレビのときは、映像・音声コードもつなぐ。 → 録画するときにメニューの「各種設定」の「一般設定」で「自動ステレオ受信」を「入」にしておく（☞別冊「接続と準備」の「お買い上げ時の設定を変える」）。 → 電波が弱いためモノラルで録画されていた。アンテナの向きを調節するか、別売りのアンテナブースターで電波を増幅する。

録画・予約・編集

症状	原因・対処
録画ボタンを押すと、カセットが出てくる。	→ カセットが録画できない状態になっている。録画したいときは録画できる状態にする（☞72ページ）。
おまかせダビングボタンを押すと、カセットが出てくる。	→ カセットが録画できない状態になっている。ダビングしたいときは録画できる状態にする（☞72ページ）。 → 市販のビデオソフト/レンタルビデオはダビングできません。
録画中に操作ボタンが働かない。録画を停止できない。	→ クイックタイマーが設定されている。予約録画入/切ボタンを押して、設定を解除する。
裏番組録画中、テレビでチャンネルを変えられない。	→ テレビを「テレビ」の入力に切り換える。または、本機のテレビ/ビデオボタンを押して、ビデオ本体の「ビデオ」表示を消す。
予約したのに録画されていない。	→ 予約待機中に1時間以上の停電があり、時計が止まったため。時計を合わせ直す（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。 → 著作権保護のための信号が含まれているものを予約していた（DVのみ）。
予約した内容が途中で切れている。	→ 予約録画中に停電が起きて電源が切れたため。1時間以内に停電が回復すれば時計は止まらず、回復時から終了時刻まで録画される。1時間以上の停電で時計が止まったときは、時計を合わせ直す（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。 → 予約が重なっていた（☞19ページ）。 → プロ野球中継など前の番組が延長されたため。
デッキの選択ができない。	→ LANC端子にLANCケーブルがつながれている。LANCケーブルをはずす。
予約した内容が途中から始まっている。	→ 予約録画が始まる前に停電があり、回復時から録画が行われたため。
クイックタイマーが途中で終わっている。/途中が抜けている。	→ クイックタイマー録画中に停電が起きて電源が切れたため。停電すると時間だけが減り続ける。1時間以内に停電が回復すれば時間は止まらず、回復時から残り時間が録画される。1時間以上の停電で時計が止まったときは、時計を合わせ直す（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。

Gコード

症状	原因・対処
Gコードが入力できない。予約内容が違う。	→ 間違ったGコードが入力されている。正しいGコードを入力する。 → 日付がずれている。日付・時計を正しく合わせる（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。 → 間違った地域番号が設定されている。正しい地域番号を設定する（☞別冊「接続と準備」の「手順**9**：Gコードの設定をする」）。 → 受信している放送局が登録されていない。チャンネルを追加する（☞別冊「接続と準備」の「不要なチャンネルをとばす」）。 → ケーブルテレビ（CATV）は、Gコードで予約できないことがある。時刻指定予約をする。

デジタルCSチューナーからの録画

症状	原因・対処
シンクロ録画予約したのに録画されていない。	→ シンクロ録画予約待機中に停電があり、シンクロ録画ランプが消灯したため。 → デジタルCSチューナーの電源を切り忘れたため。デジタルCSチューナーの電源を切ってからシンクロ録画予約待機にする（☞42ページ）。
シンクロ録画予約した内容が途中で切れている。	→ シンクロ録画中に停電が起きて電源が切れたため。
デジタルCSチューナーの電源を入れると、本機が自動的に録画を始めてしまう。	→ デジタルCSシンクロ録画機能が働いている。ビデオ本体のシンクロ録画ボタンを押して、シンクロ録画ランプを消灯させる（☞43ページ）。

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

表示

メニューや画面表示が画面に出ない。

- → テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。または、テレビのチャンネルを1または2（放送のないほう）にする。
- → テレビの入力端子に本機の出力2端子をつなぐ。
- → ビデオ本体の出力1 切換スイッチを「ノーマル」にする。

ビデオ本体のカセット表示が点滅する。

- → 予約待機中で、テープが終わりまで進んでいるため。テープを巻き戻し、予約録画入/切ボタンを押す。
- → 予約待機中で、カセットが入っていない。カセットを入れ、予約録画入/切ボタンを押す。

ビデオ本体のテープカウンターが動かない。

- → 録画されていない部分は動かない。
- → 早送り、巻き戻しの加減速中は、表示が止まることがある（DVのみ）。

テープカウンターやタイムコードが連続して表示されない（DVのみ）。

- → 本機はドロップフレーム方式（☞89ページ）を採用しているため、29フレームから02フレームに飛ぶことがある。
- → 録画されていない部分がある。
- → ヘッドが汚れている。
- → 早送り、巻き戻しの加減速中は、表示が止まることがある。
- → 他機のLPモードで録画したテープを再生した。

ビデオ本体に「－：－－」表示が点灯している。

- → 時計を合わせる（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。
- → 1時間以上の停電で時計が止まっている。時計を合わせ直す（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。

お帰りなサーチ画面が表示されない（VHSのみ）。

- → 1時間以上の停電があり、お帰りなサーチの記録が消えたため。
- → カセットを取り出したため。
- → 時計を合わせる（☞別冊「接続と準備」の「手順**8**：時計を合わせる」）。

ビデオ本体に💧表示が出ている。

- → 自己診断機能が働いている。「自己診断表示」（☞79ページ）にしたがって対応する。

ビデオ本体の予約録画ランプが、予約待機中または予約録画中なのに消えている。

- → 予約録画中にテープが終わりまで進んだため。続けて録画する場合は、録画するテープを入れ、予約録画入/切ボタンを押す。

ビデオ本体のシンクロ録画ランプが、シンクロ録画予約待機中またはシンクロ録画中なのに消えている。

- → シンクロ録画中にテープが終わりまで進んだため。続けて録画する場合は、録画するテープを入れ、シンクロ録画ボタンを押す。

リモコン

リモコンが働かない。

- → 乾電池が消耗している（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
- → 乾電池が入っていない（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
- → 本体の電源を入れる。
- → リモコンを本体に向けて操作する（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
- → ビデオ本体とリモコンのリモコンモードが違っている。同じリモコンモードにする（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
- → 両方のデッキに予約が入っているときは、予約録画入/切ボタンまたはシンクロ録画ボタン以外は働かない。
- → 乾電池を交換すると、リモコンのリモコンモードおよびテレビメーカー設定はお買い上げ時の設定に戻る。リモコンのリモコンモードおよびメーカー番号を合わせ直す（☞別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」、「リモコンで各社のテレビを操作する」）。
- → シンクロ録画ランプが点灯しているときは、デジタルCSシンクロ録画機能が働いている（本体のボタンも働かない）。ビデオ本体のシンクロ録画ボタンを押して、シンクロ録画ランプを消灯させる（☞43ページ）。

本機のリモコンで操作したら、本機と他のソニーのビデオが同時に動いてしまった。	➔ 本機と他機のリモコンモードが同じになっている。本機のリモコンモードを変える（☛別冊「接続と準備」の「手順**2**：リモコンを準備する」）。
リモコンの数字ボタンでチャンネルを選ぶことができない。	➔ チャンネルは、チャンネル＋/－ボタンで選ぶ。数字ボタンはタイマー予約やGコード予約をするときに使う。

自己診断表示

（アルファベットや数字で始まる表示、◙表示が出たら）

本機には自己診断表示機能がついています。これは本機が正しく動作していないときに、ビデオ本体の表示窓に数字とアルファベットの2桁または5桁の表示、または◙表示を出してお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。
詳しくは以下の表をご覧になり、各表示にあった対応をしてください。
表示の「□□」に入る数字またはアルファベットは、本機の状態によって変わります。

表示	原因と対応のしかた
◙	結露（露つき）が起きている。電源を入れたまま、ビデオ本体の◙表示が消えるまで（1時間以上）待つ。
□□ □□□□□	本機が正しく動作していない。カセットを入れ直し、再度操作し直す。

正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。その際は、表示をお知らせください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が、添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではビデオデッキの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

●型名：WV-DR5

●故障の状態：できるだけ詳しく

●購入年月日：

主な仕様

システム

録画方式
DV ：DV方式（民生用デジタルVCR・SD仕様）
VHS：回転2ヘッドヘリカルスキャンＦＭ方式

録音方式
DV：DV方式（民生用デジタルVCR・SD仕様）
VHS：回転2ヘッドハイファイステレオ方式（VHS従来音声トラックはモノラル録音）

映像信号
NTSCカラー、EIA標準方式

映像量子化（DV）
8ビット

映像標本化周波数（DV）
13.5MHz（4:1:1コンポーネント）

音声量子化（DV）
16ビット（直線）または12ビット（非直線）

音声標本化周波数（DV）
48kHz（16ビット録音時）または32kHz（12ビット録音時）

テープ速度
DV：18.8mm/秒（SP）
12.5mm/秒（LP）
VHS：33.4mm/秒（標準）、
11.1mm/秒（3倍）

使用可能テープ
DV：DV方式、ミニDV方式のビデオカセットテープ
VHS：S-VHS、VHS方式のビデオカセットテープ

最大録画時間
DV（DV270使用時）：4時間30分（SP）、6時間45分（LP）
VHS（T-180使用時）：3時間（標準）、9時間（3倍）

早送り・巻き戻し時間
DV：約1分30秒（DV120使用時）
VHS：約1分（T-120使用時）

映像受信方式
周波数シンセサイザー方式

音声受信方式
インターキャリア方式

受信チャンネル
VHF：1～12チャンネル
UHF：13～62チャンネル
CATV：C13～C35チャンネル
BS：1、3、5、7、9、11、13、15チャンネル

入・出力端子

アンテナ入出力	VHF/UHF1軸、 75Ω F型コネクター BS-IF：75Ω F型コネクター （コンバーター用電源出力DC15V最大4W）、 芯線側＋、入/切スイッチ付き （本体電源スイッチと非連動）
映像入力	入力1/入力2/デコーダー入力の3系統、ピンジャック、 1Vp-p（75Ω不平衡）
映像出力	出力1/出力2の2系統、 ピンジャック、 1Vp-p（75Ω不平衡）
S映像入力	入力1/入力2の2系統、4ピンミニDIN、1Vp-p（75Ω不平衡） 色信号：0.286Vp-p （75Ω不平衡）
S映像出力	出力1/出力2の2系統、4ピンミニDIN、1Vp-p（75Ω不平衡） 色信号：0.286Vp-p （75Ω不平衡）
音声入力	入力1/入力2/デコーダー入力の3系統、ピンジャック（左、右） 入力レベル：327mVrms （入力インピーダンス：47kΩ以上）
音声出力	出力1/出力2の2系統、ピンジャック（左、右） 出力レベル：327mVrms （出力インピーダンス：10kΩ以下）
i.DV入出力	4ピンジャック
検波入力	ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
検波出力	ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
ビットストリーム入力	ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
ビットストリーム出力	ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
AFC入力	ピンジャック、75Ω

電源部・その他

電源部	AC100V、50/60Hz
消費電力	44W（コンバーター用電源「切」時）、 7.4W（電源「切」時）
補助電源コンセント	連動/非連動（最大200W）
時計方式	クォーツクロック、12時間デジタル表示
停電補償時間	1回　約1時間以内
許容動作温度	5℃～ 40℃
許容保存温度	－20℃ ～ 60℃
最大外形寸法	幅 430×高さ 119 ×奥行き 395mm （最大突起含む）
本体質量	約 8.4kg
付属リモコン	RMT-V289B 電源：DC 3V 単3形（R6）乾電池2個付属
付属品	電源コード（1） F型コネクター付き同軸ケーブル（1） 映像・音声コード（1） S映像コード（1） DV用クリーニングカセット（1） 取扱説明書（1） 接続と準備（1） 安全のために（1） ソニーご相談窓口のご案内（1） 保証書（1）

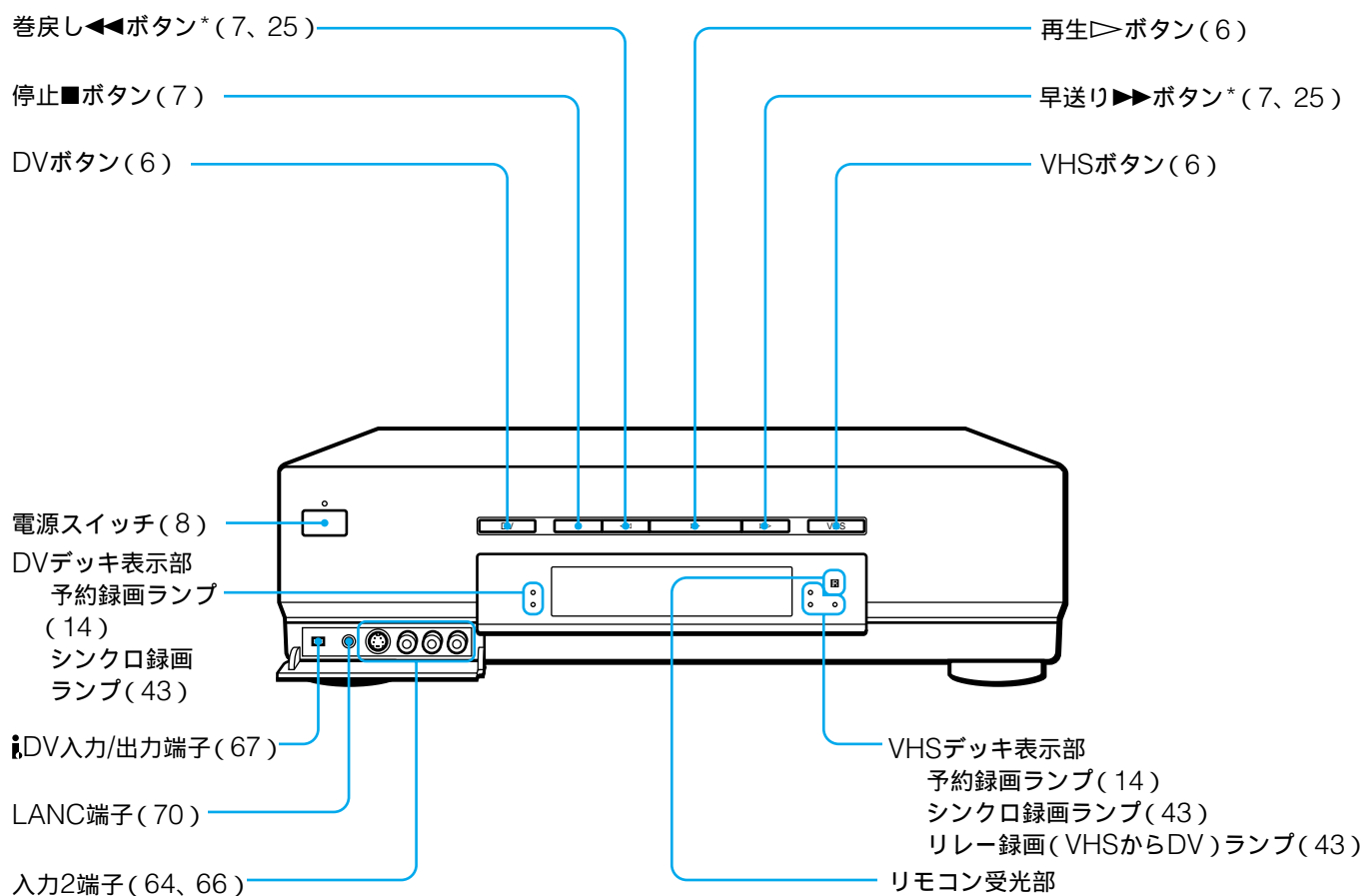
本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部のなまえ

各部の説明は（　）内のページをご覧ください。

本体

本体のボタンはリモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。ただし、＊のボタンはリモコンの働きのすべてには対応していません。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

前面

前面（とびらを開けたとき）

予約録画（入/切）ボタン（14）

シンクロ録画ボタン（43）

標準/3倍・SP/LPボタン（11）

リモコンモードボタン

録画●ボタン（11）

DVボタン（6）

VHSボタン（6）

ジョグボタン（27）

早送り▶▶/⏩
ボタン（7）

クリックジョグ/
シャトル（26、27）

再生▷ボタン（6）

電源スイッチ（8）

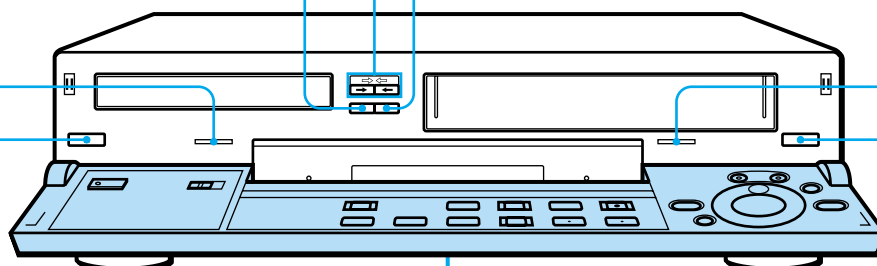
停止■ボタン（7）

出力1 切換スイッチ（62）

一時停止❚❚ボタン（7）

巻戻し◀◀/⏪ボタン（7）

VHS R²ボタン（35）

チャンネル＋/－ボタン（8）・
VHS トラッキング＋/－ボタン（34）

カウンター/残量ボタン（33）

カウンターリセットボタン（33）

入力切換ボタン（9）

次のページにつづく

後面

AFC入力端子
ビットストリーム入出力端子
検波入出力端子
デコーダー入力端子
入力1端子（61）
コンバーター用
電源スイッチ
BS-IF入出力端子
電源コンセント
チャンネル切換スイッチ
VHF/UHF入出力端子
出力1端子（61、67、70）
電源入力端子
出力2端子

本体表示窓

その他

次のページにつづく

各部のなまえ（つづき）

リモコン

リモコンのボタンは本体の同じ名前のボタンと同じ働きをします。ただし、＊のボタンは本体にはない機能があります。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

ふたを開けたとき

次のページにつづく

リモコン表示窓

Gコード表示（16）
標準/3倍表示（13）
SP/LP表示（13）
リモコンモード表示
バッテリー消耗表示
CMカット表示（40）
転送表示（13）
毎週日
月火水
木金土
VTR
1 2 3
4 5 6
標準 3倍
SP LP
Gコード
転送
入力
BS
年
日
午前月午後 日から 午前午後 まで チャンネル
予約録画（日付/開始時刻/終了時刻/チャンネル）表示
（13）/Gコード番号表示（16）

用語解説

五十音順

カ行

ガイドチャンネル
ジェムスター社が各放送局に割り当てている識別番号です。

結露（露つき）
暖房を入れて室温が急に上がったときなどに、本機のドラムやテープに水滴が付くことです。テープがドラムに貼り付いて故障の原因になります。電源を入れたままビデオ本体の表示が消えるまで1時間以上待ってください。

検波
放送衛星から送られてくるFM電波を復調することです。

サ行

受信チャンネル
ビデオが放送局を受信したときのチャンネルです。通常は新聞や雑誌のテレビ欄に掲載されている各放送局の番号と同じです。本機では、チャンネルの設定を自動で行ったときに設定されます。

タ行

タイムコード
DVデッキで、テープ上の位置を映像とともに時・分・秒・フレーム（1フレーム＝約1/30秒）単位で記録する機能です。1フレームが映像の1コマに対応しており、テープ上の位置の正確なカウンターとして使えます。なお、本機ではドロップフレーム方式を採用しています。

デジタルCS放送
通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することにより、大量の情報を扱うことができます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音声で楽しむことができます。デジタルCS放送を受信するには、専用のチューナーとアンテナが必要です。

CSはCommunication Satellite（コミュニケーション・サテライト）の略です。

トラッキング
テープに記録された信号をなぞって読みとるようにすることです。ずれると再生時に画像がチラついたり、雑音が入ったりします。

ドロップフレーム方式
30フレーム/秒でカウントするタイムコードと、フレーム周期が1/29.97秒のNTSC映像信号との間に起きるずれを自動的に補正する方式です。分の単位が更新されるときに、フレームを02から（分が10の倍数のときは00から）始めることで補正を行っています。

ナ行

ノーマル音声
ハイファイでないVHSビデオで録画・再生するときやアフレコ機能のあるVHSビデオでアフレコするときに使われるモノラル音声です。

ハ行

ハイファイ音声
ハイファイビデオ（本機など）で再生したときに聞こえる高品質なステレオ音声です。

ビットストリーム
放送衛星から送られてくる電波のデジタル信号（音声信号とデータ信号）のことです。データ信号は、文字放送や静止画放送、ファクシミリ放送などが開始したときに送られてくる信号です。

表示チャンネル
ビデオで放送局を選ぶとき表示されるチャンネルです。通常は受信チャンネルと同じですが、変更することができます。

ヘッド
テープに信号を記録したり、テープから信号を読みとる部分です。美しい画像を楽しむために定期的にクリーニングしてください。

ヤ行

予約待機
予約をすると、ビデオ本体の予約録画ランプが点灯して電源が切れます。これが予約待機（予約録画待ち）の状態です。予約した時間になると自動的に録画が行われます。

ラ行

リモコンモードボタン
2台以上のソニーのビデオデッキを使うとき、操作したいデッキだけが反応するようにリモコンの信号を切り換えるボタンです。ビデオ本体とリモコンのリモコンモードが合っていないと、リモコンでは操作できません。

次のページにつづく

アルファベット順

AFC

ハイビジョンの周波数を自動的に調整し、正確に保ちます。
AFCはAutomatic Frequency Control（オートマチック・フレクエンシー・コントロール）の略です。

APC

他機で録画したVHSテープの再生・録画やレンタルビデオの再生を、テープやヘッドの状態を自動的に判断して、最適な画質にします。本機ではメニューの「VHS設定」で「APC」を入/切できます。
APCはAdaptive Picture Control（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）の略です。

BSコンバーター

放送衛星から送られてくる高周波数の電波を、BSチューナーで受信できるよう低周波数に変換する機器です。BSコンバーターは、BSアンテナに内蔵されています。本機とBSアンテナを直接つないだときは、本機のコンバーター用電源で、電源を供給します。

BSデコーダー

民間BS（WOWOWなど）のスクランブルのかかった電波を解読する機器です。

CATV

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送のことです。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

CATVはCable Television（ケーブル・テレビジョン）の略です。

Gコード

一部の新聞や雑誌のテレビ欄で、各番組の末尾にのっている、番組を予約するための番号です。

索引

五十音順

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

アルファベット順

Sony online http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ

フリーダイヤル　0120-88-9374

受け付け時間　午前9時〜午後5時（年末、年始、祝日を除く毎日）

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

- ナビダイヤル……………… 0570-00-3311
  （全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311
- Fax ………………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月〜金
9:00〜20:00
土・日・祝日
9:00〜17:00

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan